

平成 27 年度
福津市都市計画マスタープラン等策定業務
中間報告書

(市民アンケート調査結果)

平成 28 年 3 月

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1-1. 調査の目的	1
1-2. 調査方法	1
第 2 章 調査結果	2
2-1. 回答者の属性	2
2-2. 身近な環境（お住まいの地域）に対する評価	7
2-3. 「都市計画マスタープラン」「国土利用計画」について	21
2-4. 福津市のまちの方向性	39
2-5. 集約型都市構造（コンパクトシティ）	57
2-6. 交通関連の充実度	61
2-7. 土地利用の規制	69

第1章 調査の概要

1-1.調査の目的

本市民アンケート調査は、福津市の都市計画マスタープラン、国土利用計画を策定するにあたり、市民の意識・意向や要望等を把握して計画策定の基礎資料とすることを目的として実施した。

1-2.調査方法

(1) 調査対象

無作為に抽出した20歳以上の福津市民2,000人を対象とした。

(2) 配布・回収方法

郵送法によりアンケートの配布・回収を行った。

(3) 調査期間

調査期間：平成28年1月16日～平成28年2月29日

調査票を平成28年1月15日に発送し、投函の締め切りを平成1月31日とした。回収は2月末まで受け付けた。

(4) 回収状況

2,000通配布し840通回収した。回収率は42.0%である。

地域別回収数と地域別人口の構成比は非常に近い数値となった。

表 3-1 地域別配布数及び回収数

地域	配布数	回収数	回収率
福間南	493	201	40.8%
福間	391	159	40.7%
神興	254	107	42.1%
神興東	246	120	48.8%
上西郷	93	39	41.9%
宮司	237	95	40.1%
津屋崎	250	93	37.2%
勝浦	36	14	38.9%
地区不明	—	12	—
合計	2,000	840	42.0%

表 3-2 地域別回収数と地域別人口

地域	回収数		地域別人口※	
	回収数	構成比	人数	構成比
福間南	201	23.9%	14,305	24.1%
福間	159	18.9%	11,473	19.3%
神興	107	12.7%	7,270	12.2%
神興東	120	14.3%	7,754	13.1%
上西郷	39	4.6%	2,763	4.7%
宮司	95	11.3%	7,090	11.9%
津屋崎	93	11.1%	7,621	12.8%
勝浦	14	1.7%	1,141	1.9%
地区不明	12	1.4%	—	—
合計	840		59,417	

※地域別人口は、平成27年4月現在の住民基本台帳より集計した地域別人口。

第2章 調査結果

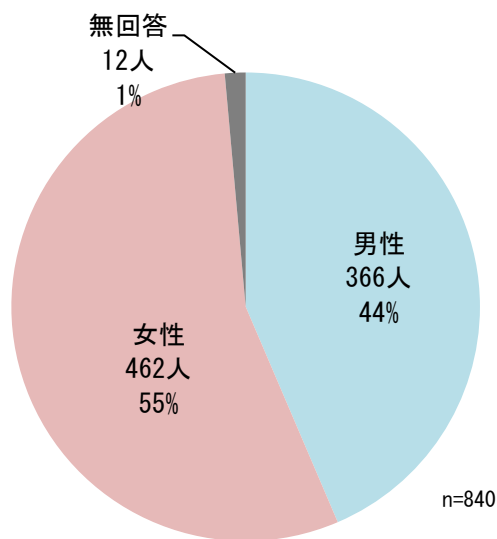
2-1.回答者の属性

設問番号：問1

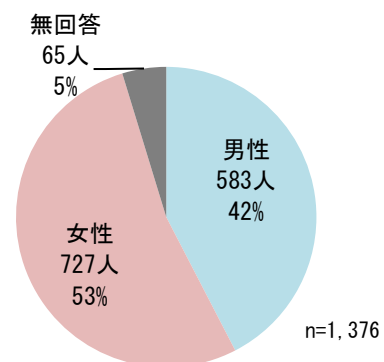
目的：回答者の特性を把握する

解答方法：該当する項目を1つだけ選択する単一解答設問

(1) 性別



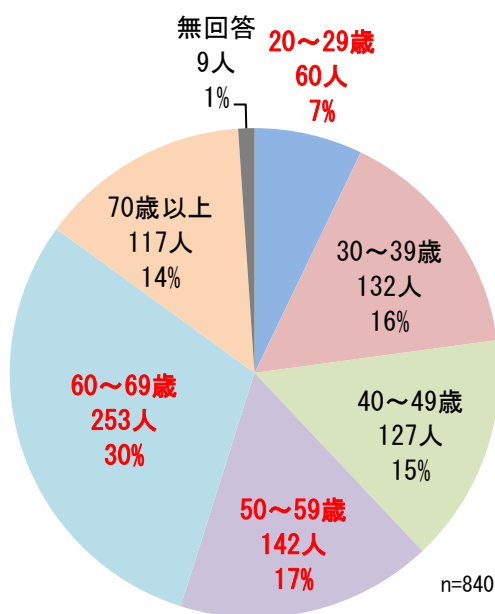
今回 (H27)



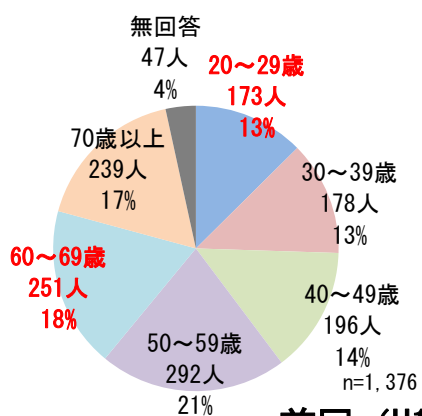
前回 (H17)

- ・女性からの回答が55%と若干多い。
- ・H27年国勢調査による福津市人口の男女比（男性46.3%、女性53.6%）と比較すると、女性の回答が多く、男性の回答が少ない。

(2) 年齢層



今回 (H27)

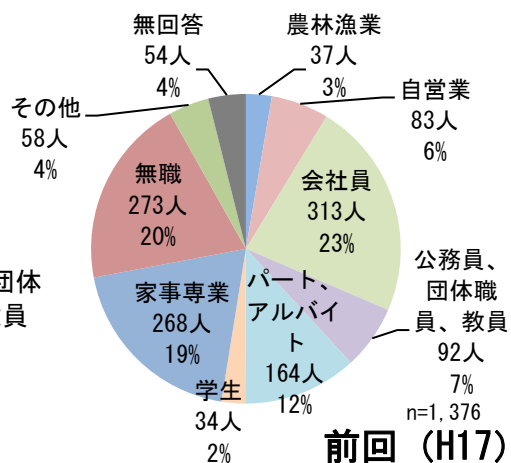
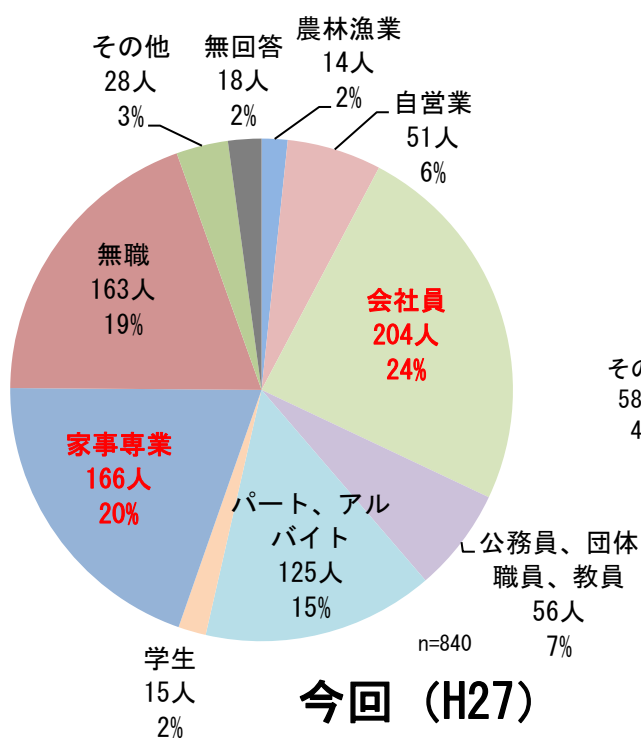


前回 (H17)

- ・60歳代（30%）に次いで、50歳代からの回答が多く、20歳代からの回答が少ない。
- ・前回調査と比較して、20歳代の回答が減少し、60歳代の回答が増加した。
前回は訪問回収、今回は郵送法としたアンケート回収方法の違いによる影響が考えられる。

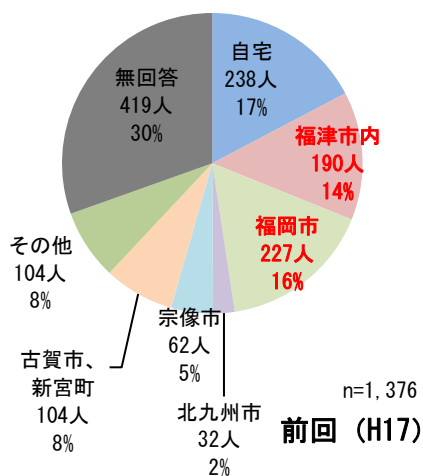
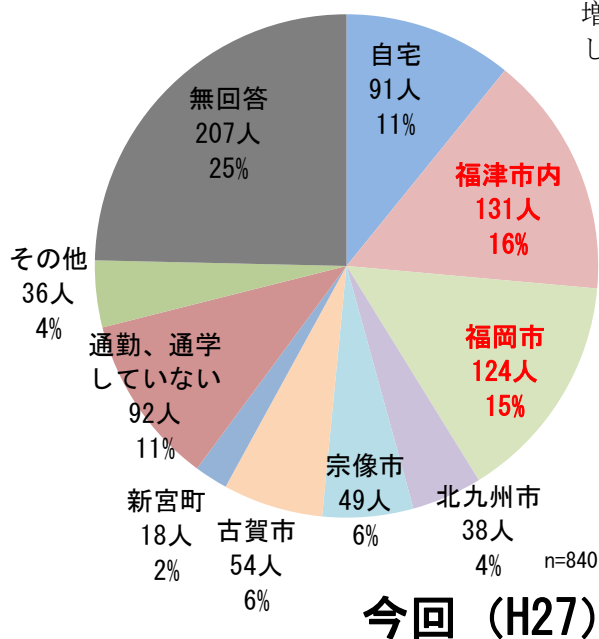
(3) 職業

- ・「会社員」が24%で最も多く、次いで「家事専業」が20%となっている。

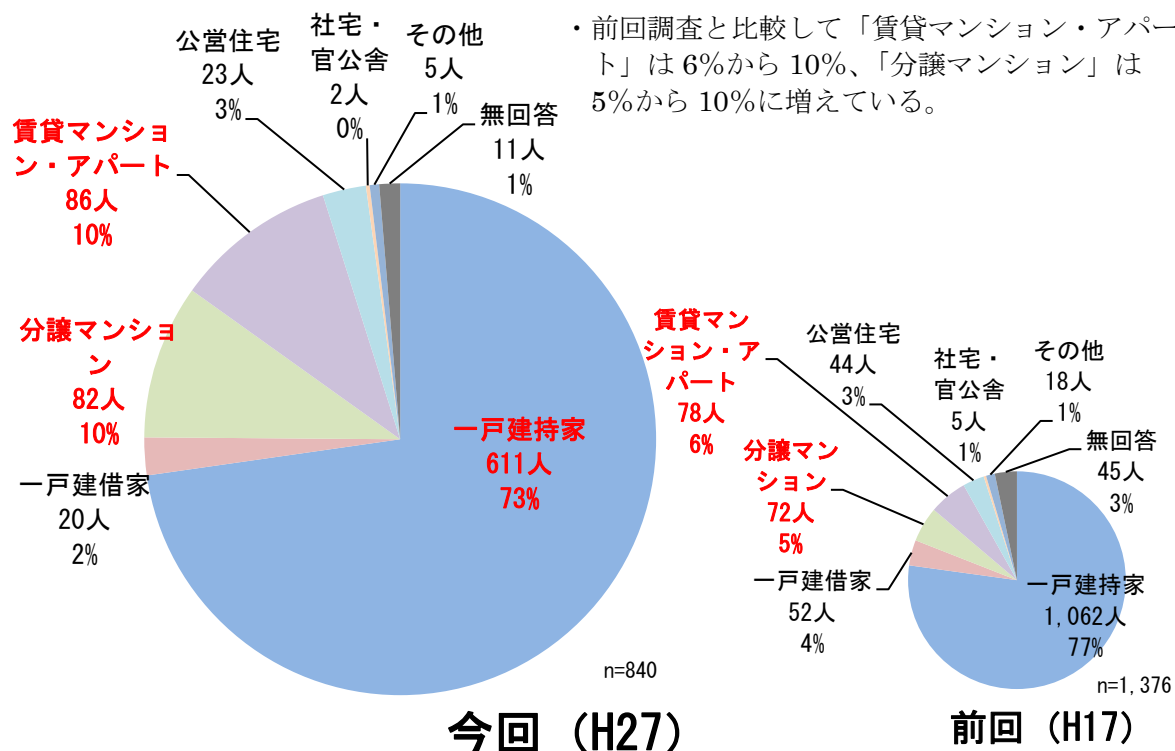


(4) 勤め先、通学先

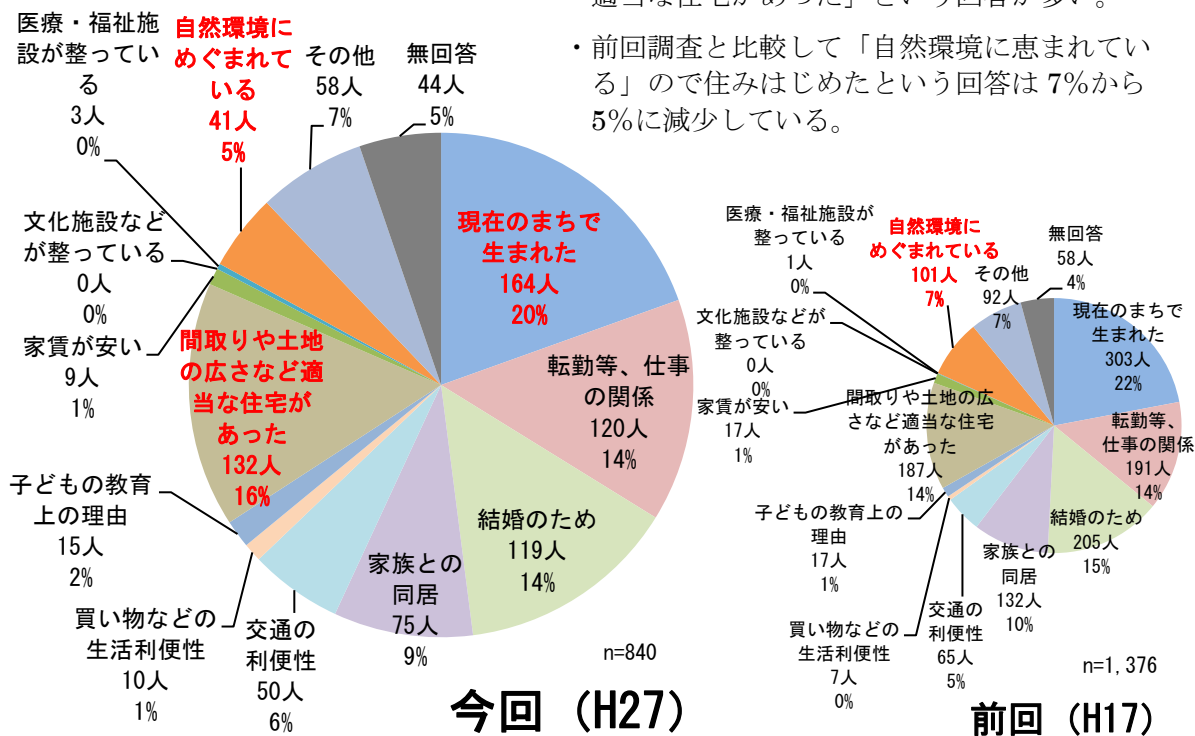
- ・「福津市内」が16%で最も多く、次いで「福岡市」が15%、「自宅」が11%となっている。
- ・前回調査より、「福津市内」が14%から16%に増加し、「福岡市内」が16%から15%に減少している。



(5) 居住形態

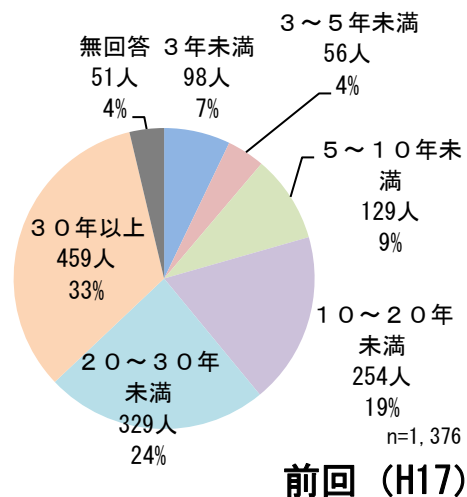
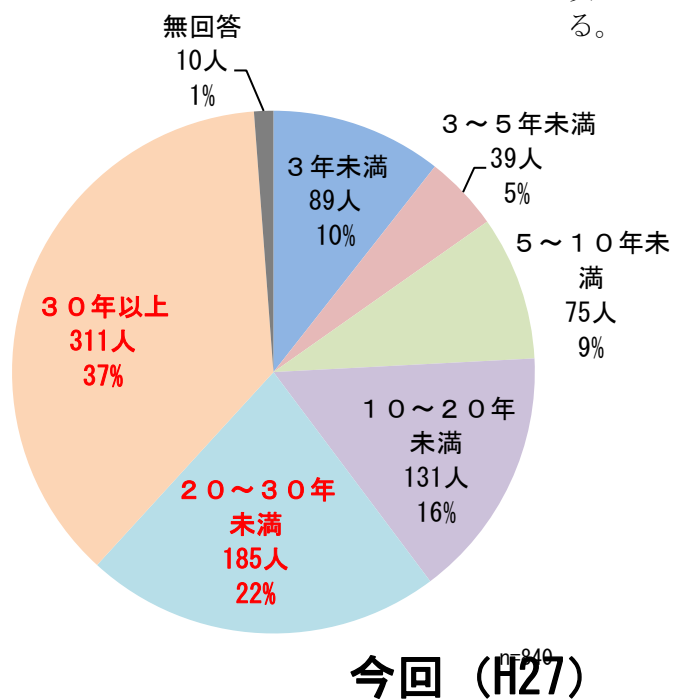


(6) 住むようになったきっかけ



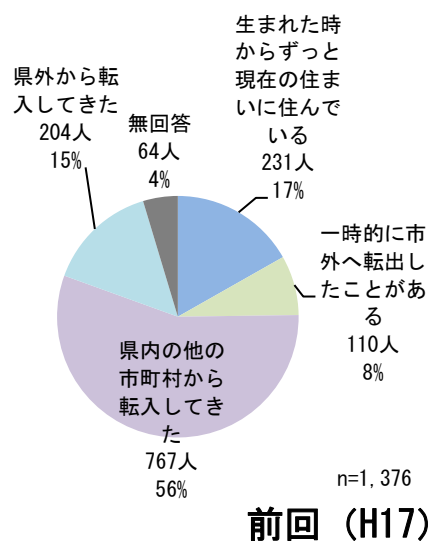
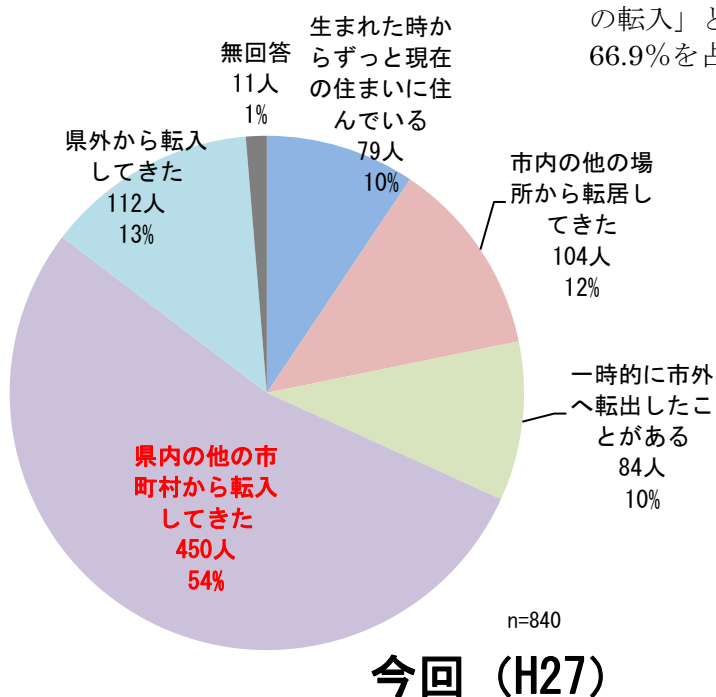
(7) 居住年数

- ・居住年数は「30年以上」が37%と最も多く、次いで「20～30年未満」が22%となっている。



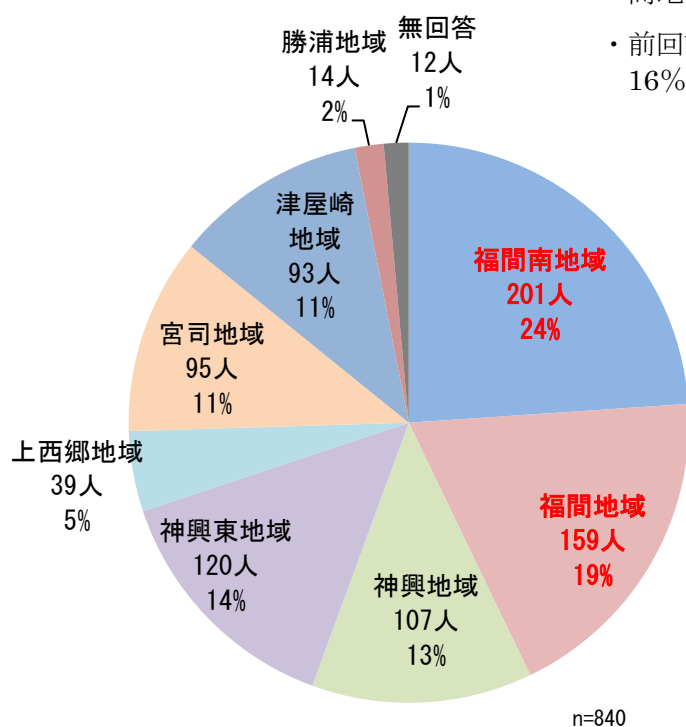
(8) 福津市に移り住む前の住所

- ・「県内の他の市町村からの転入」が54%で最も多い。
- ・福津市外から転入した「県内の他の市町村からの転入」と「県外からの転入」を合わせて66.9%を占めている。

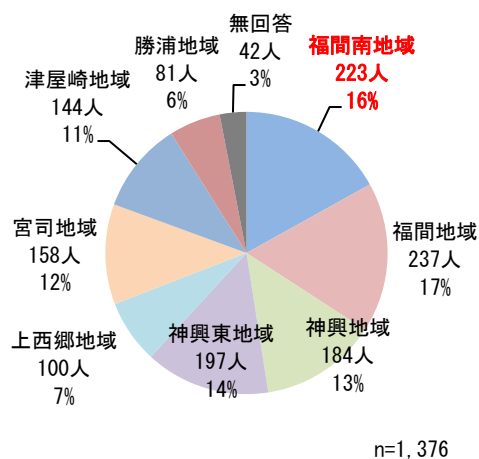


(9) 居住地域

- ・「福間南地域」が24%で最も多く、次いで「福間地域」が19%となっている。
- ・前回調査より「福間南地域」の回答者比率が16%から24%に増加している。



今回 (H27)



前回 (H17)

2-2.身近な環境（お住まいの地域）に対する評価

設問番号：問 2

目 的：回答者のお住まいの地区の生活環境に対して満足度を評価する

解答方法：満足～不満の5段階（満足、やや満足、不満、やや不満、不満）の中から1つだけ選択する単一解答設問

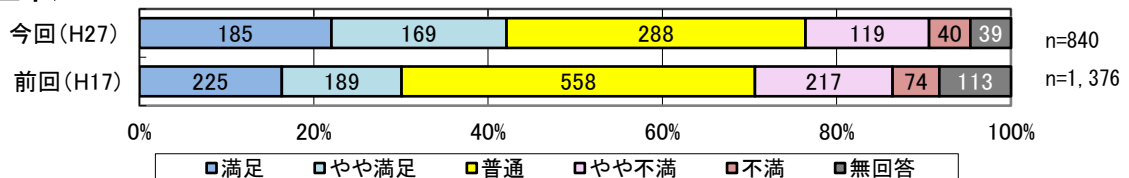
（1）市内を自家用車で移動するための身の回りの生活道路

□全市では、「満足」と「やや満足」の合計は354人、「不満」と「やや不満」の合計は159人を大きく上回っている。

□地域別においても、すべての地域で「満足」「やや満足」の割合が高いが、「勝浦」「津屋崎」では他の地域に比べ「不満」「やや不満」の割合が高い。

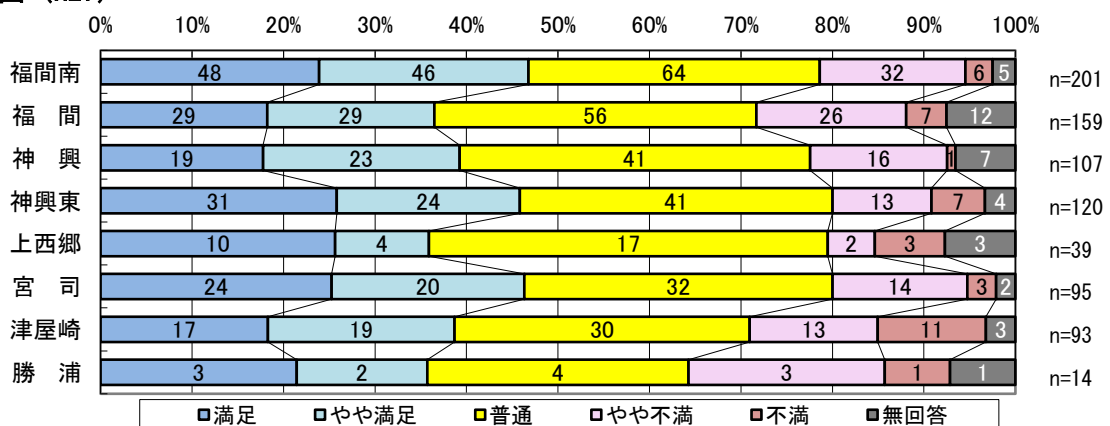
□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」の割合が増え、「不満」「やや不満」の割合が若干減っており、満足度が向上している。

<全市>

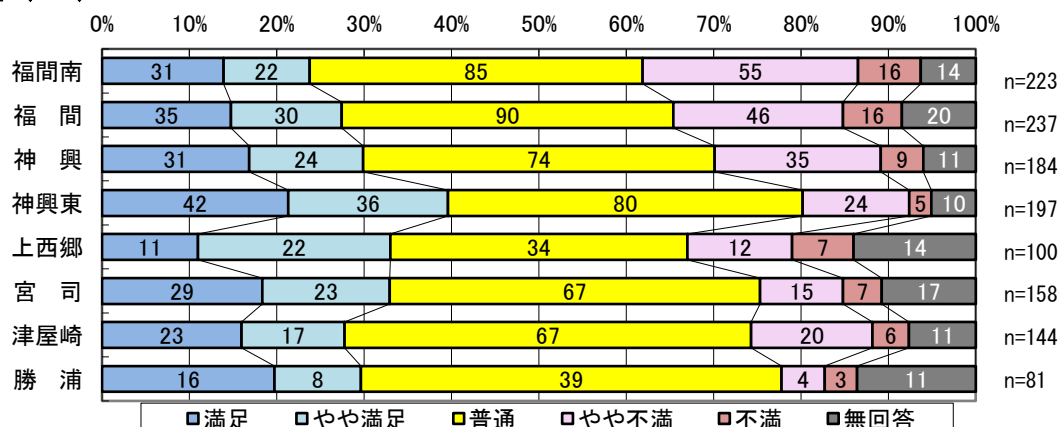


<地域別>

今回 (H27)



前回 (H17)



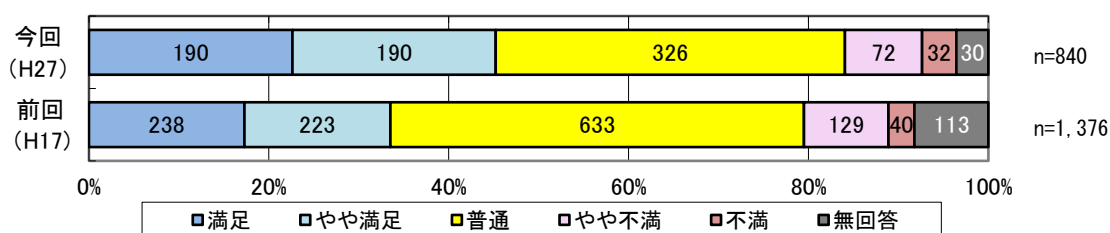
(2) 市内を自家用車で移動するための国道・県道などの幹線道路

□全市では、「満足」「やや満足」の合計 380 人が「不満」「やや不満」の合計 104 人を大きく上回っている。

□地域別においても、すべての地区で「満足」「やや満足」の割合が高く、特に「神興東」と「福間南」で高くなっている。

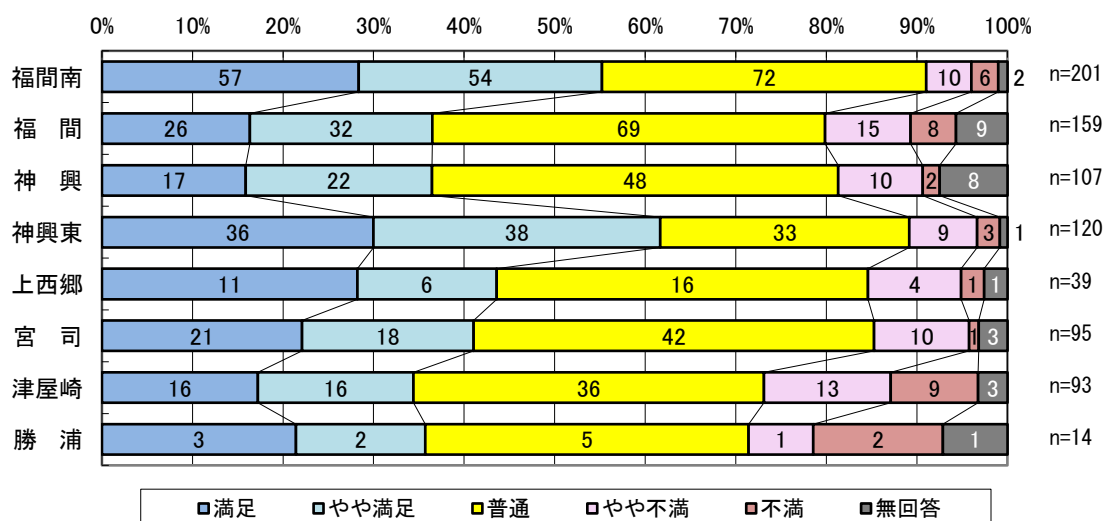
□前回調査と比較して、「不満」「やや不満」の割合はほとんど変わらないが、「満足」「やや満足」の割合が増加している。特に「福間南」で「満足」「やや満足」の割合が増えている。

<全市>

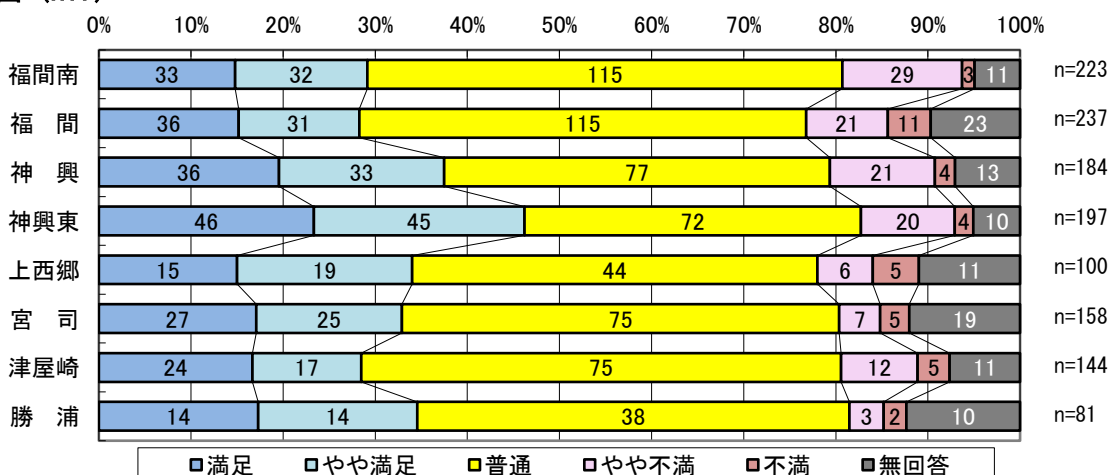


<地域別>

今回 (H27)



前回 (H17)



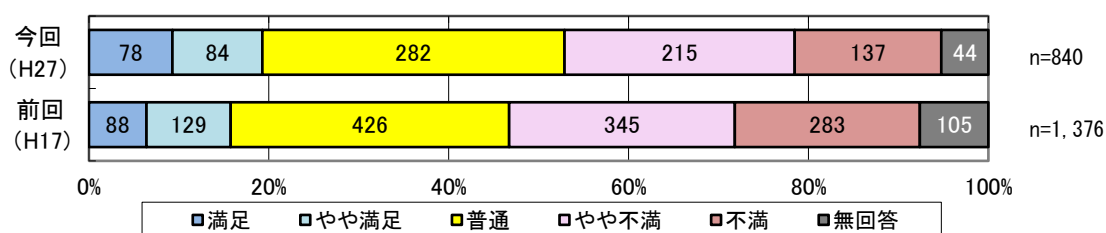
(3) 市内を移動するための公共交通機関

□全市では、「不満」「やや不満」の合計が 352 人で全体の 4 割を占めており、不満に感じている人が非常に多い。

□地域別では「福間南」以外のすべての地域で「不満」「やや不満」の割合が高く、特に「勝浦」「津屋崎」「上西郷」「宮司」などの郊外部で「不満」「やや不満」の割合が高い。

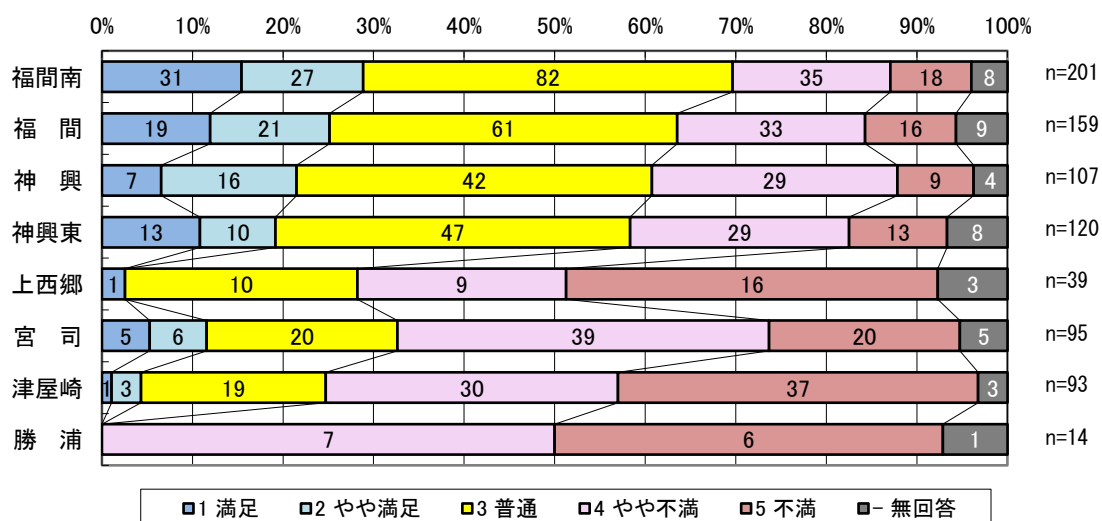
□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」の割合が増加し、「不満」「やや不満」の割合が若干減少しており、満足度は向上傾向にある。しかし、特に郊外部で「不満」「やや不満」の割合が変わらず高い。

<全市>

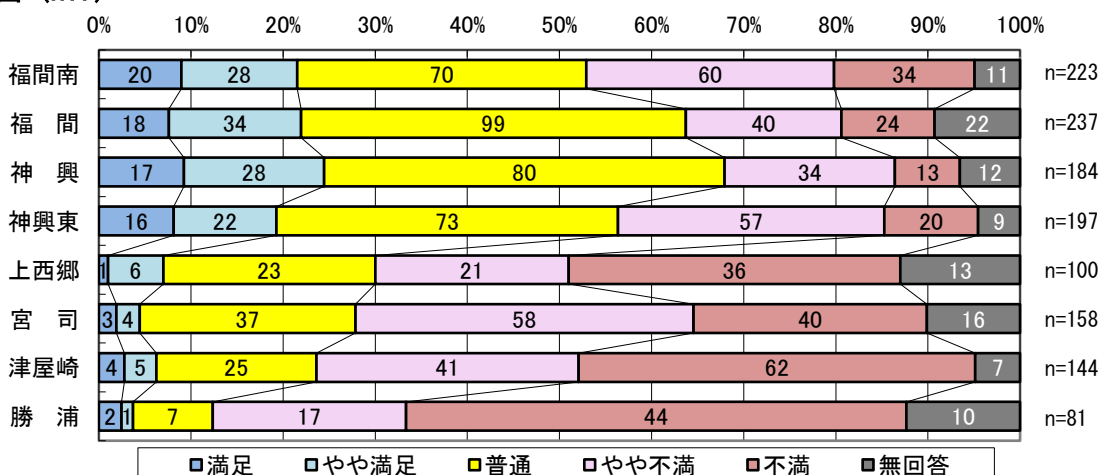


<地域別>

今回 (H27)



前回 (H17)



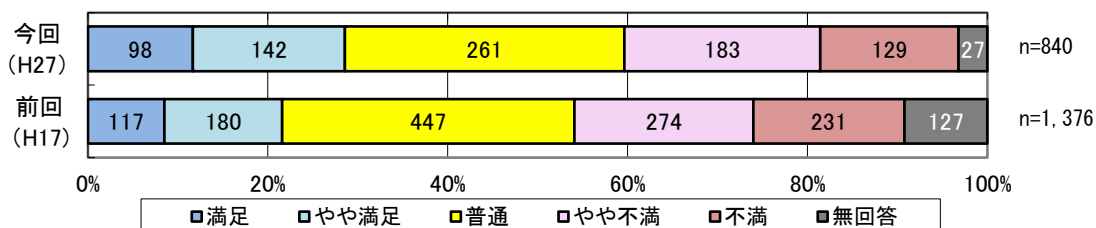
(4) 市外へ移動するための公共交通機関

□全市では、「不満」「やや不満」の合計が 312 人で、「満足」「やや満足」の合計 240 人を上回っている。

□地域別では、前項の「市内へ移動するための公共交通機関」と同じく、「勝浦」「津屋崎」「上西郷」「宮司」など郊外部で「不満」「やや不満」の割合が非常に高い。

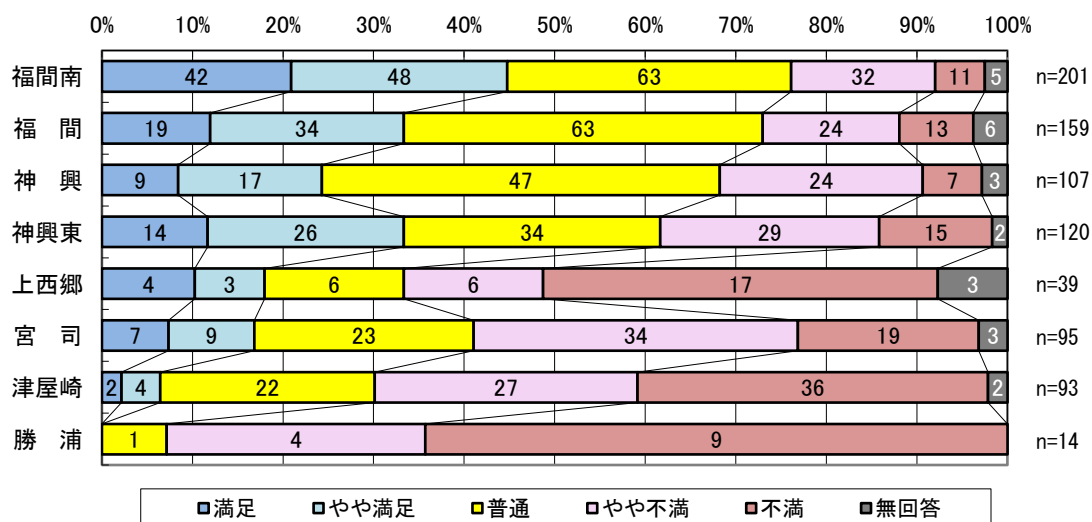
□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」の割合が増加しているが、「不満」「やや不満」の割合はほとんど変わっていない。

<全市>

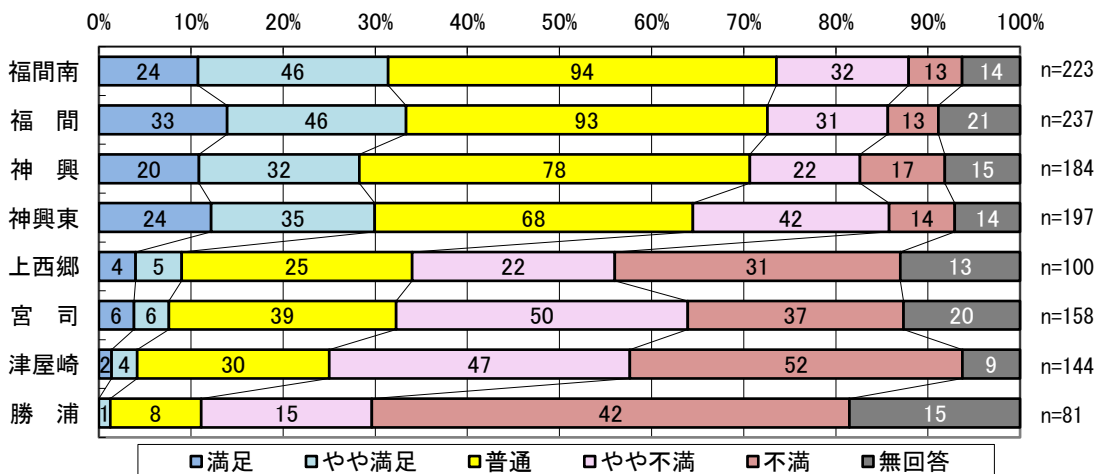


<地域別>

今回 (H27)



前回 (H17)



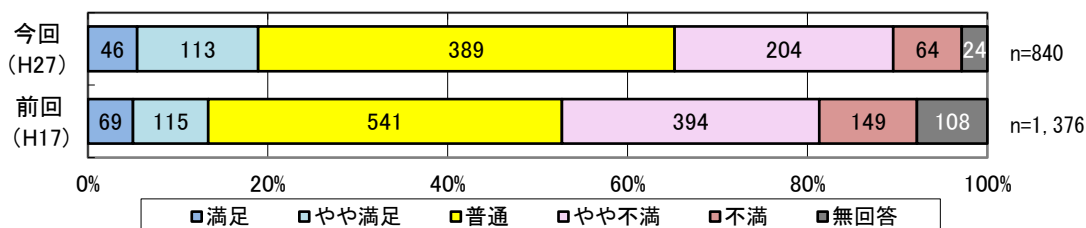
(5) 市内を移動したり、散策するための歩道・自転車道・駐輪場

□全市では、「不満」「やや不満」の合計が 268 人で、「満足」「やや満足」の合計 159 人を上回っている。

□地域別では、すべての地域で「不満」「やや不満」の割合が「満足」「やや満足」の割合を上回っている。

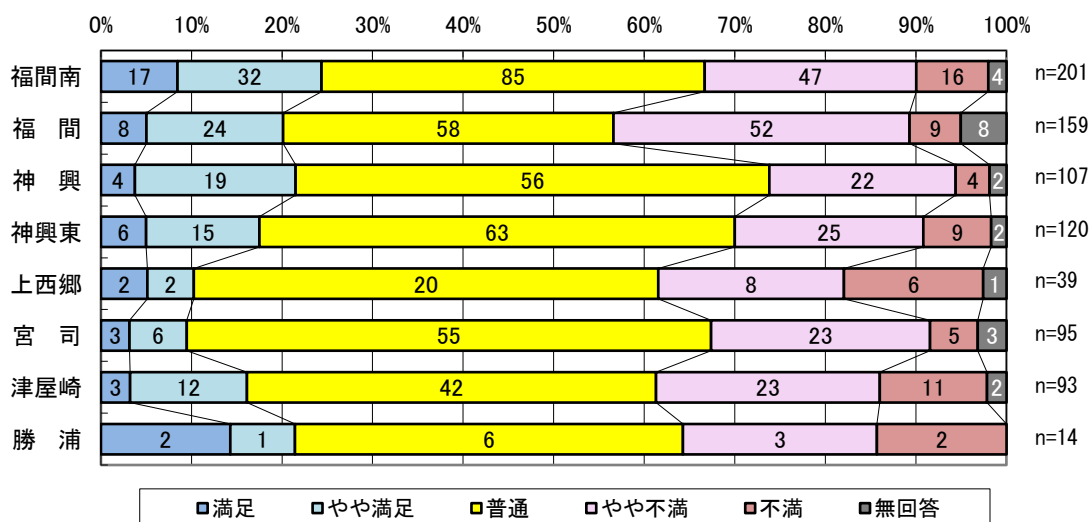
□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」の割合が増加し、「不満」「やや不満」の割合が減少している。いまだ満足度は低いものの向上傾向にある。

<全市>

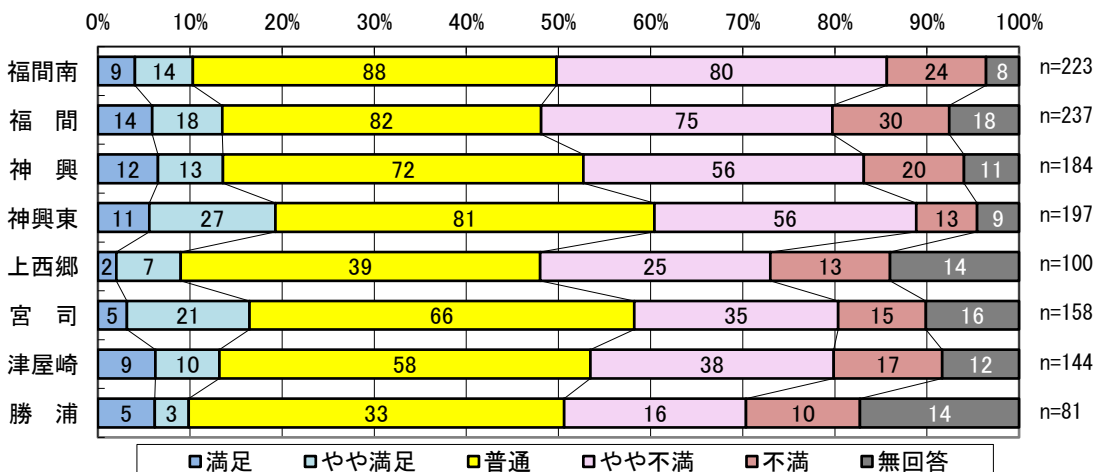


<地域別>

今回 (H27)



前回 (H17)



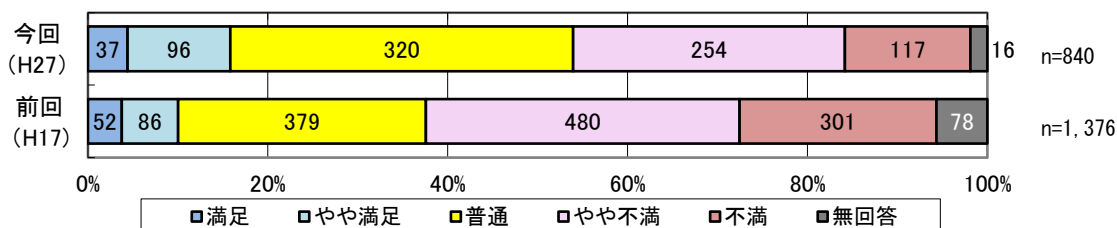
(6) 街路灯などの防犯施設の充実度

□「不満」「やや不満」の合計が 371 人で全体の 4 割以上を占め、「満足」「やや満足」の合計 133 人を大きく上回っている。

□地域別では、すべての地域で「不満」「やや不満」の割合が「満足」「やや満足」の割合を上回っており、「勝浦」では「満足」「やや満足」と答えた人はいなかった。

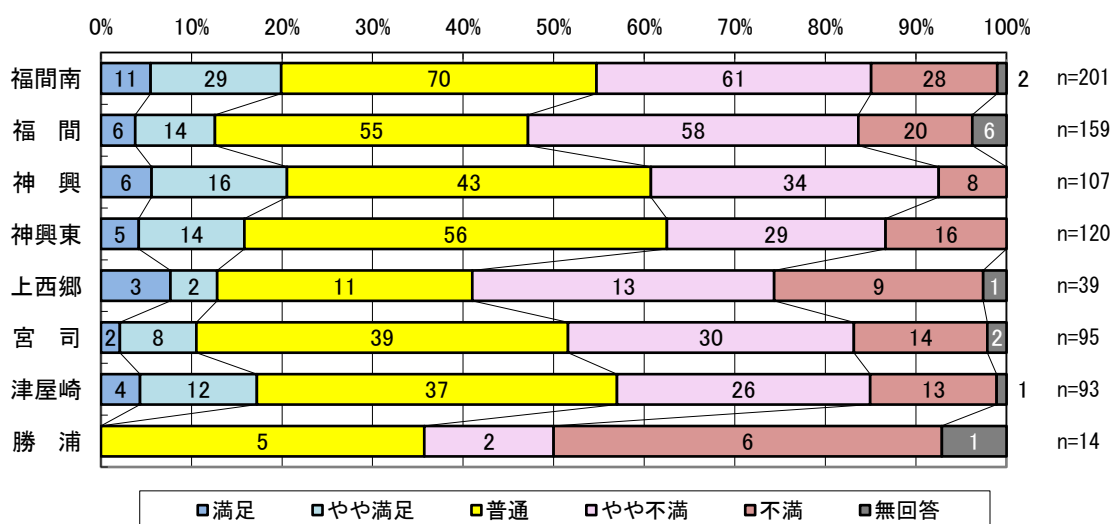
□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」の割合が増え、「不満」「やや不満」の割合が減っており、いまだ満足度は低いものの向上傾向にある。

<全市>

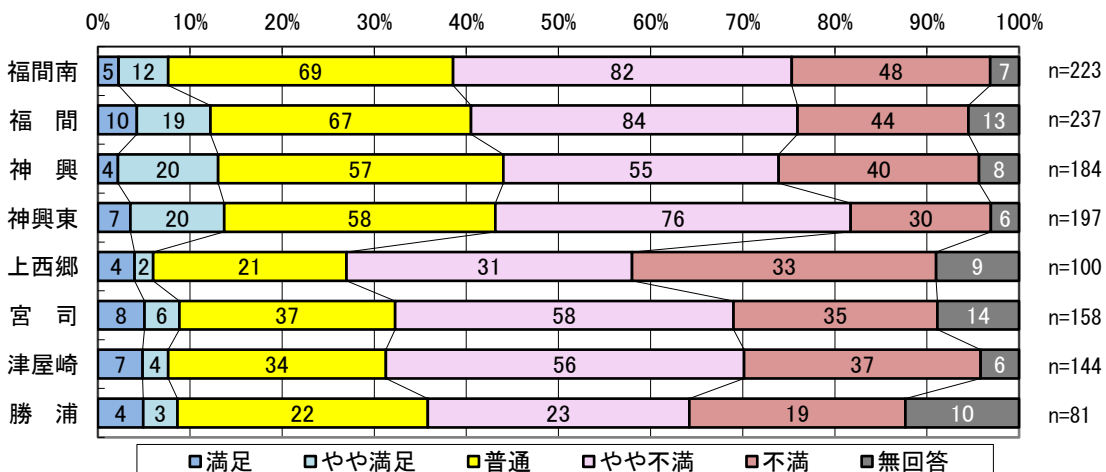


<地域別>

今回 (H27)



前回 (H17)



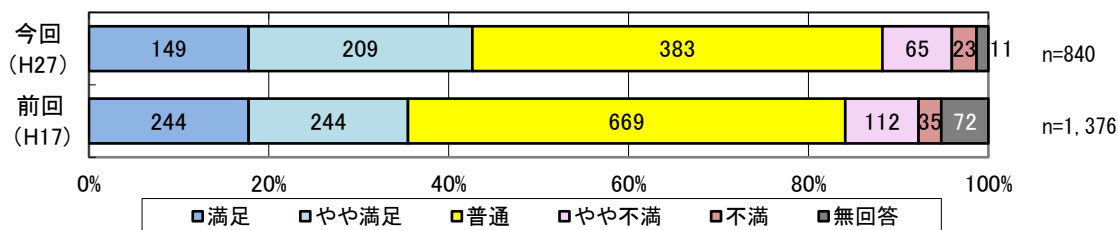
(7) 家屋の密集度、日当たり、風通し

□全市では、「満足」「やや満足」の合計が 358 人と全体の 4 割を占め、「不満」「やや不満」の合計 88 人を大きく上回っている。

□すべての地域で「満足」「やや満足」が「不満」「やや不満」を上回っている。

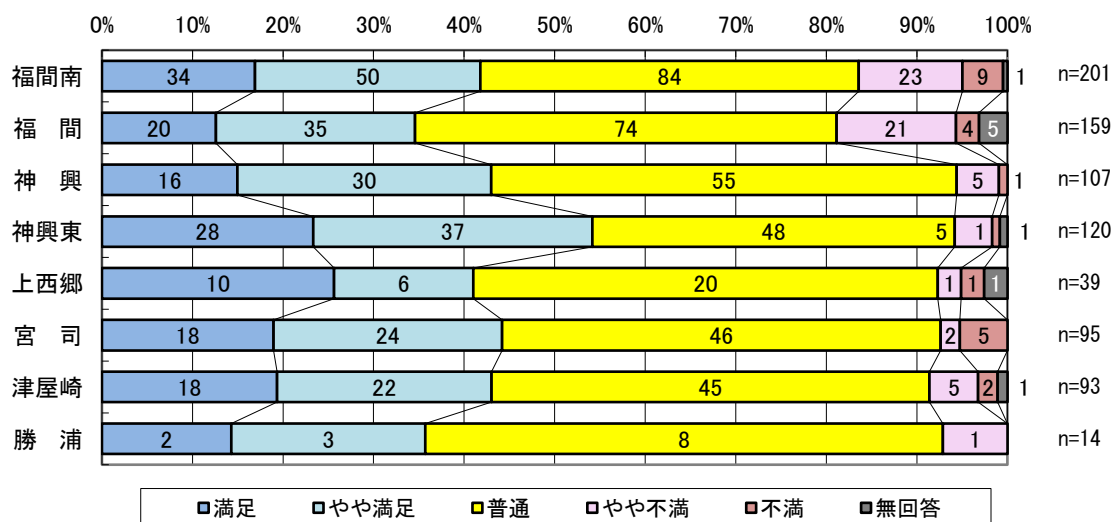
□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」合計の割合が増加している。「不満」「やや不満」の割合は変わらず 1 割程度と低い。

<全市>

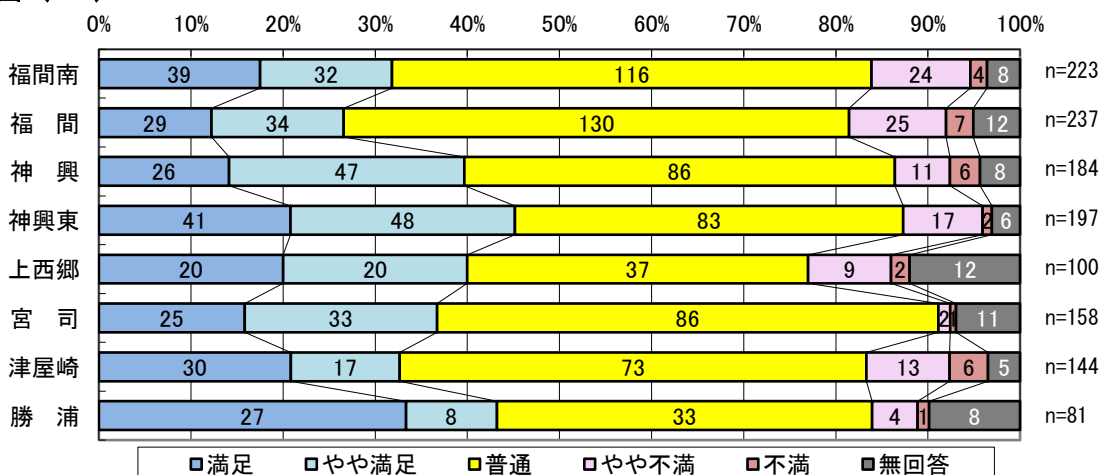


<地域別>

今回 (H27)



前回 (H17)



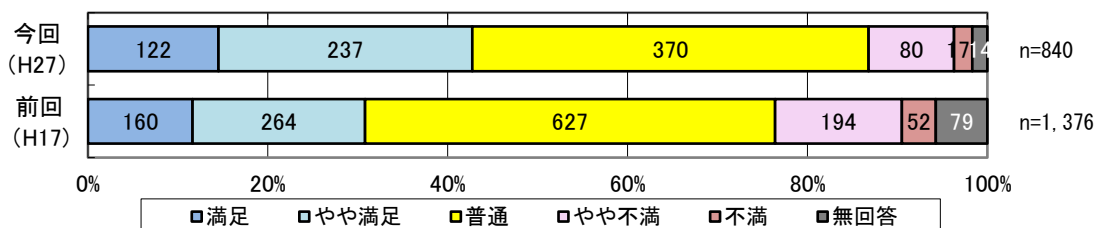
(8) まち並み景観 や まちの緑の美しさ

□全市では、「満足」「やや満足」が 359 人と全体の 4 割を占め、「不満」「やや不満」の合計 97 人を大きく上回っている。

□すべての地区で「満足」「やや満足」が「不満」「やや不満」を上回っており、特に「勝浦」や「宮司」、「神興東」、「津屋崎」でその割合が高い。

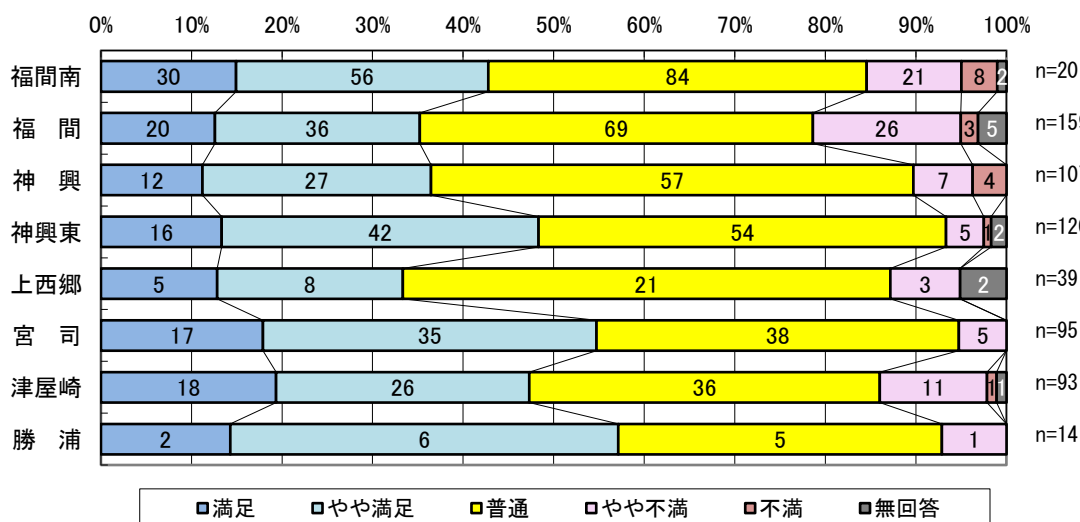
□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」の割合が増加し、「不満」「やや不満」の割合が減少している。満足度が向上している。

<全市>

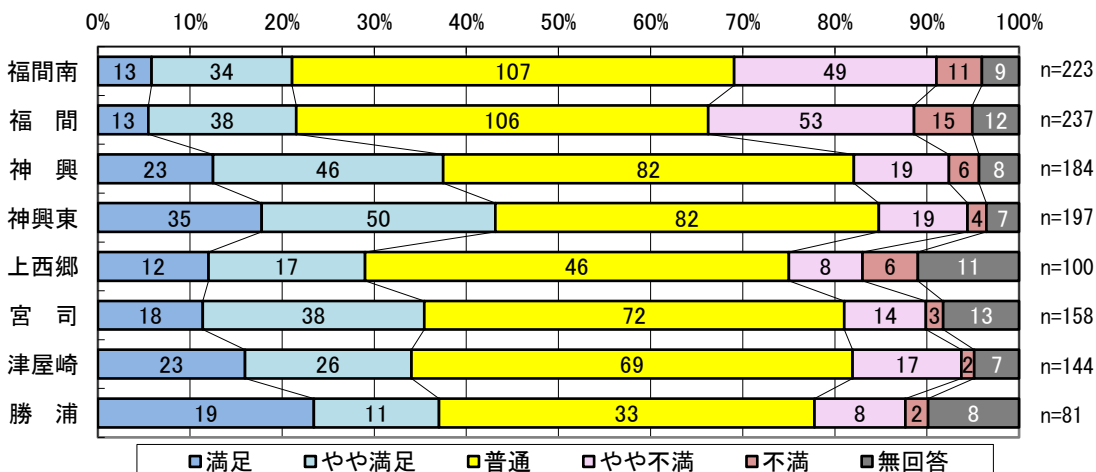


<地域別>

今回 (H27)



前回 (H17)



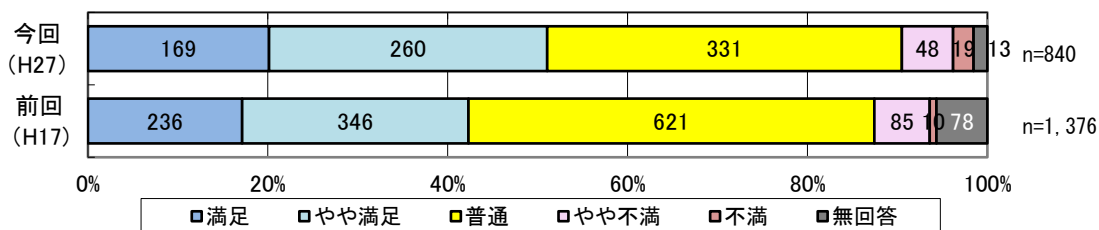
(9) 山や田園（里地）の風景の美しさ

□全市では、「満足」「やや満足」の合計が 429 人と 5 割を越えており、「不満」「やや不満」の合計 67 人を大きく上回っている。

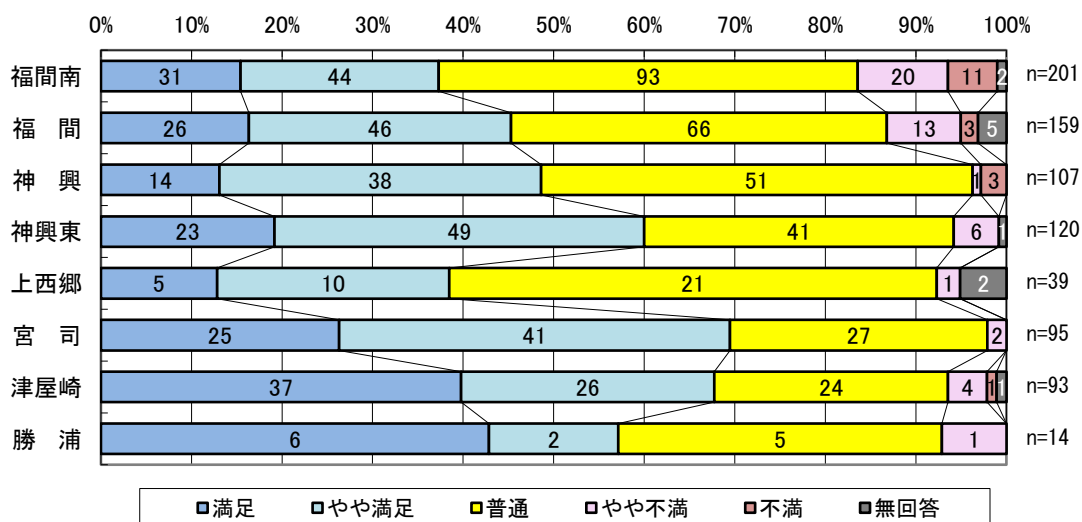
□すべての地区で「満足」「やや満足」が「不満」「やや不満」を上回っており、「宮司」や「津屋崎」、「勝浦」でその割合が高い。

□前回調査と比較して「満足」「やや満足」の割合が増加しており、満足度が向上している。

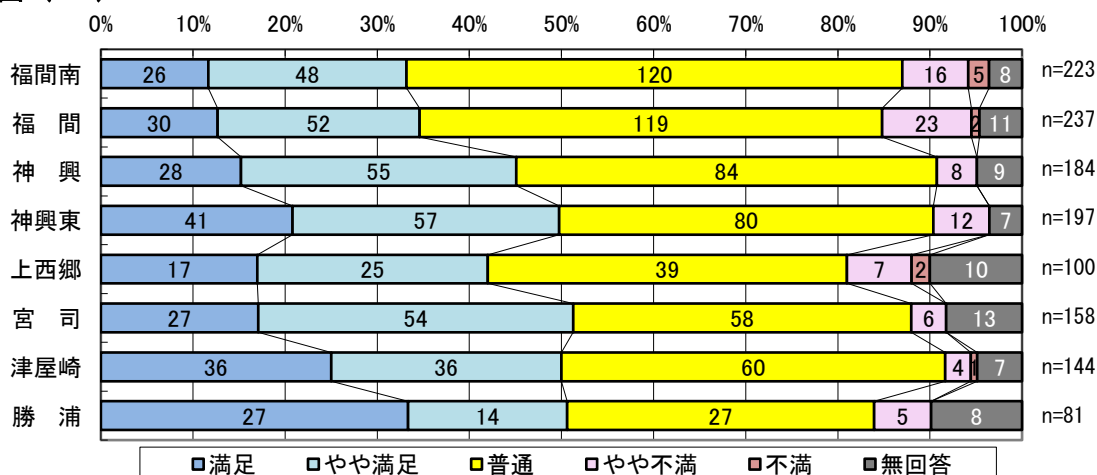
<全市>



<地域別> 今回 (H27)



前回 (H17)



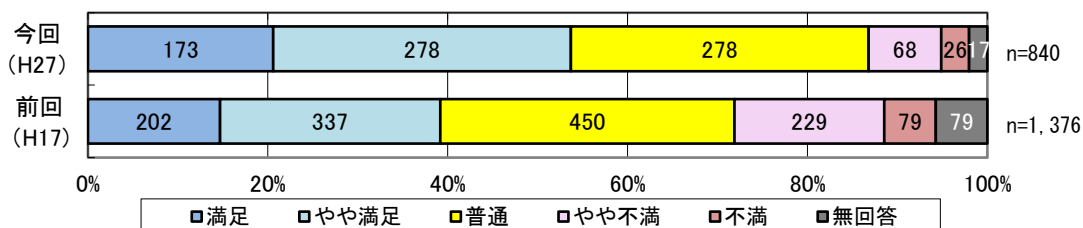
(10) 川や池や海岸の風景の美しさ

□全市では、「満足」「やや満足」の合計が 451 人と 5 割を越えており、「不満」「やや不満」の合計 94 人を大きく上回っている。

□地域別にみると、すべての地区で「満足」「やや満足」が「不満」「やや不満」を上回っている。

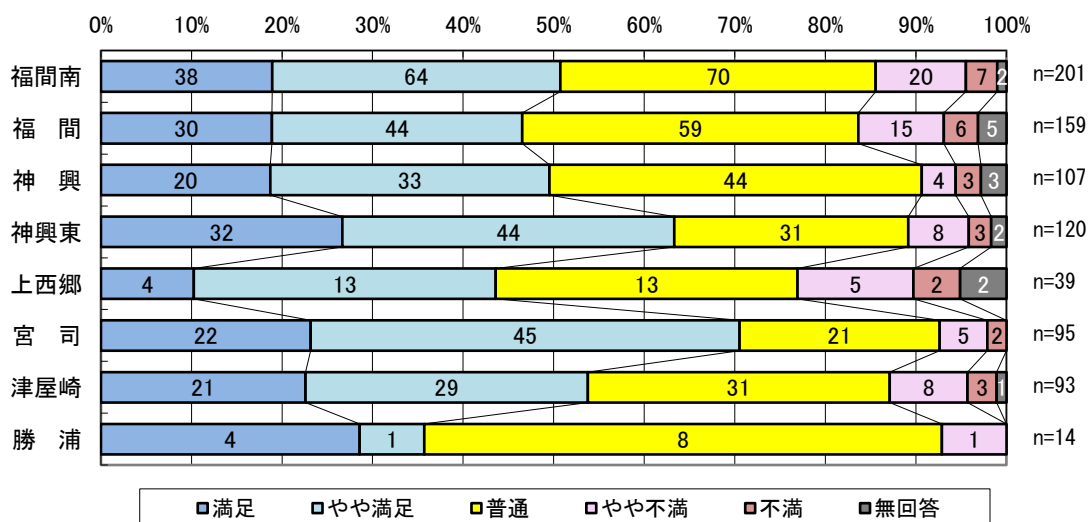
□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」の割合が増加し、「不満」「やや不満」の割合が減少している。満足度が向上している。

<全市>

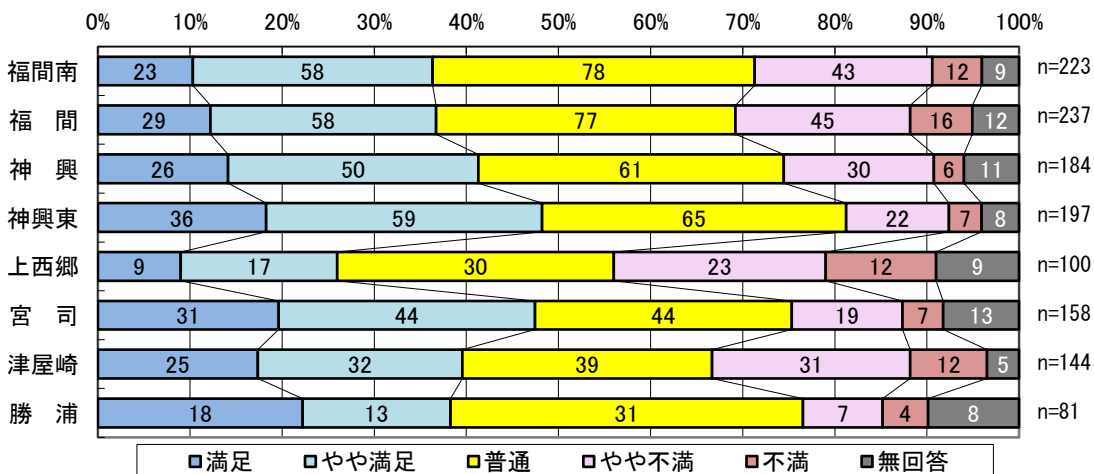


<地域別>

今回 (H27)



前回 (H17)



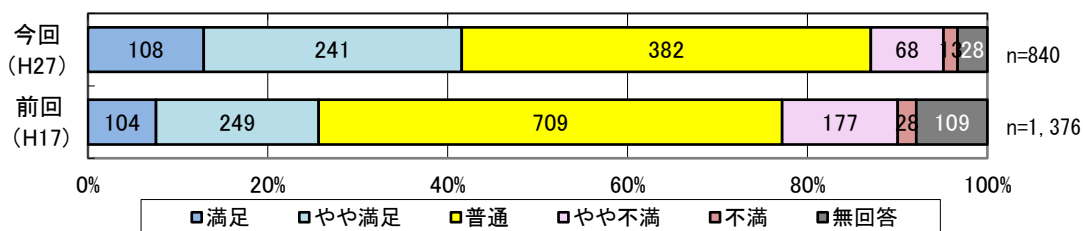
(11) 歴史や伝統に関するまちの雰囲気

□全市では、「満足」「やや満足」の合計が 349 人と全体の 4 割を占めており、「不満」「やや不満」の合計 81 人を大きく上回っている。

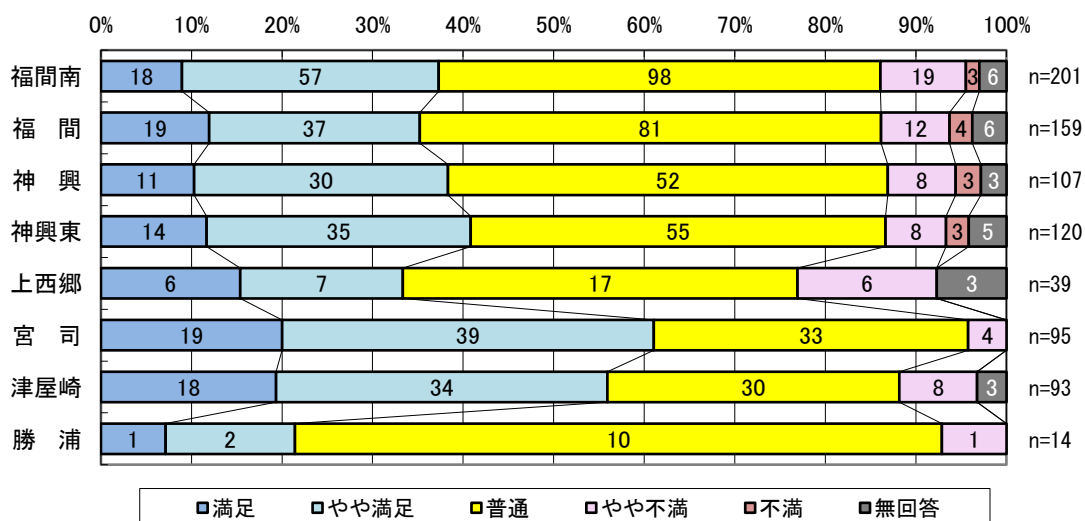
□地域別にみると、すべての地区で「満足」「やや満足」が「不満」「やや不満」を上回っており、「宮司」や「津屋崎」で「満足」「やや満足」の割合が特に高い。

□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」の割合が大きく増加し、「不満」「やや不満」の割合が減少している。満足度が向上している。

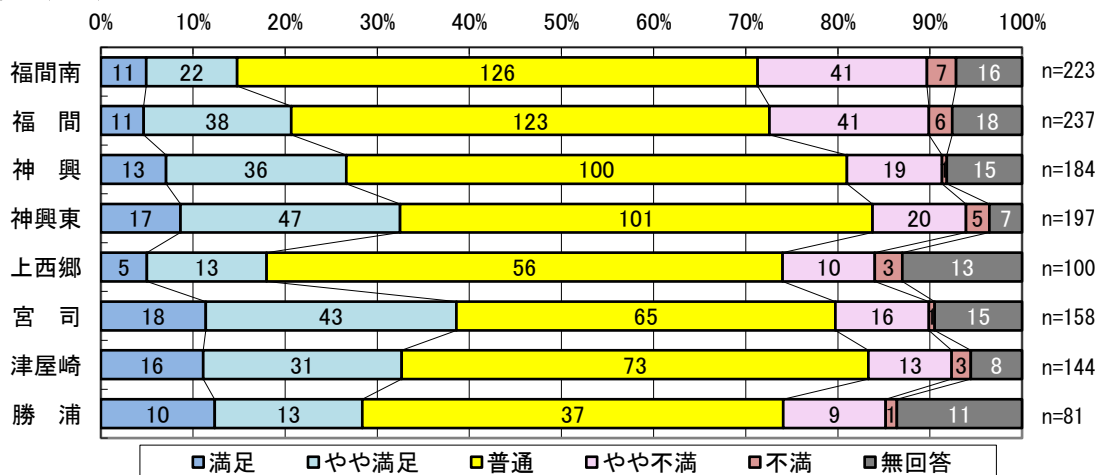
<全市>



<地域別> 今回 (H27)



前回 (H17)



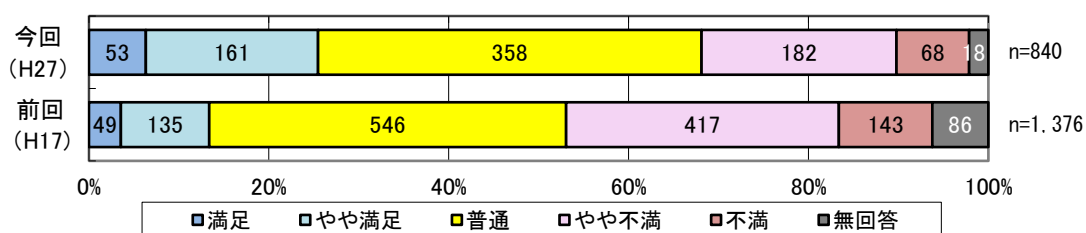
(12) 広場・公園などの避難場所や、こどもの遊び場になる場所の充実度

□全市では、「不満」「やや不満」の合計が 250 人と「満足」「やや満足」の合計 214 人を上回っている。

□地域別にみると、「福間南」「宮司」以外の地区では「不満」「やや不満」が「満足」「やや満足」を上回っており、特に「勝浦」「津屋崎」「福間」で「不満」「やや不満」の割合が高い。

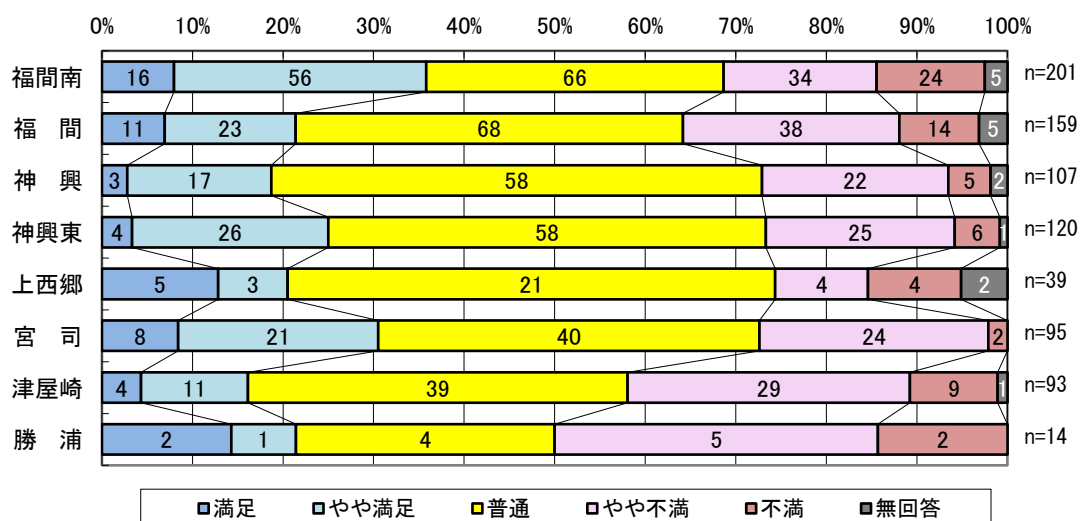
□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」の割合が増加し、「不満」「やや不満」が減少している。満足度が向上している。

<全市>

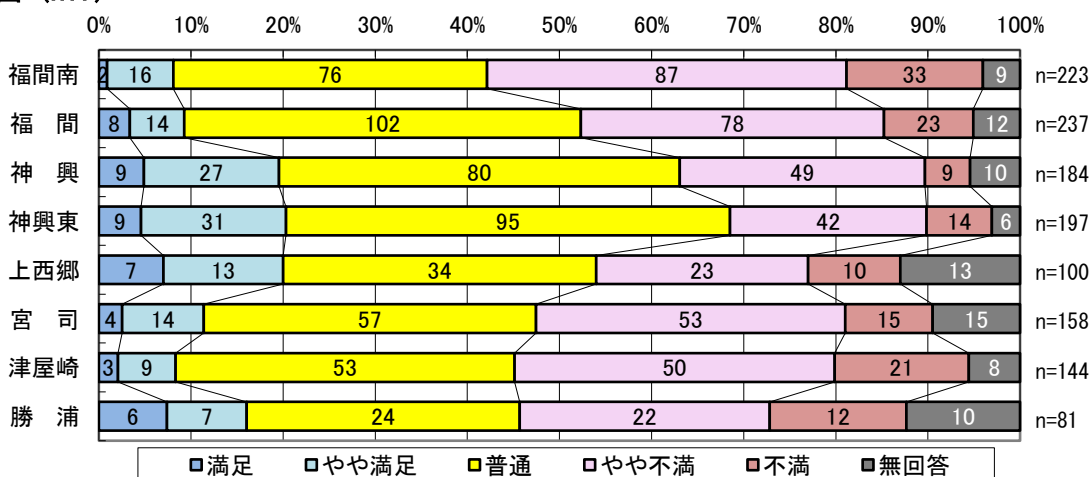


<地域別>

今回 (H27)



前回 (H17)



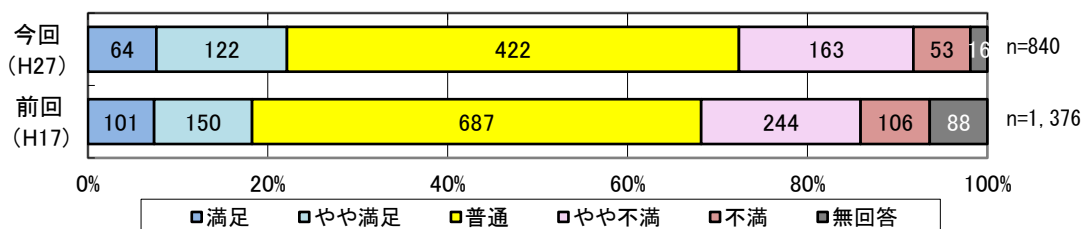
(13) 土砂災害や水害に対する安心度

□全市では、「不満」「やや不満」の合計 216 人が「満足」「やや満足」の合計 186 人を上回っている。

□地域別にみると、「上西郷」で、「不満」「やや不満」の割合が特に高い。

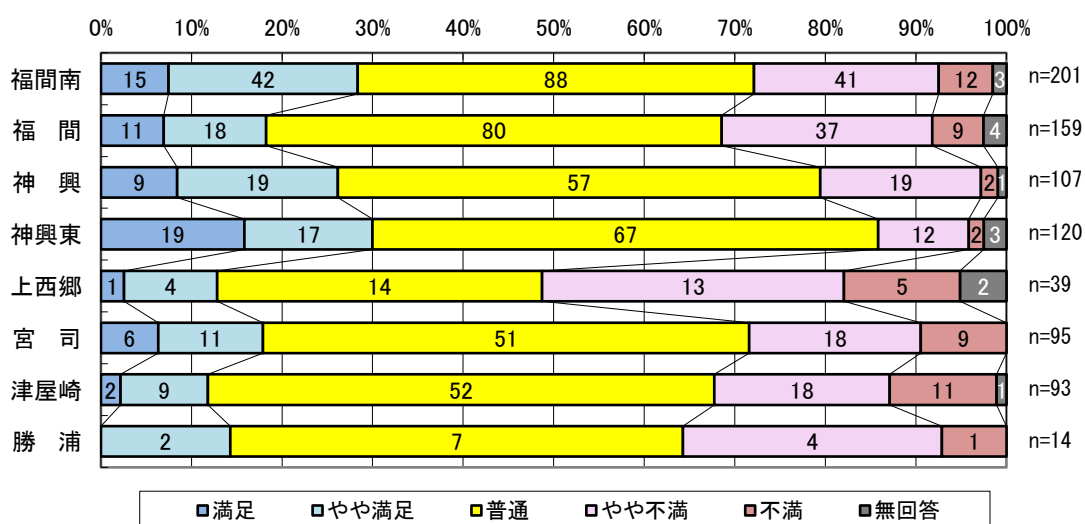
□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」の割合が増加し、「不満」「やや不満」の割合はほぼ変わっていない。

<全市>

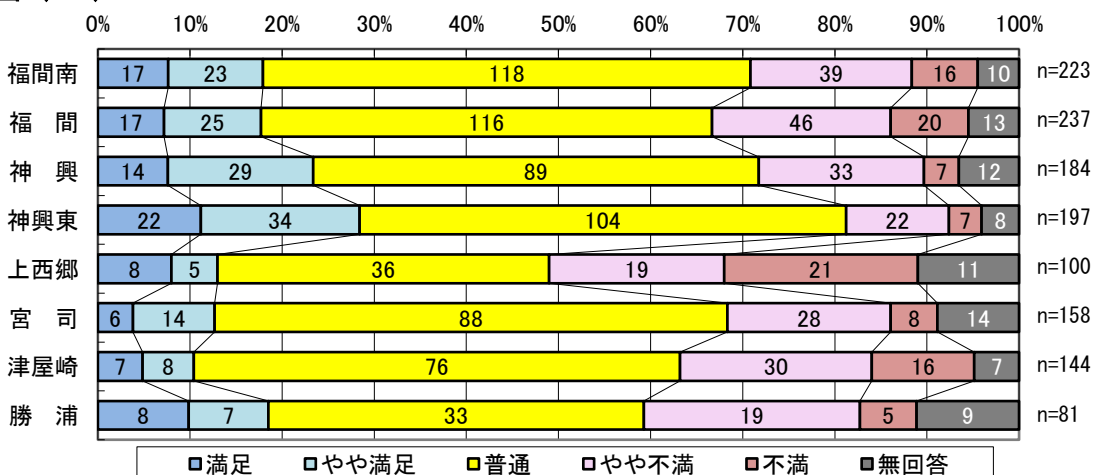


<地域別>

今回 (H27)



前回 (H17)



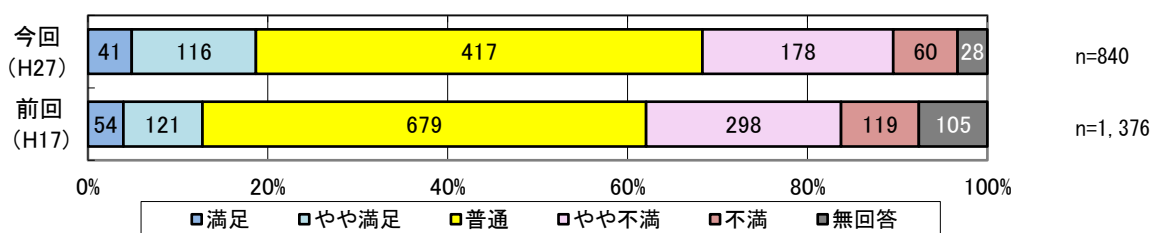
(14) 「これが、わが地区のシンボルだ」という個性を持つ場所・行事などの充実度

□全市では、「不満」「やや不満」の合計 238 人が「満足」「やや満足」の合計 157 人を上回っている。

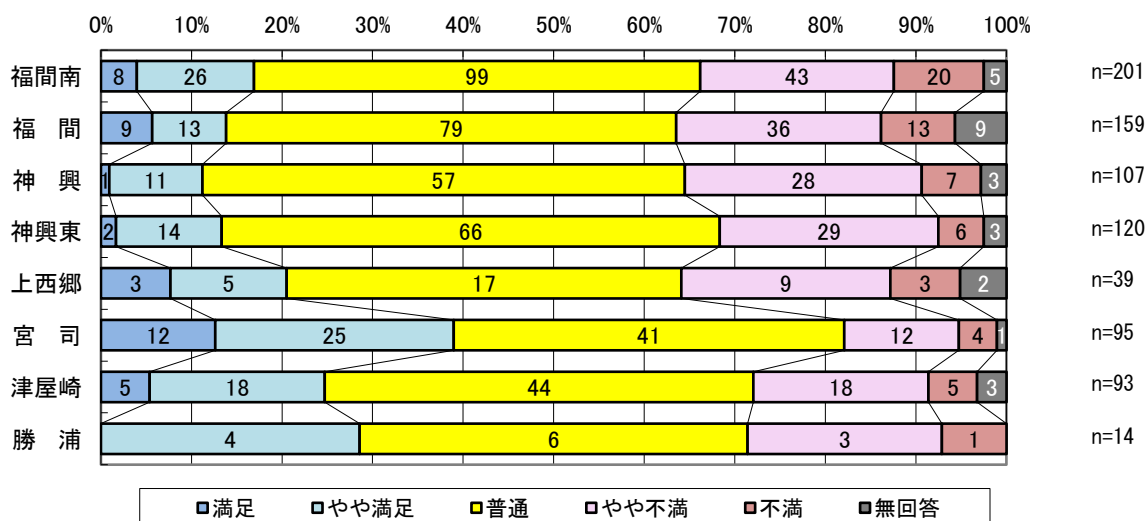
□地域別にみると、宮地嶽神社を有する「宮司」では「満足」「やや満足」の割合が高いが、それ以外のすべての地域で「不満」「やや不満」の割合が高い。

□前回調査と比較して、「満足」「やや満足」の割合が増加し、「不満」「やや不満」の割合が減少しており、満足度が向上している。

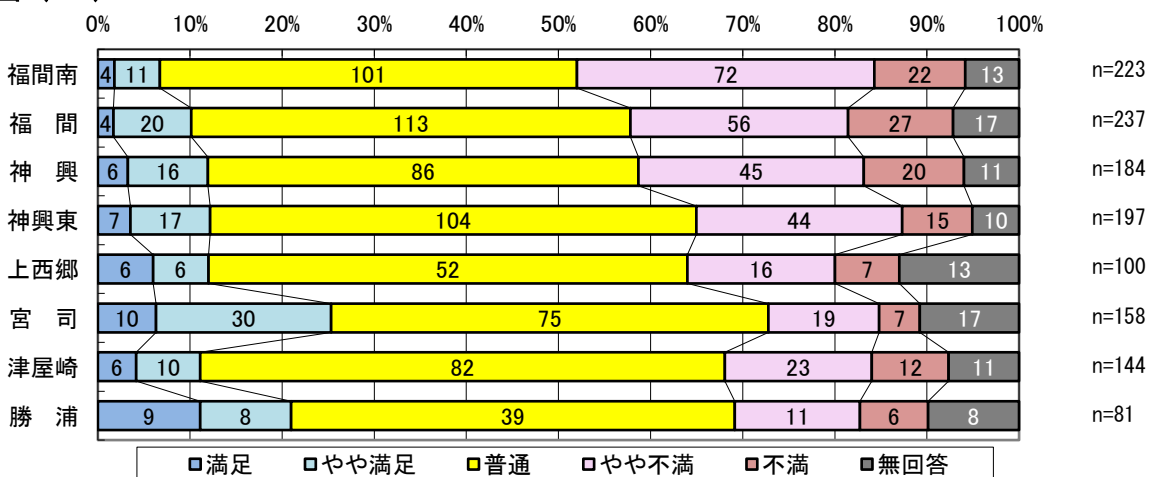
<全市>



<地域別> 今回 (H27)



前回 (H17)



2-3.「都市計画マスタープラン」「国土利用計画」について

(1) 計画の認知度

設問番号：問 3

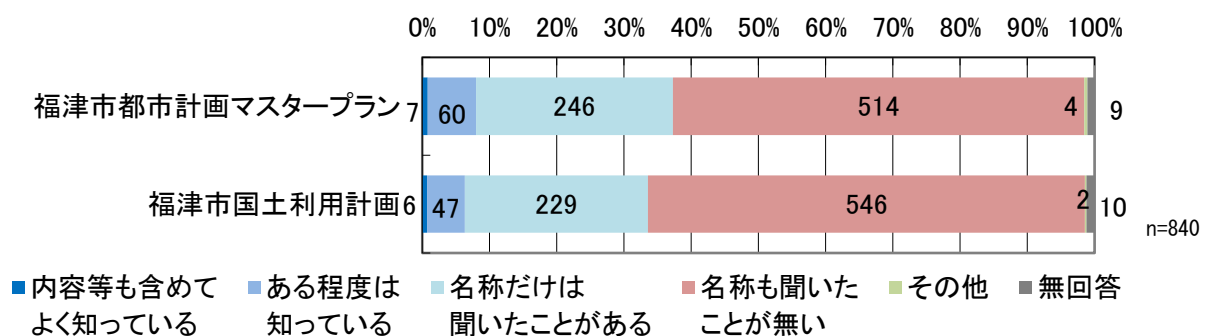
目 的：「福津市都市計画マスタープラン」「福津市国土利用計画」の認知度を把握する

解答方法：該当する項目を 1 つだけ選択する単一解答設問

<全市>

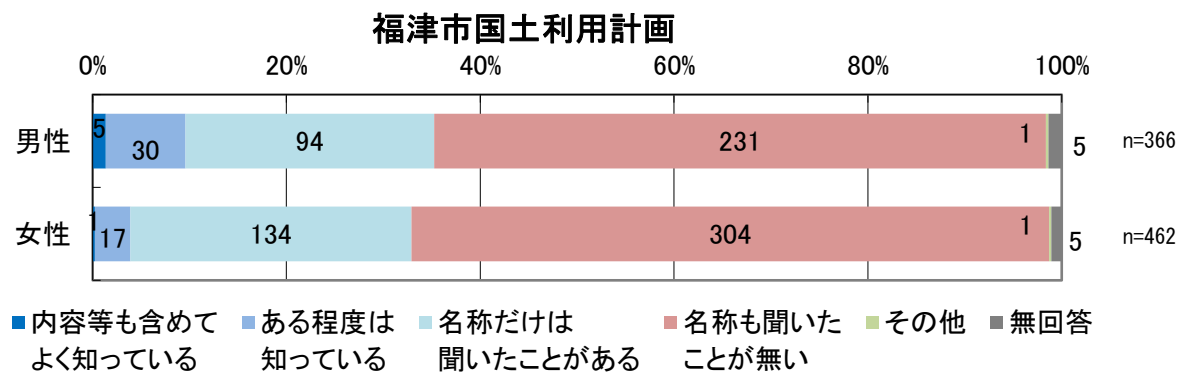
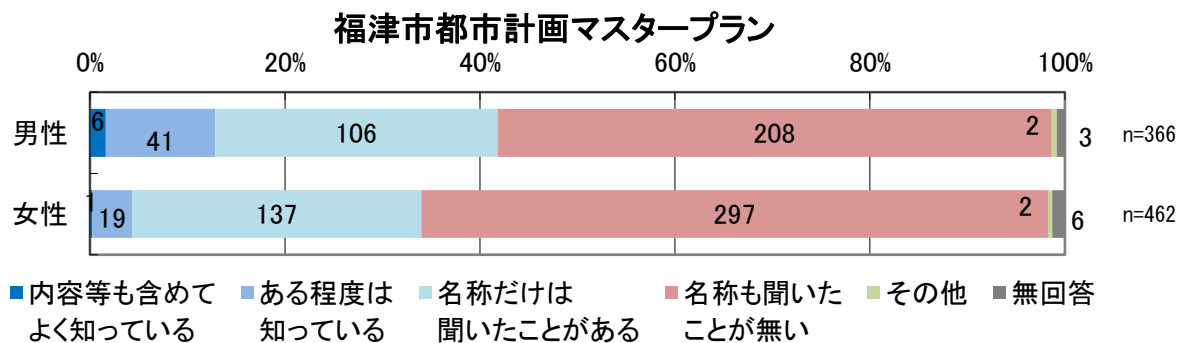
□それぞれの計画について「名前も聞いたことが無い」と答えた人が 6 割を越えており、「内容等も含めてよく知っている」「ある程度は知っている」は 1 割未満であった。

□「福津市都市計画マスタープラン」の方が「福津市国土利用計画」より認知度が若干高い。



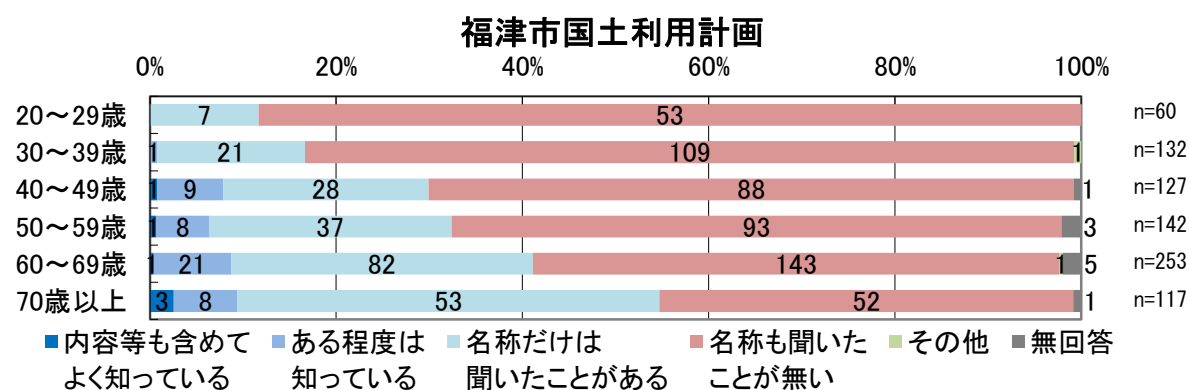
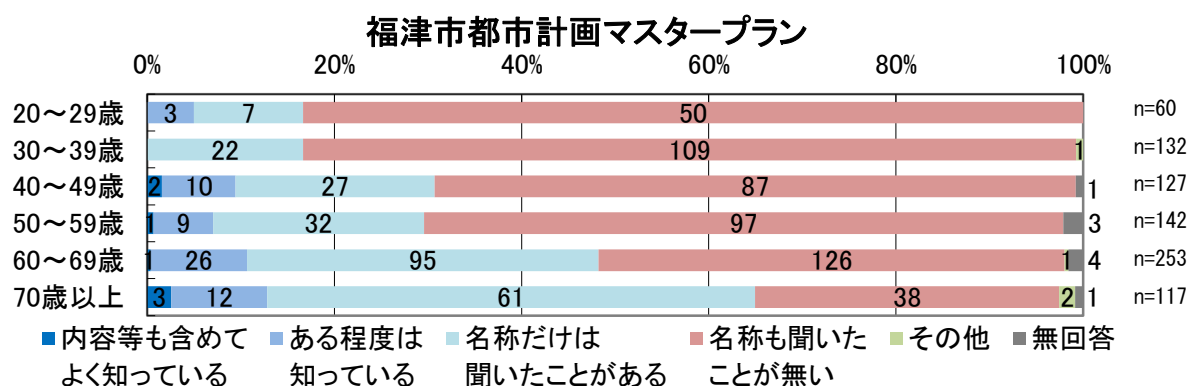
<性別>

□女性の認知度が低い。



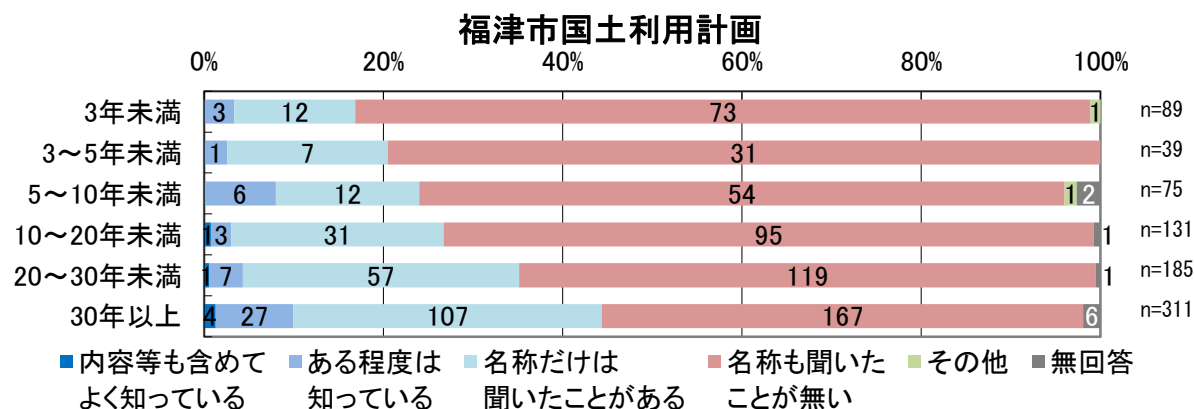
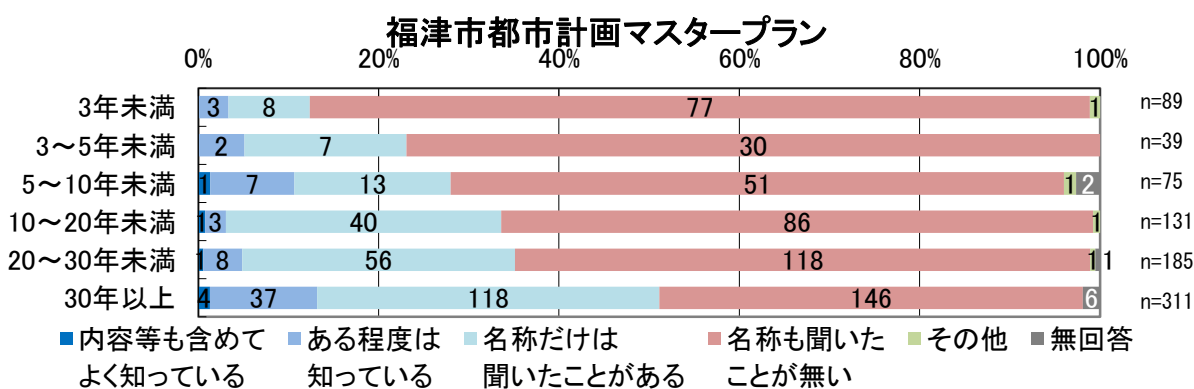
<年齢別>

□若い世代の認知度が非常に低く、年齢が高くなるほど認知度が高い。



<居住年数別>

□居住年数が短い人ほど認知度が低い。



(2) 都市計画マスタープラン基本方針の実現

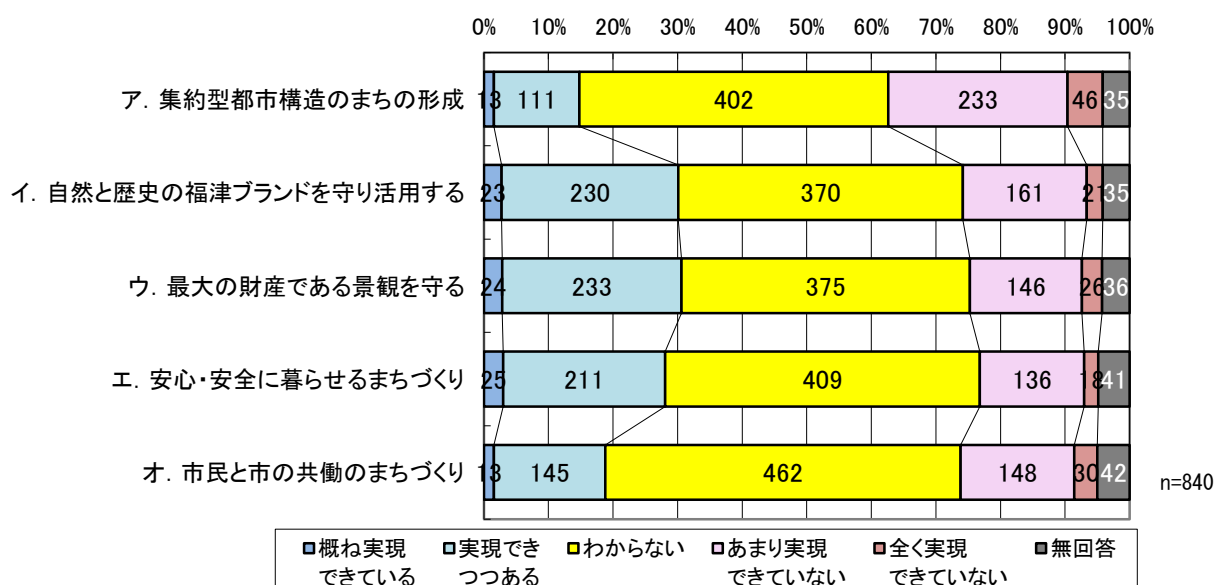
設問番号：問 4

目 的：「福津市都市計画マスタープラン」で掲げた 5 つの基本方針について実現できているかを評価する

解答方法：5 段階（概ね実現できている、実現できつつある、わからない、あまり実現できていない、全く実現できていない）の中から 1 つだけ選択する単一解答設問

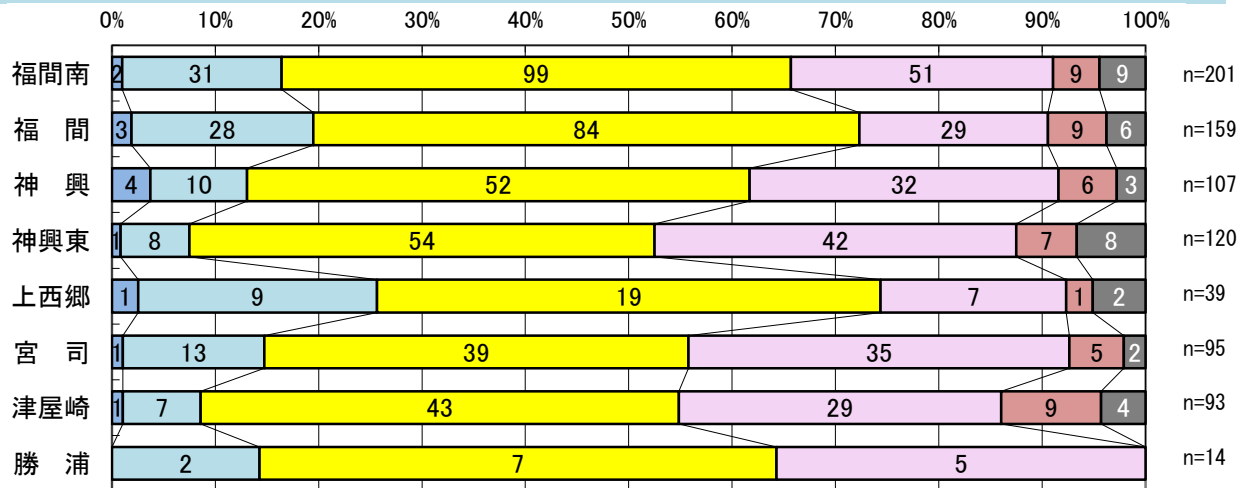
<全市>

- すべての項目について「わからない」と答えた人が最も多く各々4割以上を占めた。
- 「全く実現できていない」「あまり実現できていない」と答えた人が最も多かった基本方針は「集約型都市構造のまちの形成」であった。
- 「自然と歴史の福津ブランドを守り活用する」「最大の財産である景観を守る」「安心・安全に暮らせるまちづくり」については、「概ね実現できている」「実現できつつある」という割合が、「全く実現できていない」「あまり実現できていない」という割合を上回っている。



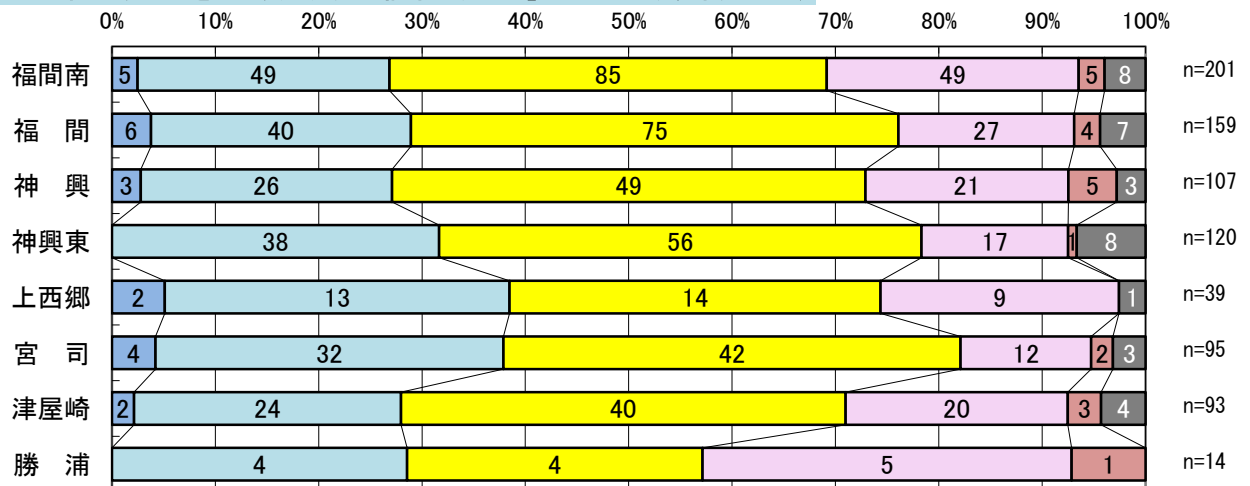
<地域別>

ア. 3つの拠点を作るとともに、拠点と市内各地を公共交通などでつなぎ、「集約型都市構造のまち」を形成します



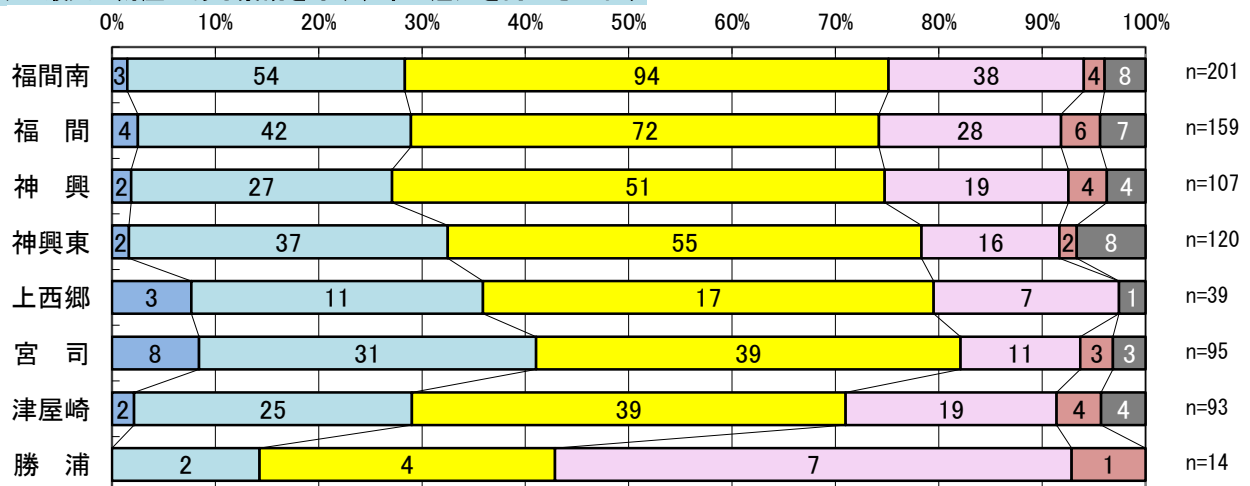
☐ 概ね実現できている
 ☐ 実現できつつある
 ☐ わからない
 ☐ あまり実現できていない
 ☐ 全く実現できていない
 ☐ 無回答

イ. 田園地域などを「自然と歴史の福津ブランド」として守り、活用します



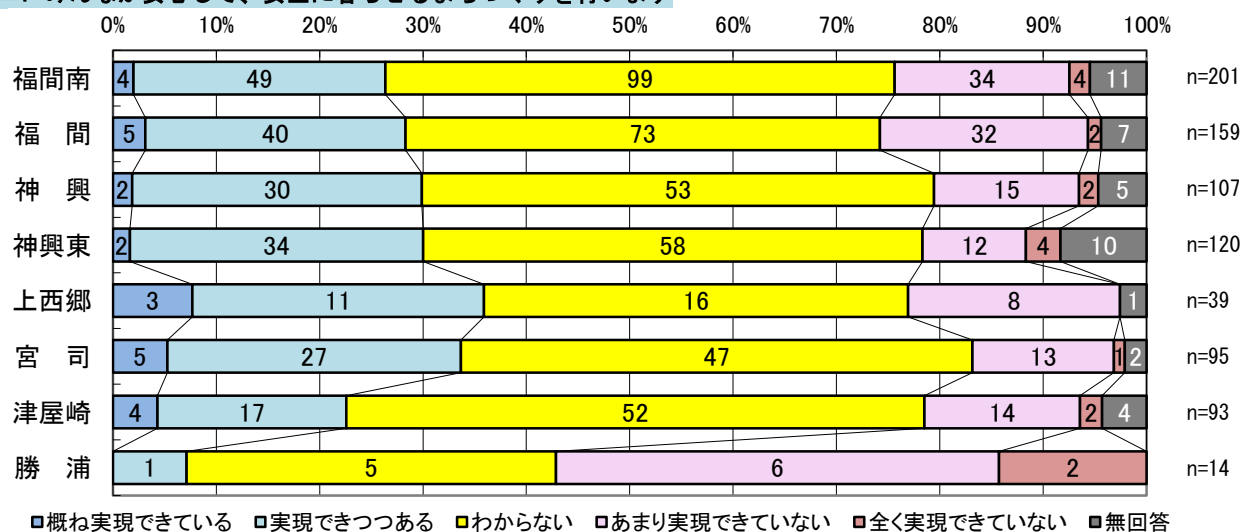
☐ 概ね実現できている
 ☐ 実現できつつある
 ☐ わからない
 ☐ あまり実現できていない
 ☐ 全く実現できていない
 ☐ 無回答

ウ. 最大の財産である景観を守り、市の魅力を向上させます

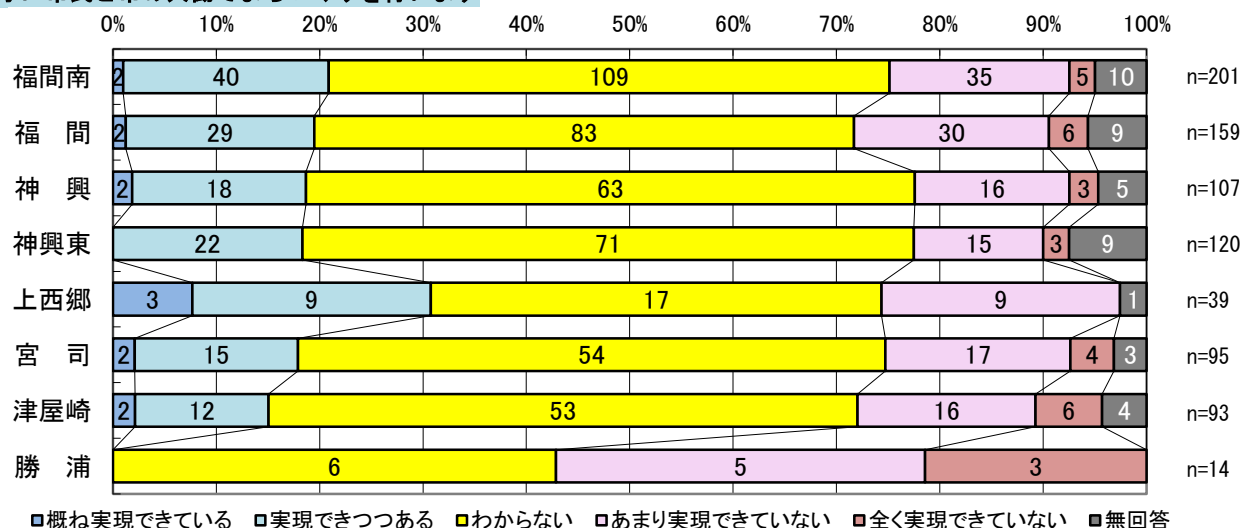


☐ 概ね実現できている
 ☐ 実現できつつある
 ☐ わからない
 ☐ あまり実現できていない
 ☐ 全く実現できていない
 ☐ 無回答

エ. みんなが安心して、安全に暮らせるまちづくりを行います



オ. 市民と市の共働でまちづくりを行います



(3) 施策の満足度・重要度

設問番号：問 5

目 的：都市マスの主要施策の満足度と重要度を評価する

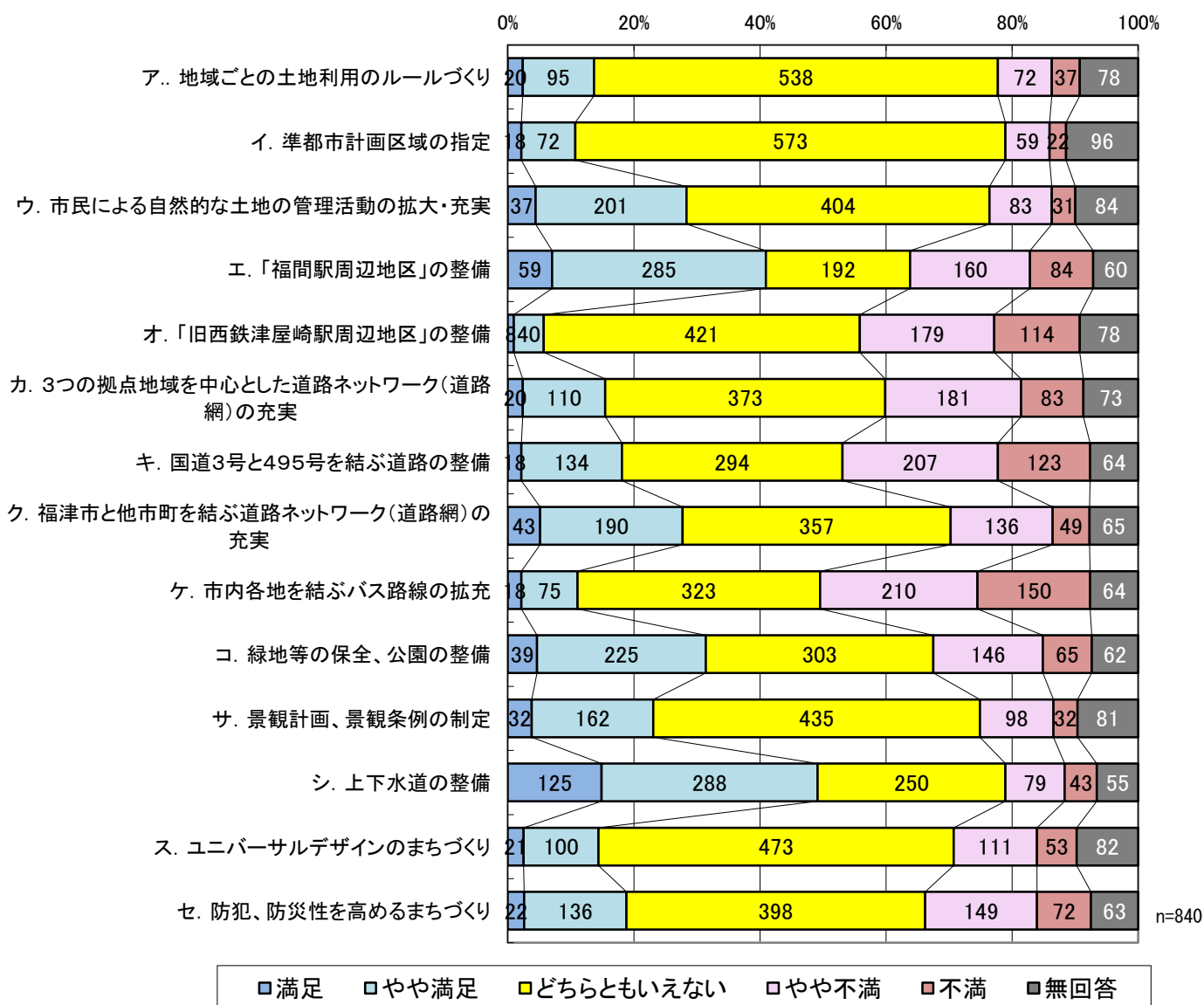
解答方法：5段階（満足度：満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、不満）（重要度：重要、やや重要、どちらともいえない、あまり重要でない、重要でない）の中から1つだけ選択する単一解答設問

【満足度】

<全市：施策の満足度>

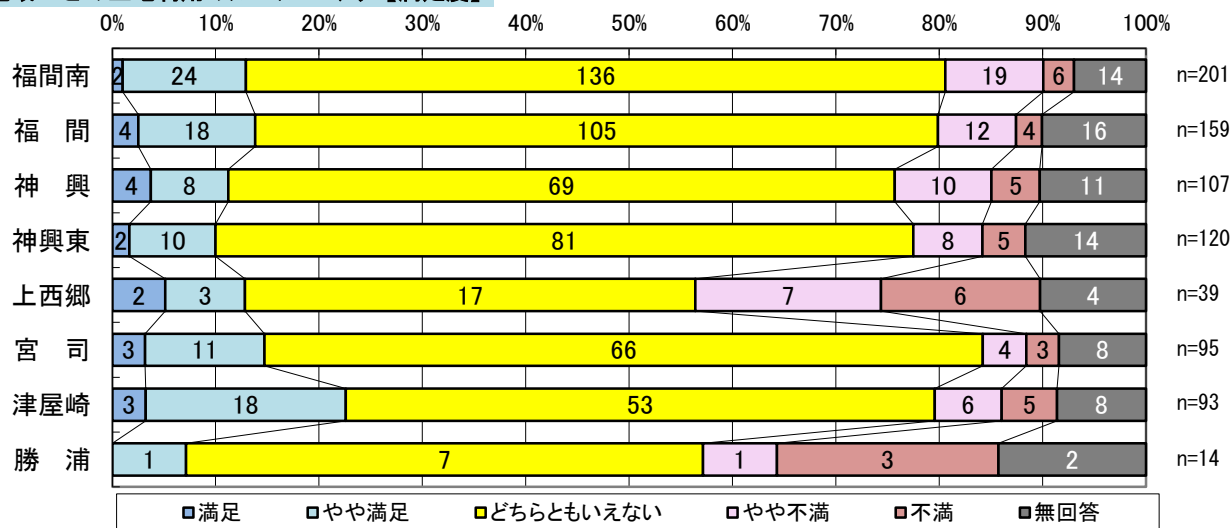
□「満足」「やや満足」が多かったのは、「上下水道の整備」、次いで「福間駅周辺地区の整備」など、近年、福津市が重点的に推進してきた施策であった。

□「不満」「やや不満」が多かったのは、「市内各地区を結ぶバス路線の拡充」と「国道3号と495号を結ぶ道路の整備」など、道路や交通網に関する施策や「旧西鉄津屋崎駅周辺の整備」であった。

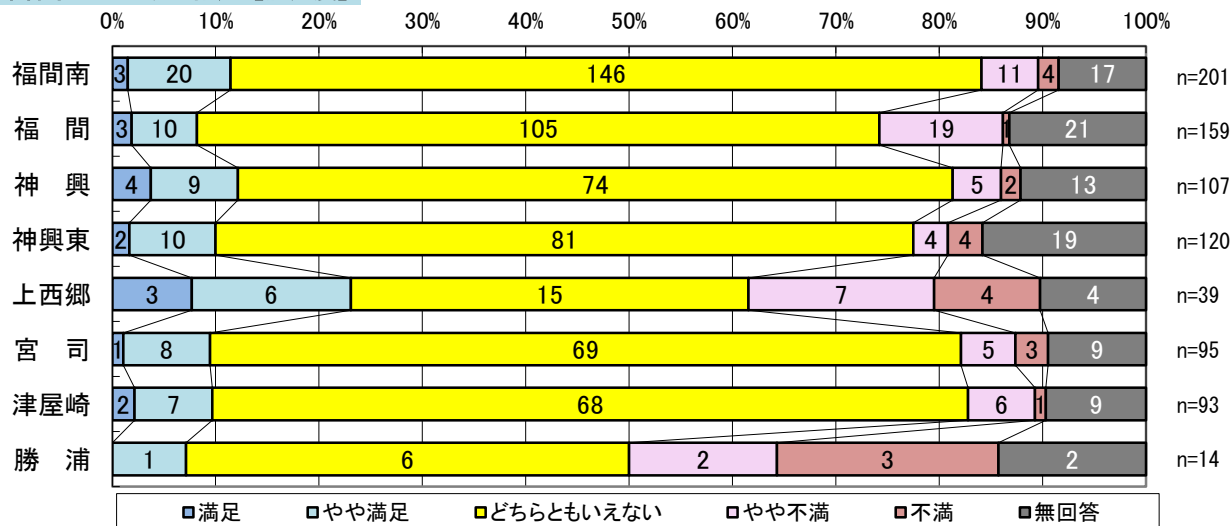


<地域別・施策毎：施策の満足度>

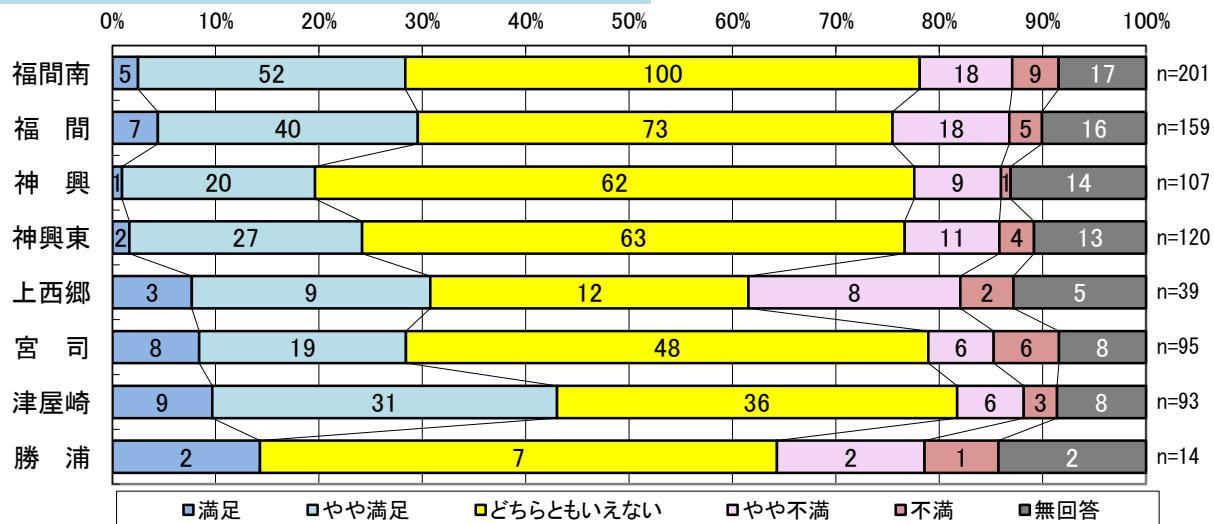
ア. 地域ごとの土地利用のルールづくり【満足度】



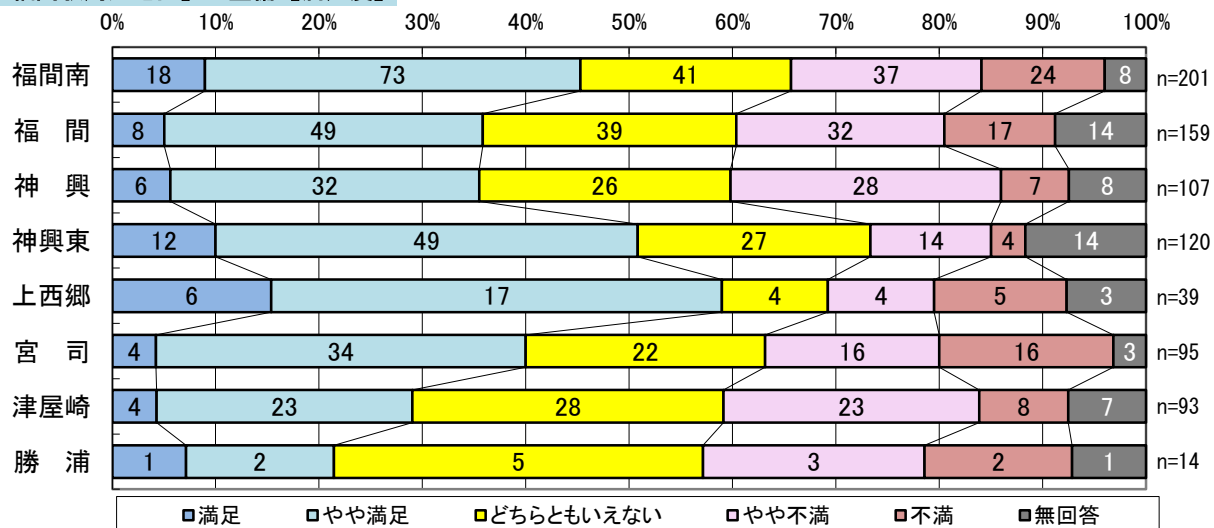
イ. 準都市計画区域の指定【満足度】



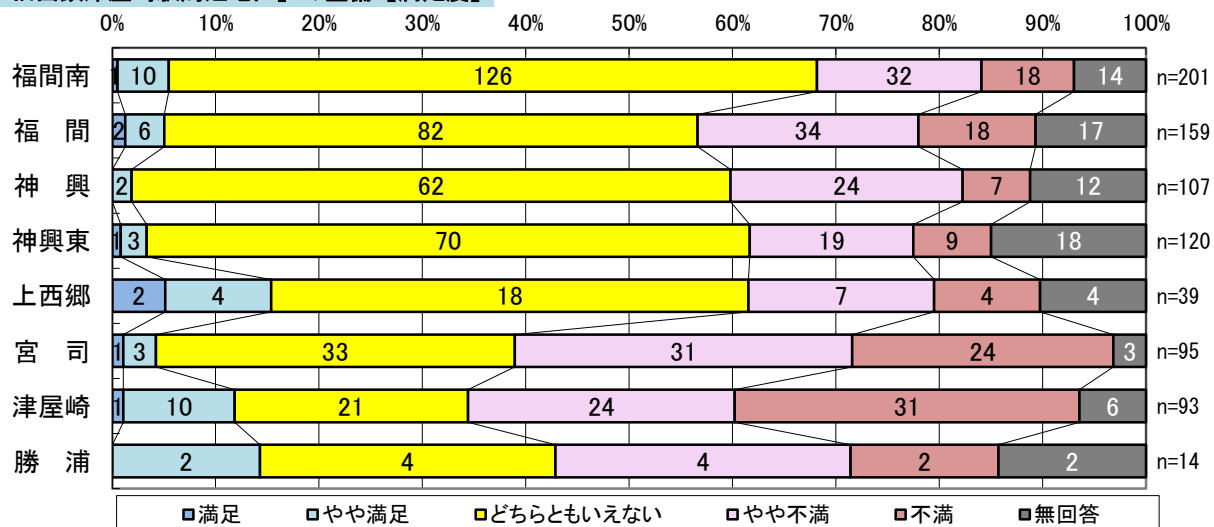
ウ. 市民による自然的な土地の管理活動の拡大・充実【満足度】



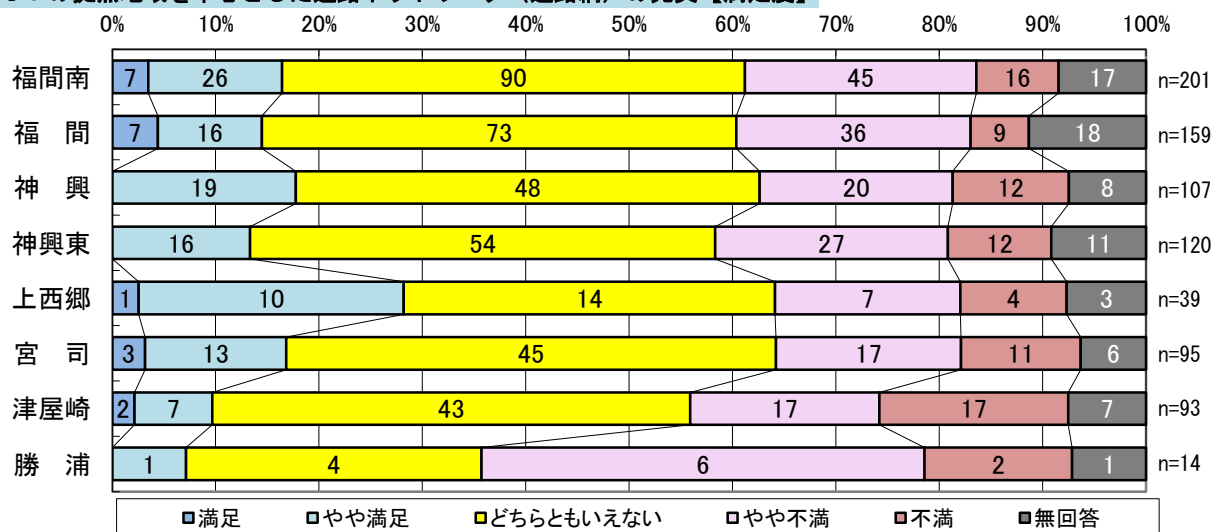
エ.「福間駅周辺地区」の整備【満足度】



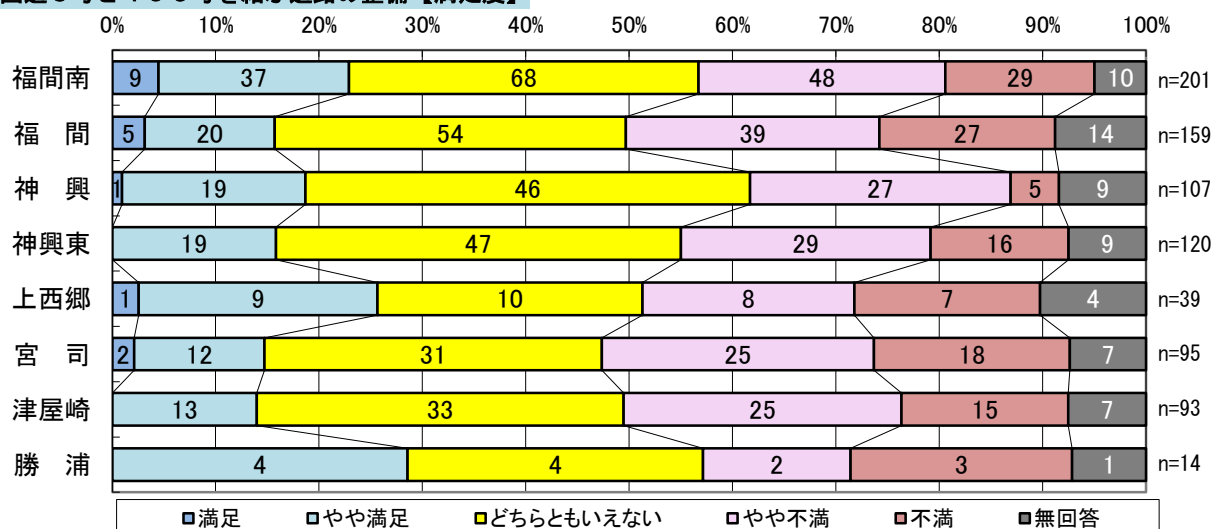
オ.「旧西鉄津屋崎駅周辺地区」の整備【満足度】



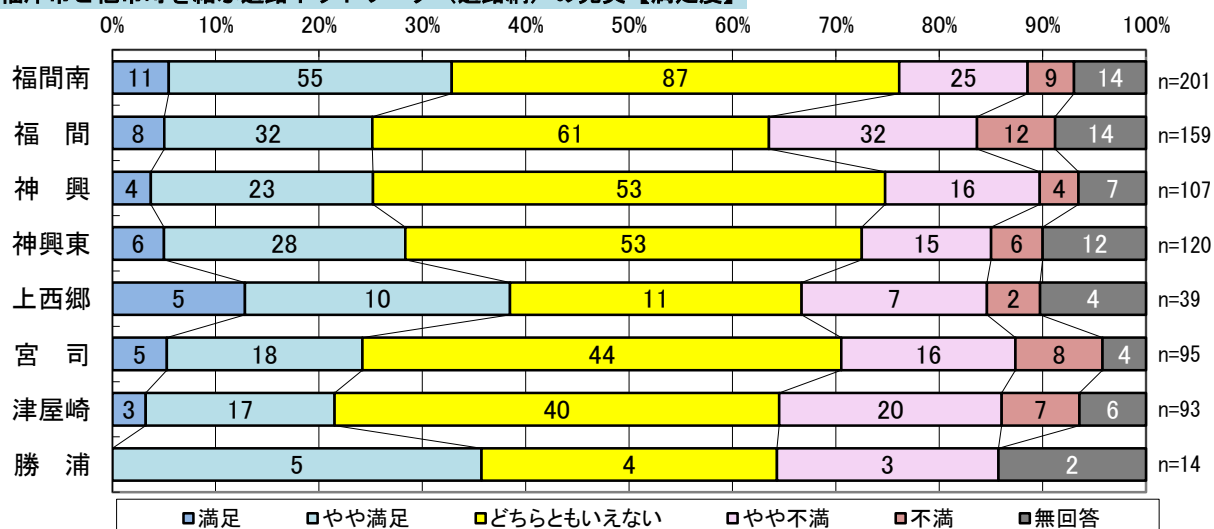
カ. 3つの拠点地域を中心とした道路ネットワーク（道路網）の充実【満足度】



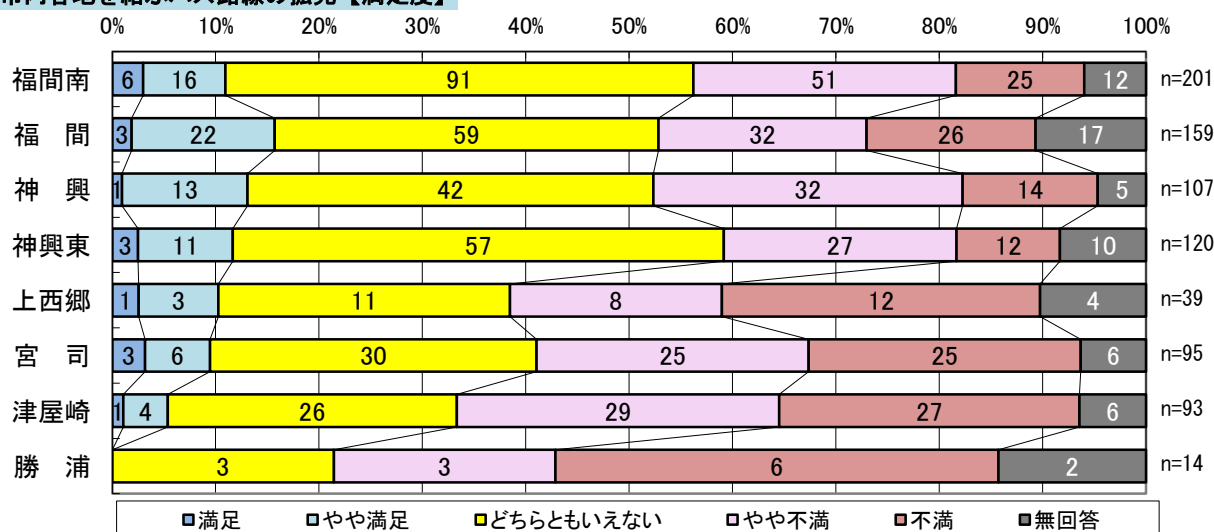
キ. 国道3号と495号を結ぶ道路の整備【満足度】



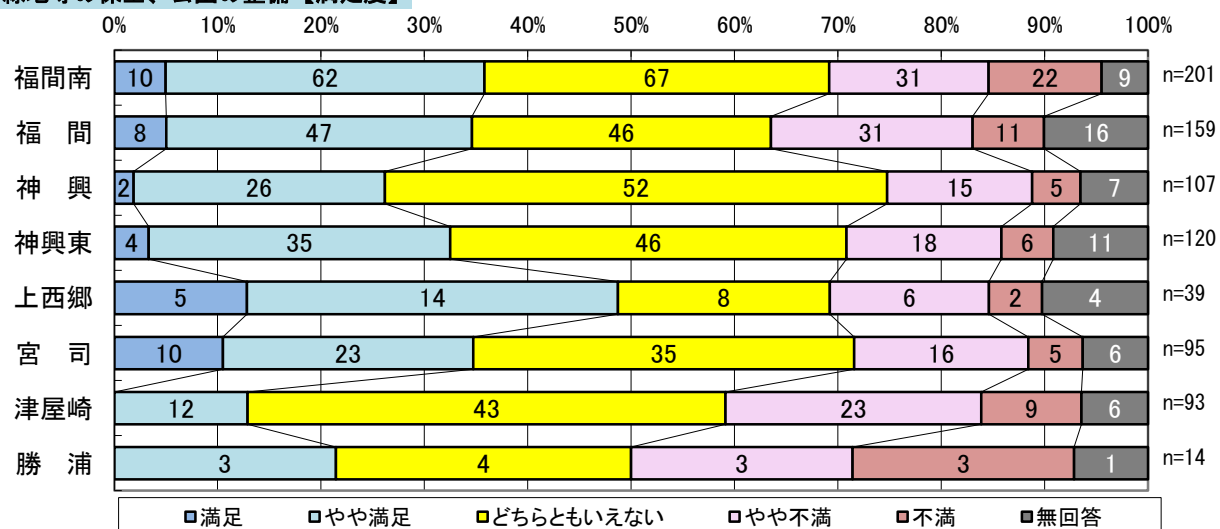
ク. 福津市と他市町を結ぶ道路ネットワーク（道路網）の充実【満足度】



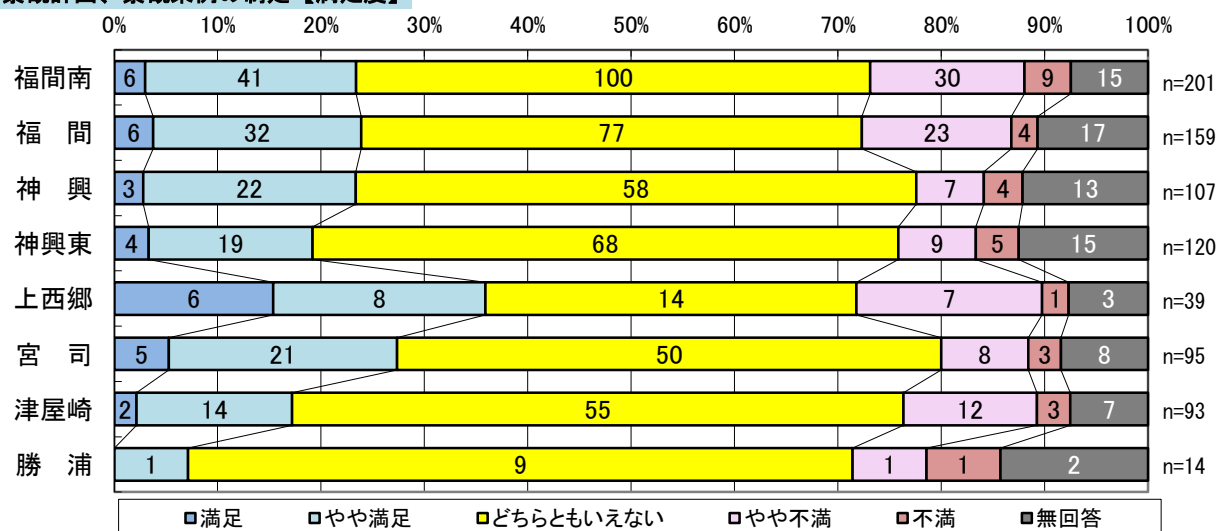
ケ. 市内各地を結ぶバス路線の拡充【満足度】



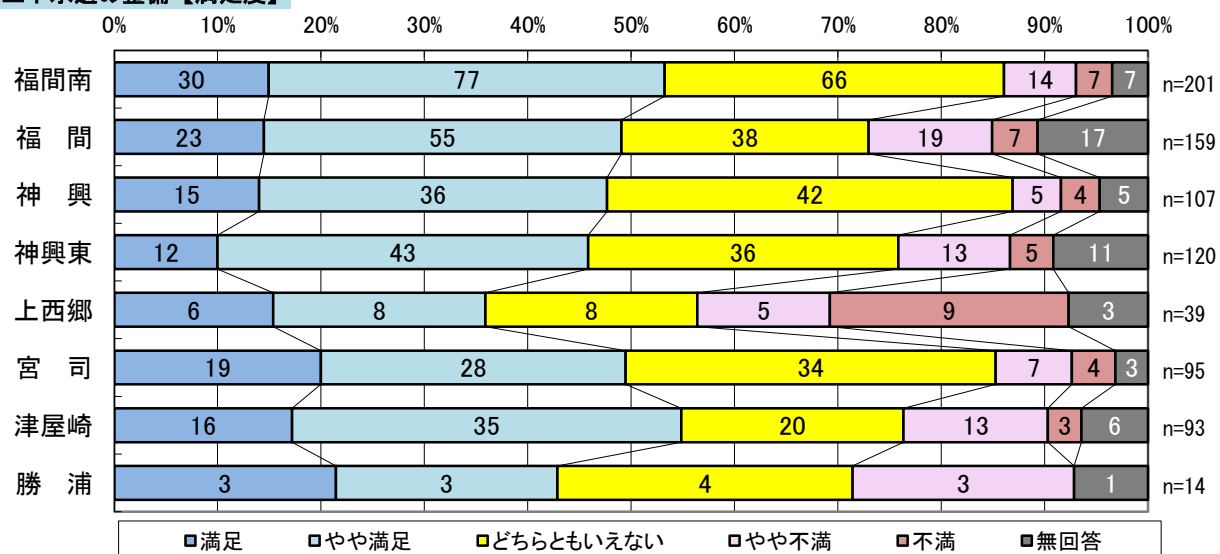
コ. 緑地等の保全、公園の整備【満足度】



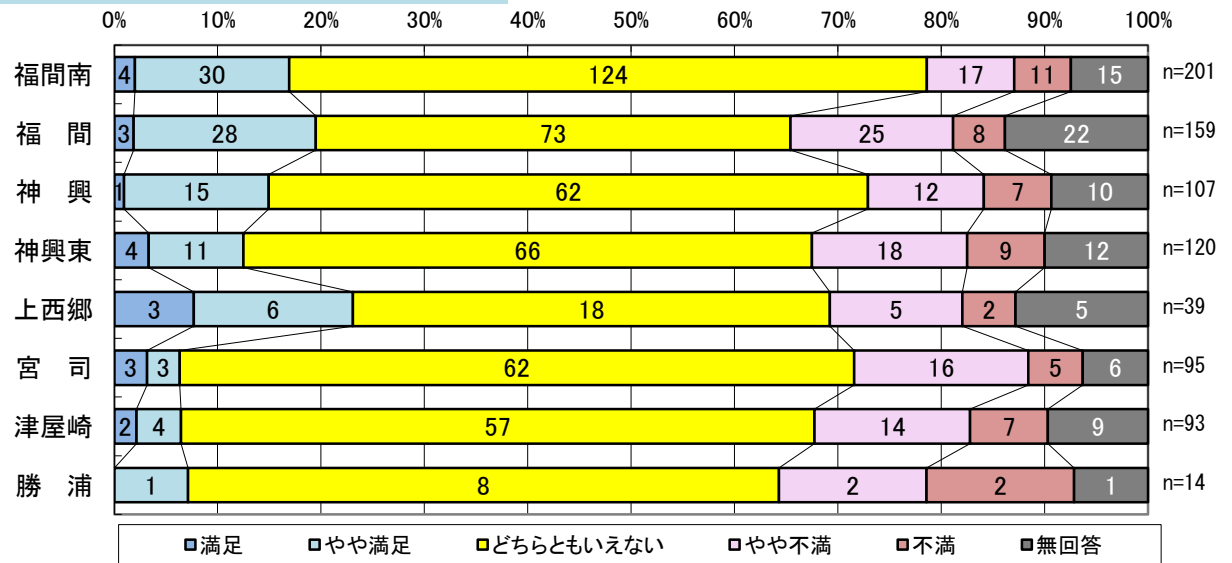
サ. 景観計画、景観条例の制定【満足度】



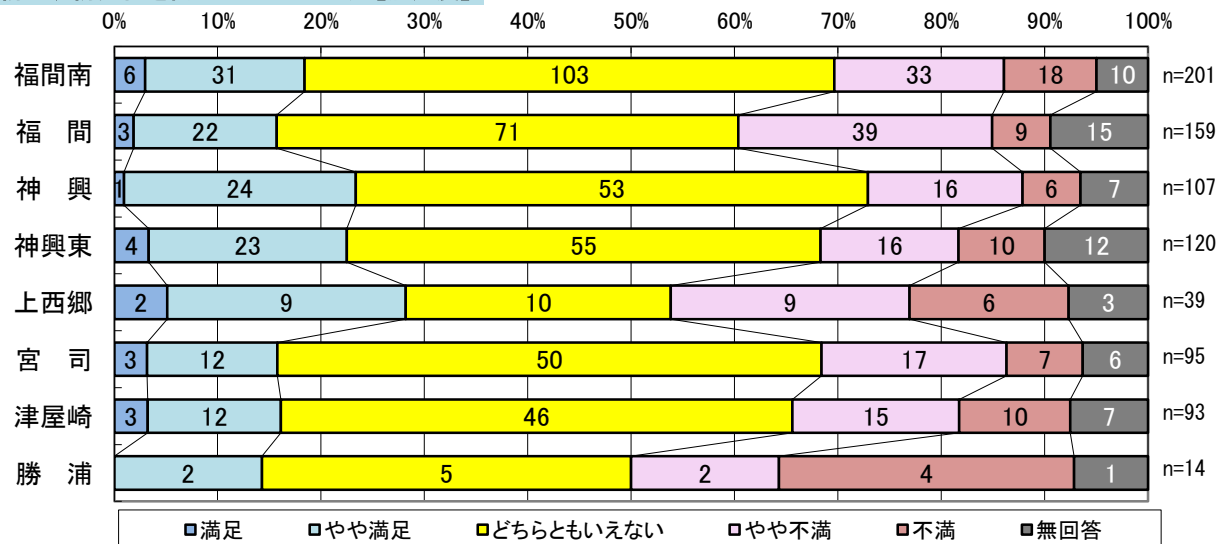
シ. 上下水道の整備【満足度】



ス. ユニバーサルデザインのまちづくり【満足度】



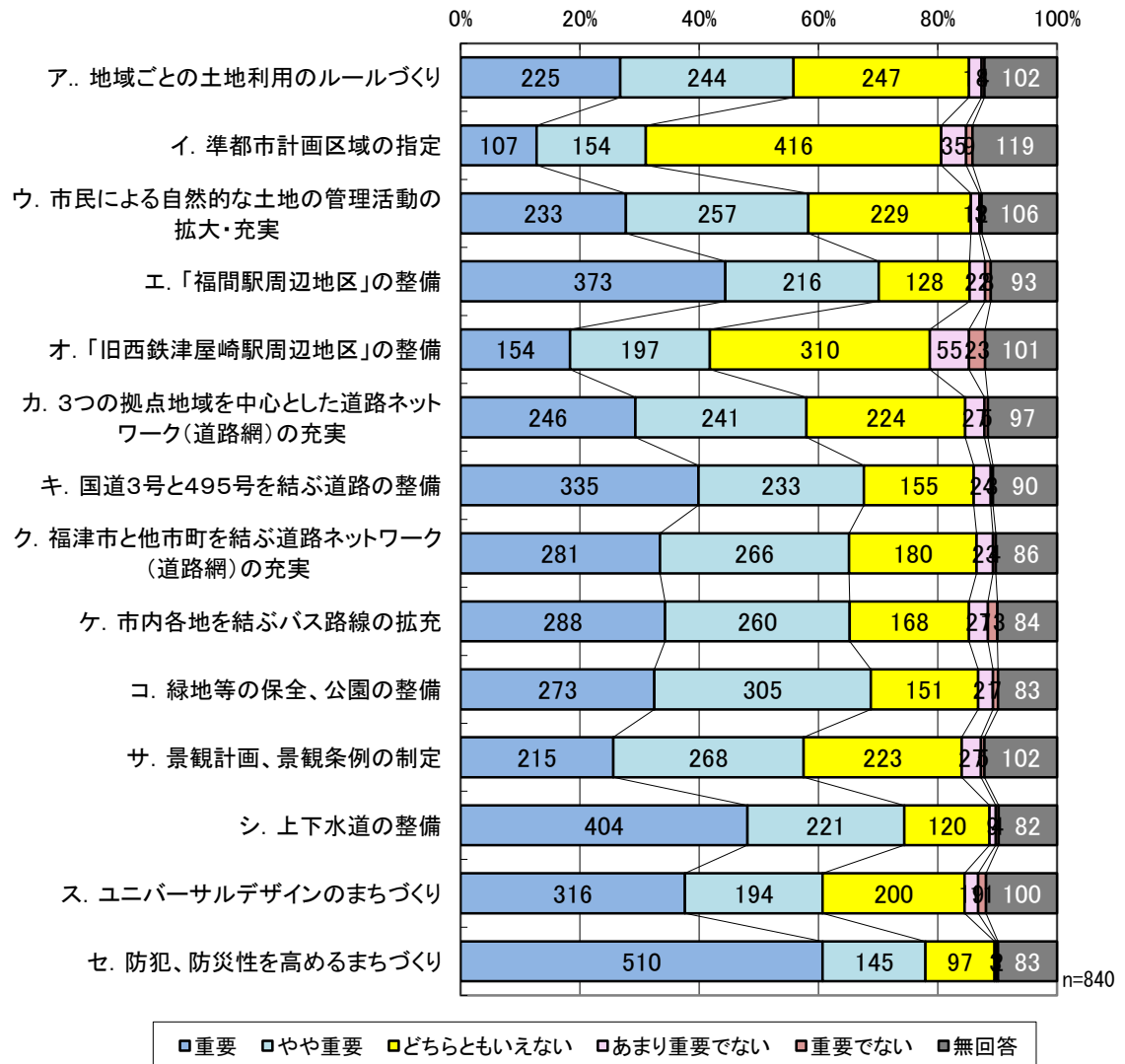
セ. 防犯、防災性を高めるまちづくり【満足度】



【重要度】

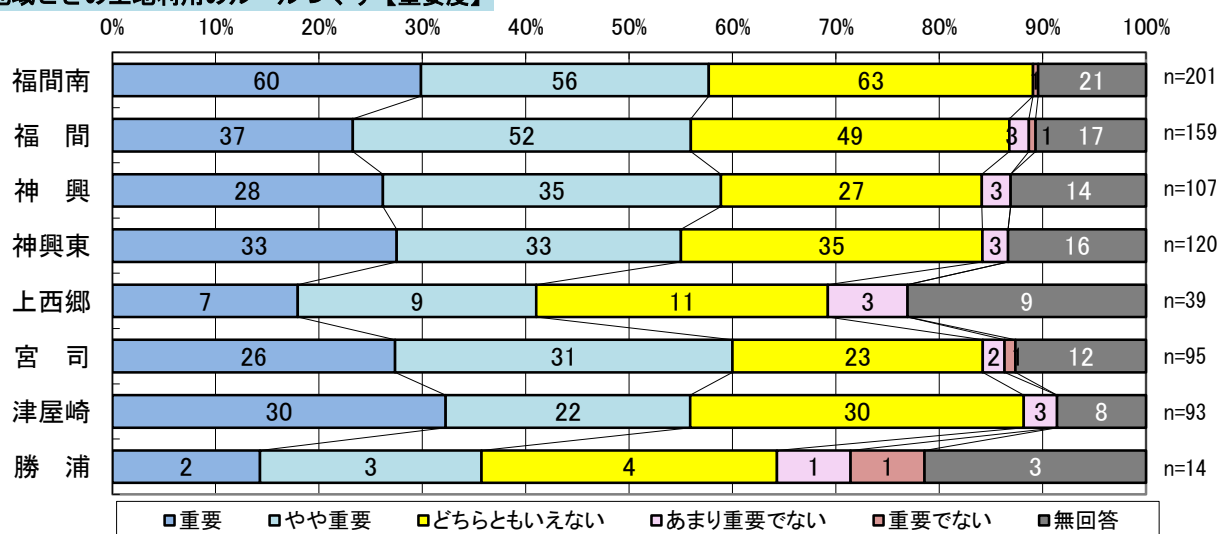
<全市：施策の重要度>

- 最も重要度が高い施策は「防犯、防災性を高めるまちづくり」であり、次いで「上下水道の整備」「福間駅周辺地区の整備」であった。
- 「重要ではない」「あまり重要ではない」という回答はどの施策でも少なかったが、「重要」「やや重要」という回答が少なかったのは「準都市計画区域の指定」と「旧西鉄津屋崎駅周辺地区の整備」であった。

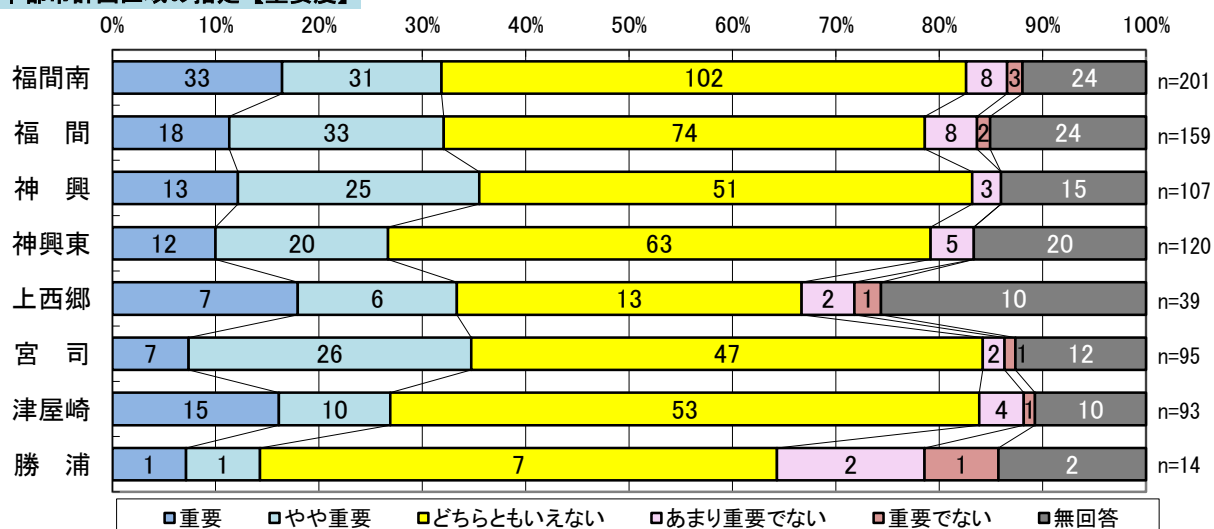


<地域別・施策毎：施策の重要度>

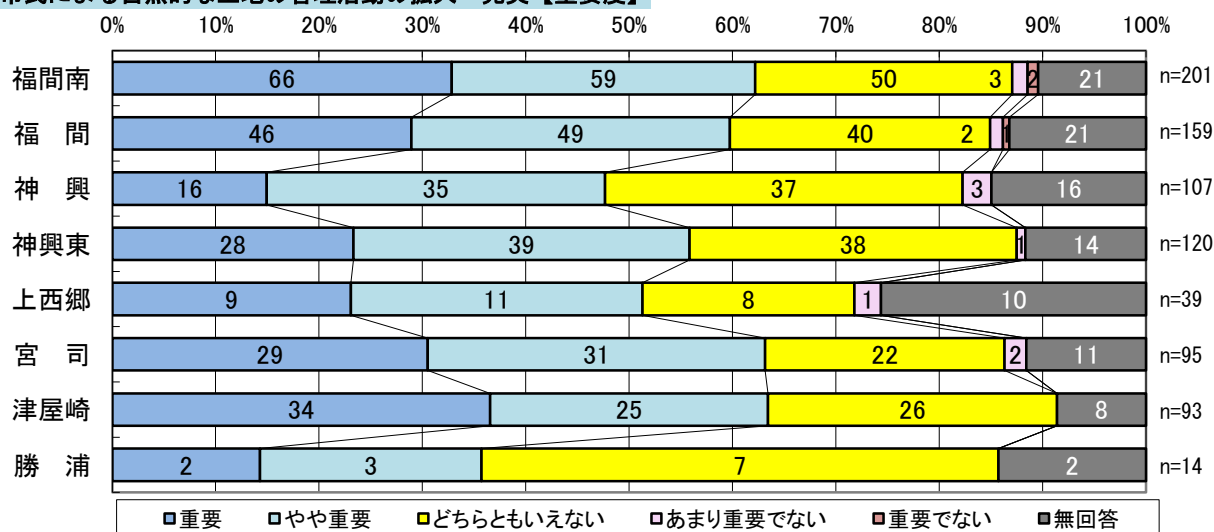
ア. 地域ごとの土地利用のルールづくり【重要度】



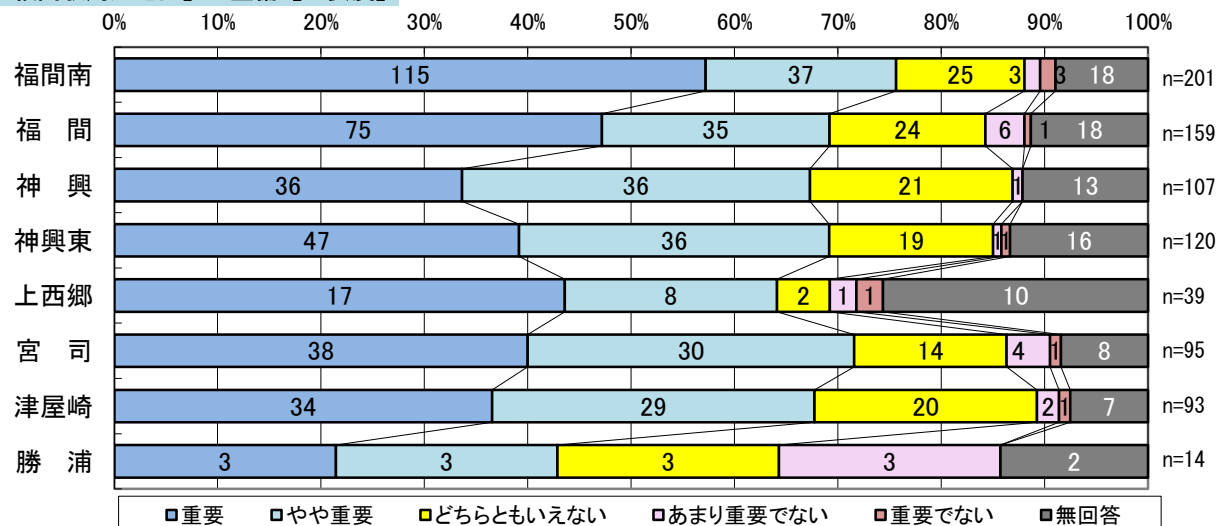
イ. 準都市計画区域の指定【重要度】



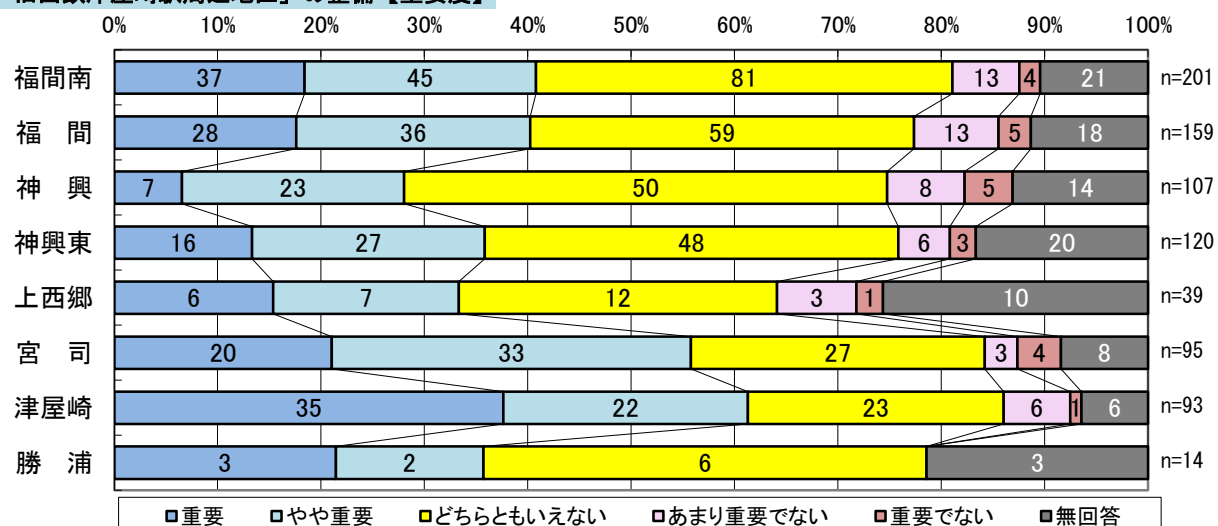
ウ. 市民による自然的な土地の管理活動の拡大・充実【重要度】



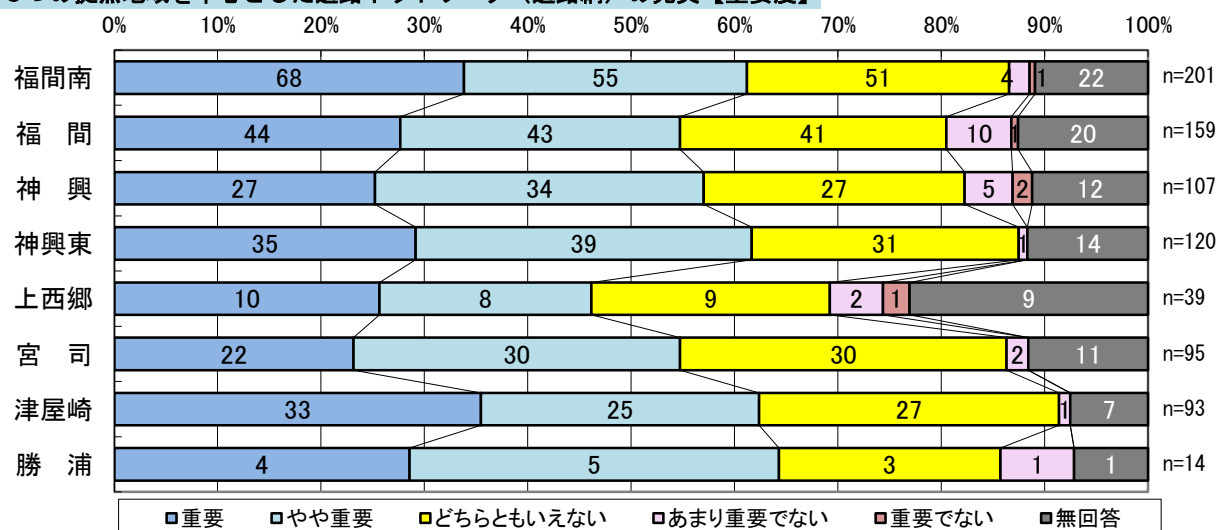
エ.「福間駅周辺地区」の整備【重要度】



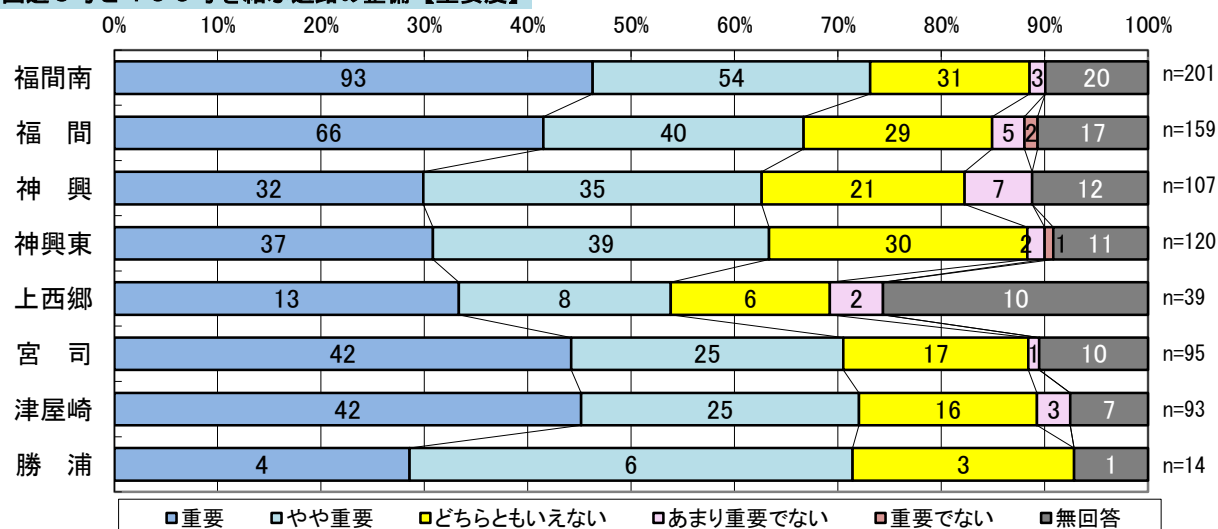
オ.「旧西鉄津屋崎駅周辺地区」の整備【重要度】



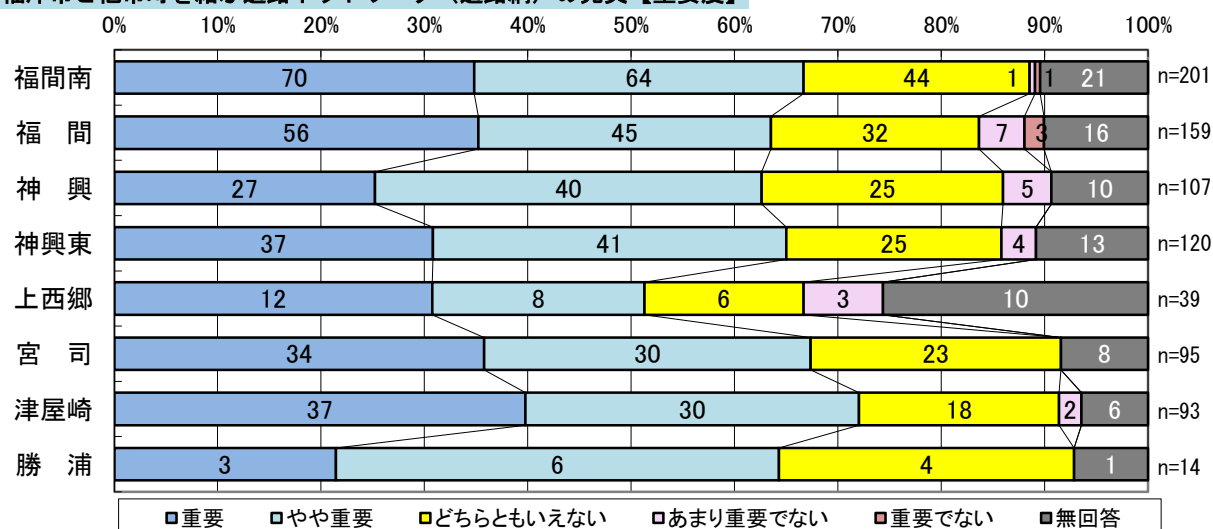
カ. 3つの拠点地域を中心とした道路ネットワーク（道路網）の充実【重要度】



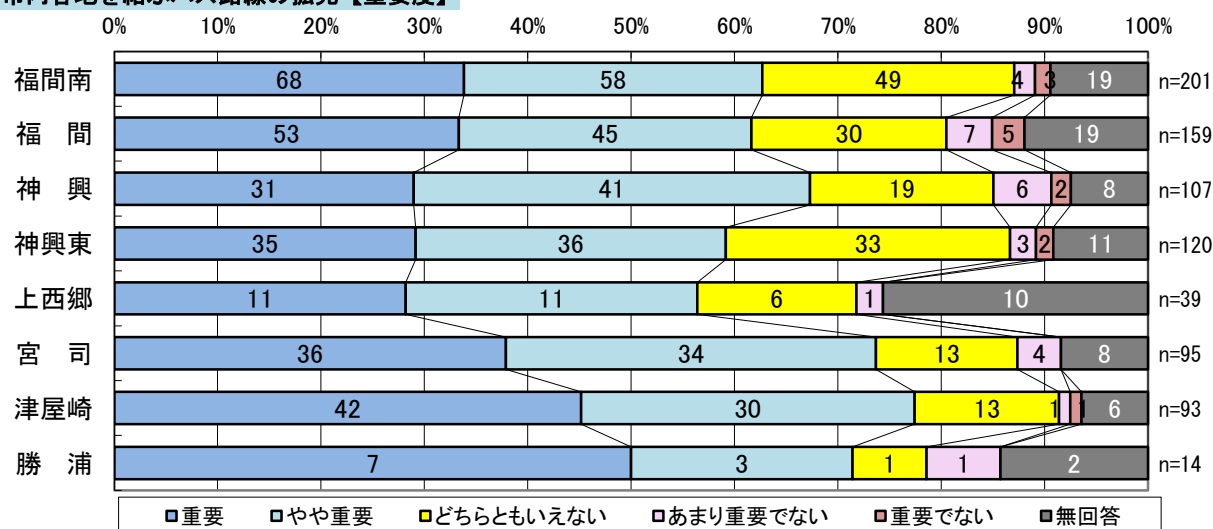
キ. 国道3号と495号を結ぶ道路の整備【重要度】



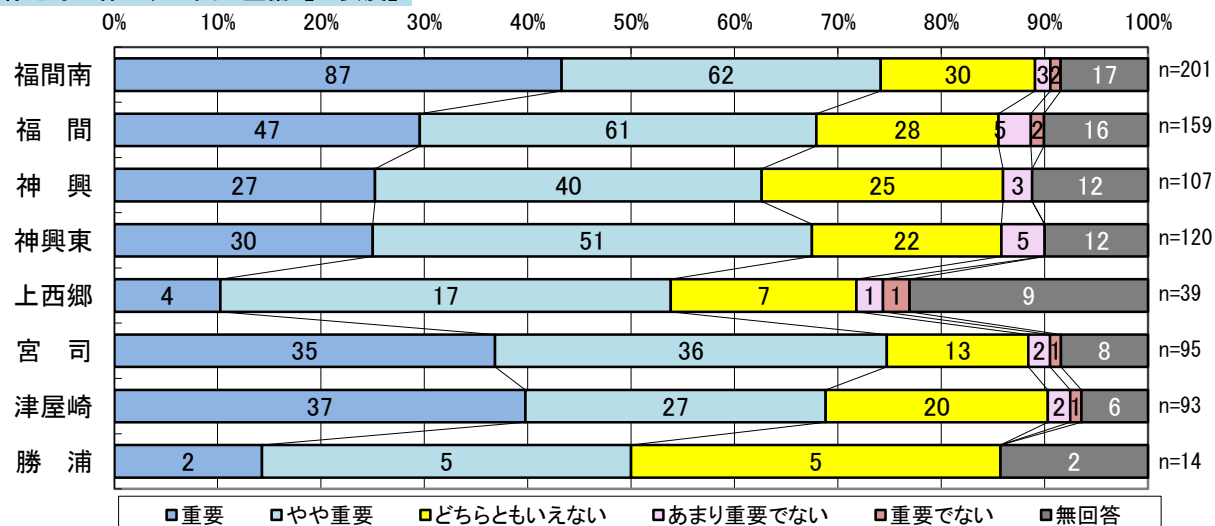
ク. 福津市と他市町を結ぶ道路ネットワーク（道路網）の充実【重要度】



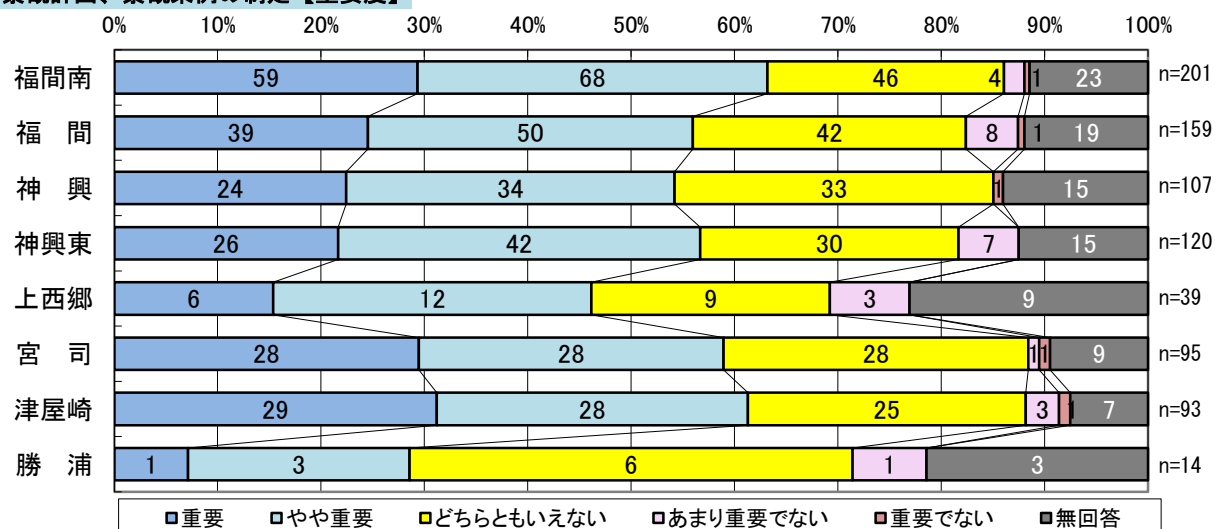
ケ. 市内各地を結ぶバス路線の拡充【重要度】



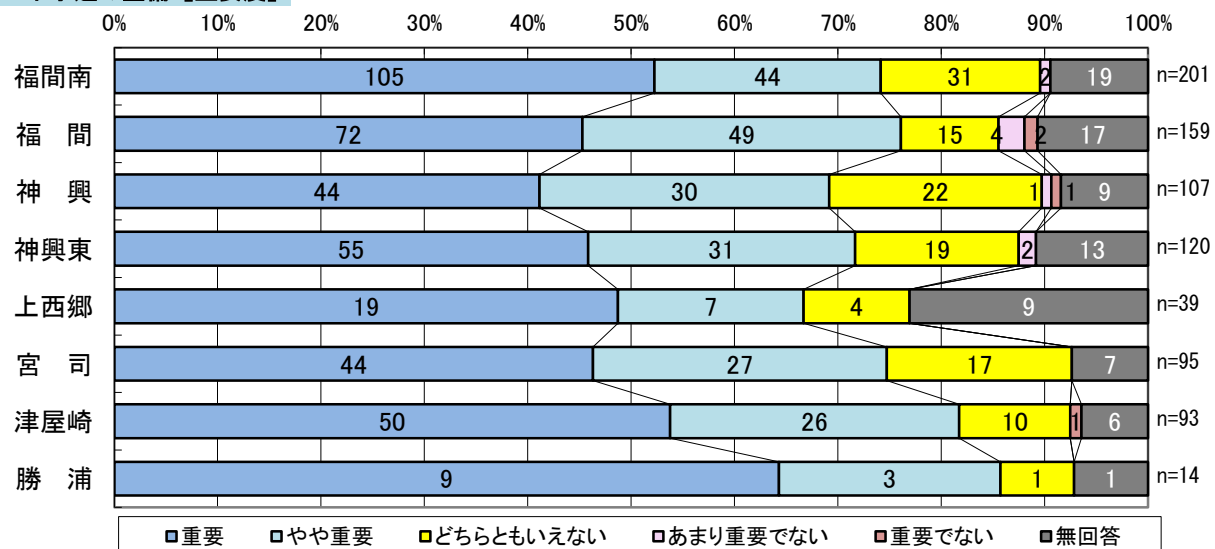
コ. 緑地等の保全、公園の整備【重要度】



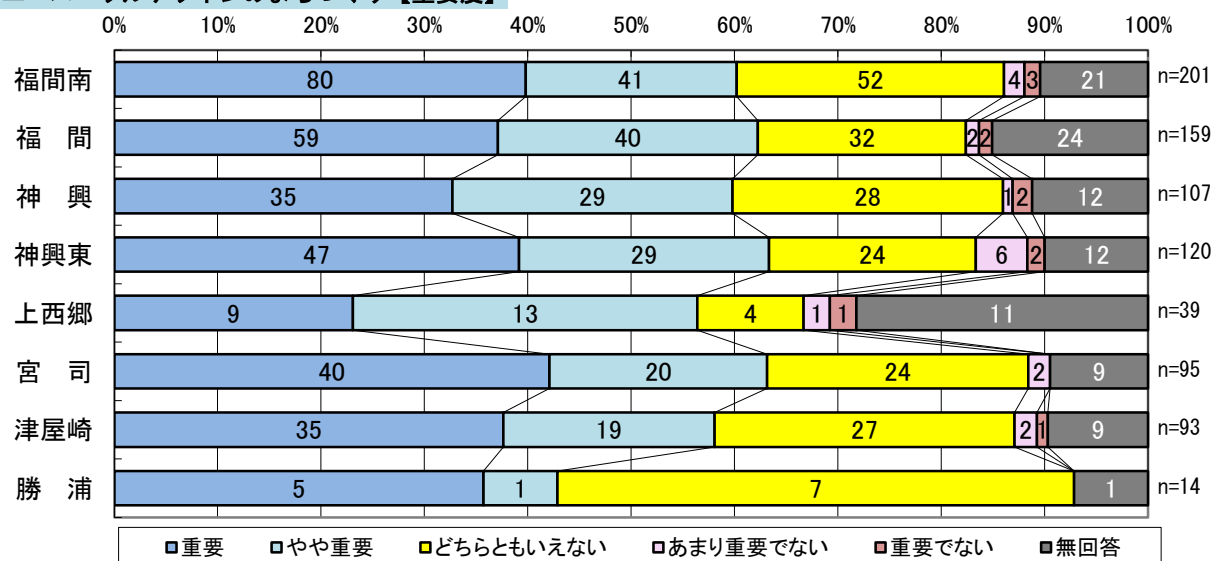
サ. 景観計画、景観条例の制定【重要度】



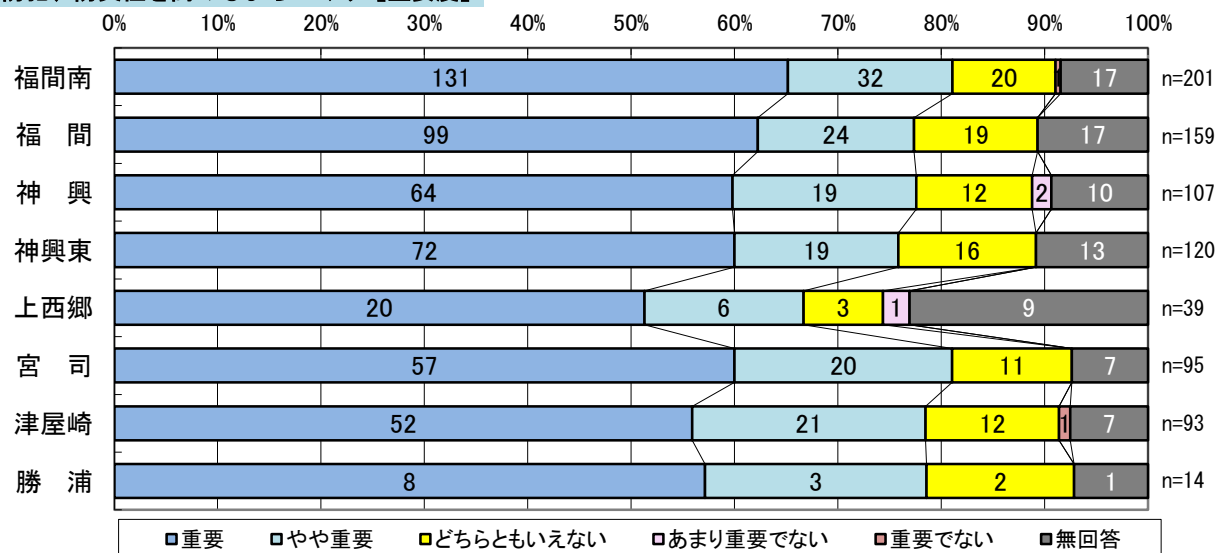
シ. 上下水道の整備【重要度】



ス. ユニバーサルデザインのまちづくり【重要度】



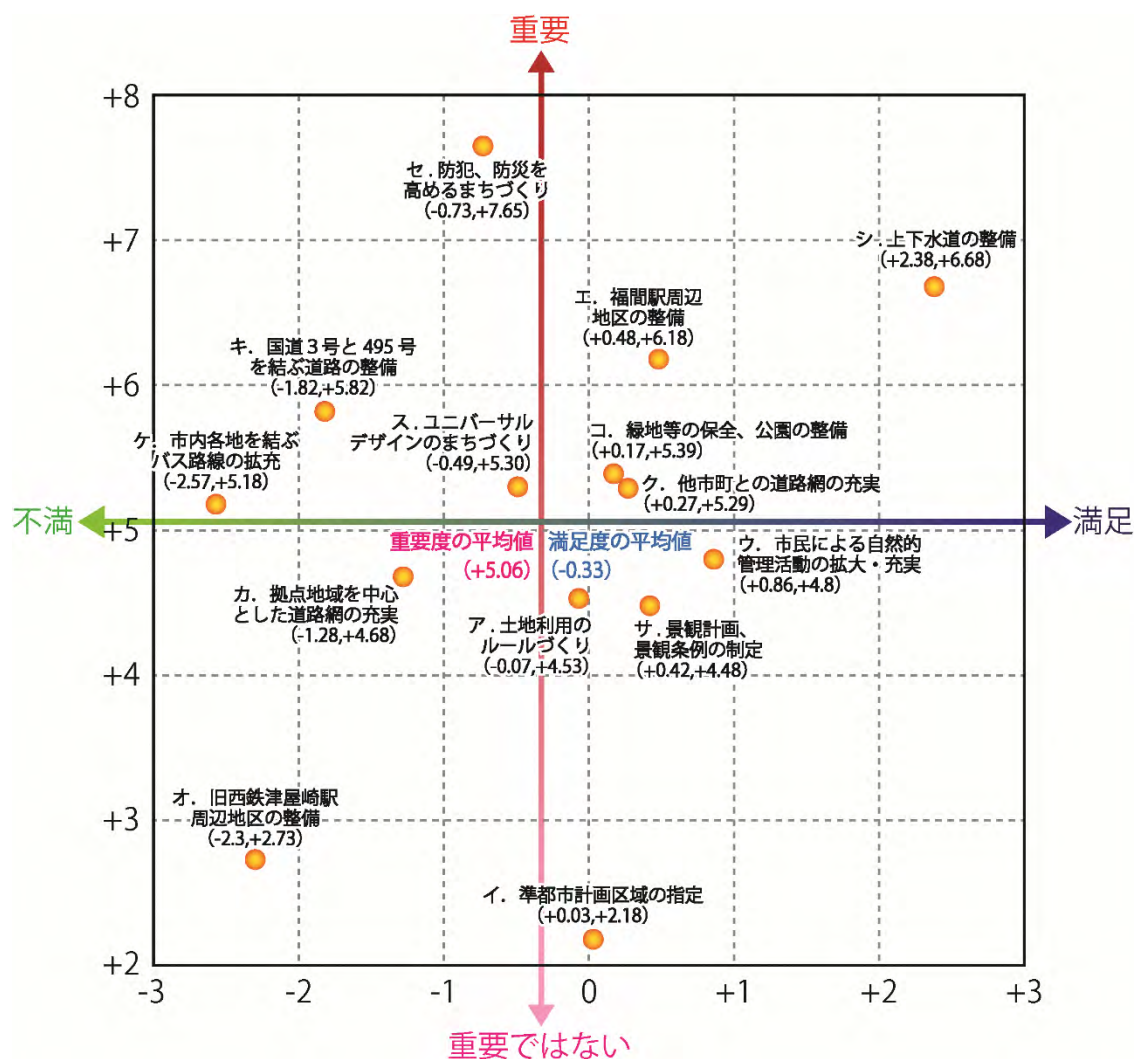
セ. 防犯、防災性を高めるまちづくり【重要度】



【満足度と重要度の関係】

これまで取り組んできたまちづくりの施策について、**満足度**と**重要度**の平均評価点を算出し、満足度重要度の両方から評価した。

- 満足度が低く、重要度が高い、いわゆる重点的に取り組むべき施策として評価されている施策は「防犯、防災を高めるまちづくり」「国道3号と495号を結ぶ道路の整備」「市内各地を結ぶバス路線の拡充」である。
- 「上下水道の整備」については重要度が高いと認識されており、なおかつ満足度も高い。



●満足度・重要度を示す平均評価点の算出方法

満足度 平均評価点	=	$\frac{\begin{array}{l} \text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ \text{「やや不満」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ \text{「不満」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\text{の合計}}$	÷	$\begin{array}{l} \text{「満足」} \\ \text{「やや満足」} \\ \text{「どちらともいえない」} \\ \text{「やや不満」} \\ \text{「不満」} \end{array} \text{の回答者数の合計} \\ \text{(無回答を除く回答者数)}$
重要度 平均評価点	=	$\frac{\begin{array}{l} \text{「重要」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ \text{「やや重要」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ \text{「あまり重要でない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ \text{「重要でない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\text{の合計}}$	÷	$\begin{array}{l} \text{「重要」} \\ \text{「やや重要」} \\ \text{「どちらともいえない」} \\ \text{「あまり重要でない」} \\ \text{「重要でない」} \end{array} \text{の回答者数の合計} \\ \text{(無回答を除く回答者数)}$

2-4.福津市のまちの方向性

(1) 発展の方向性

設問番号：問 6

目 的：今後の本市のまちづくりはどの部分に重点を置くべきか、その方向性に対する意向を把握する

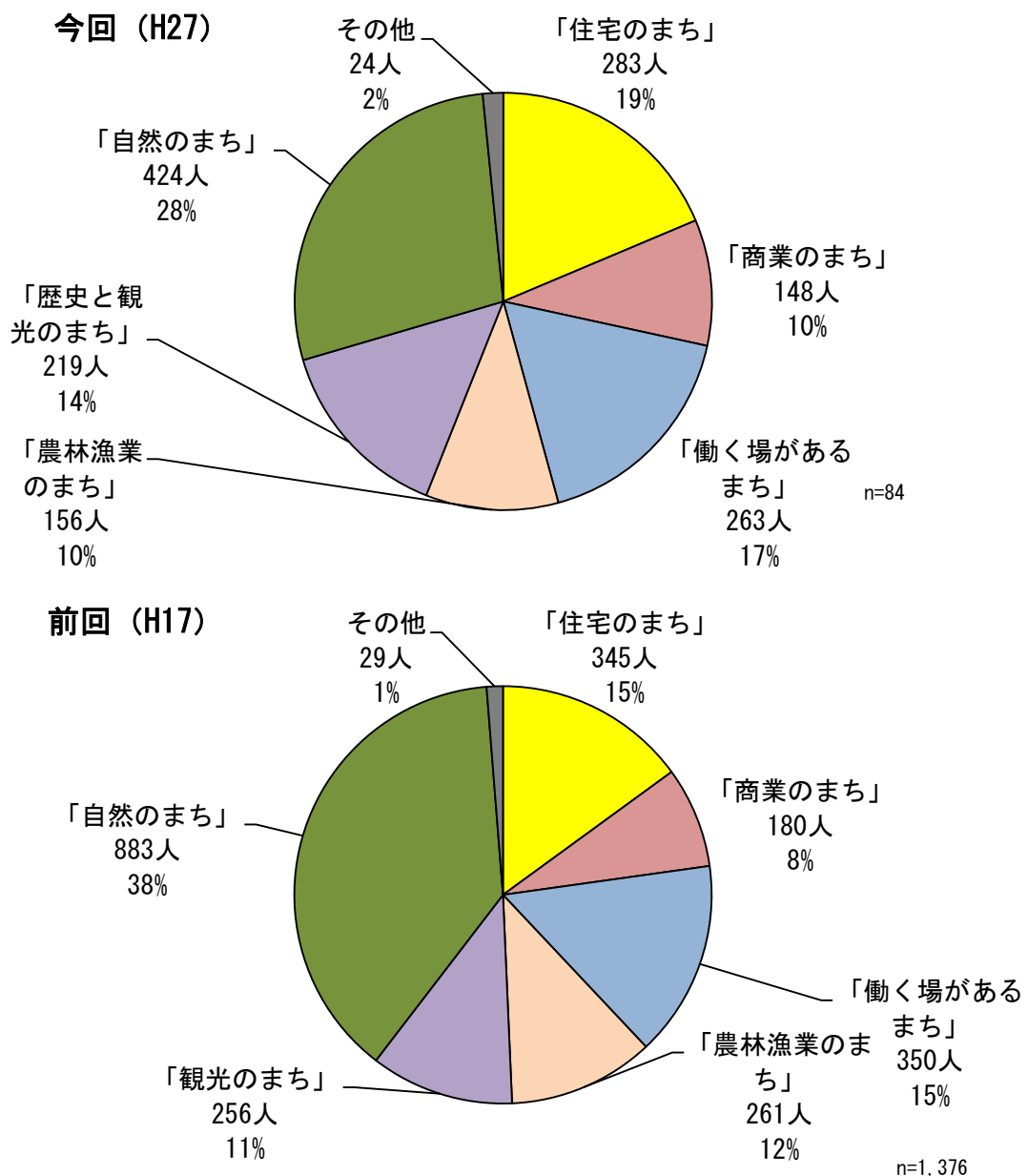
解答方法：方向性を 6 項目示しそのうち 2 つまで選択する複数解答設問

※今回調査「歴史と観光のまち」は、前回調査（H17 年）では「観光のまち」となっている。

<全市>

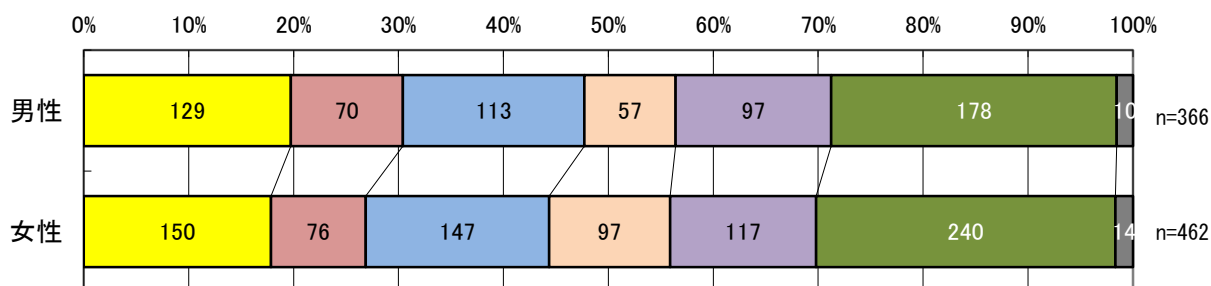
□「自然のまち」としての発展を望む意見が 424 人（28%）と最も多いが、前回調査と比較して「自然のまち」を望む意見の割合は減少している。

□「商業のまち」「農林漁業のまち」を望む意見は、他より少ない。



<性別>

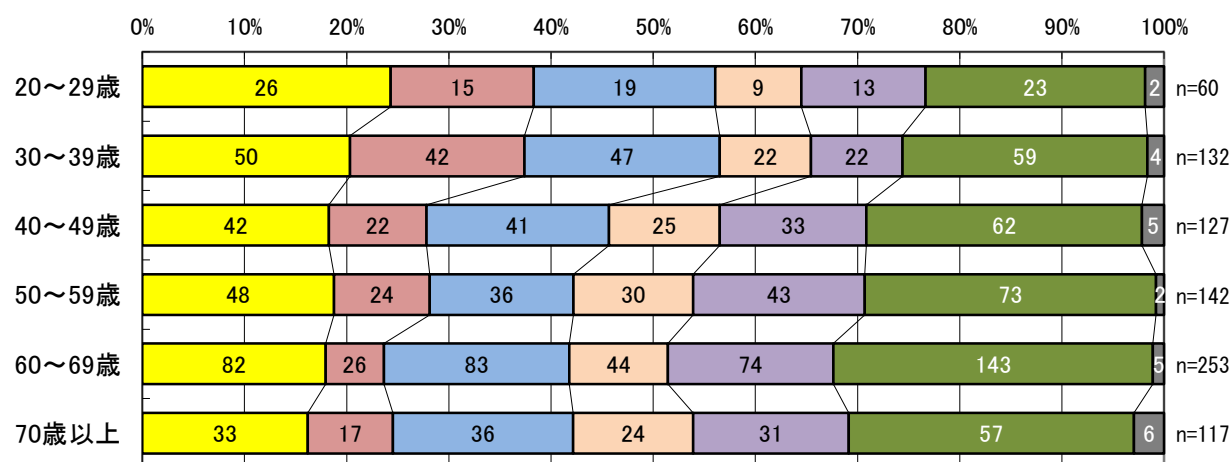
- 男女ともに、「自然のまち」が最も多い。
- 男性は「住宅のまち」「商業のまち」の割合が女性より高い。
- 女性は「自然のまち」「農林漁業のまち」の割合が男性より高い。



■「住宅のまち」 ■「商業のまち」 ■「働く場があるまち」 ■「農林漁業のまち」 ■「歴史と観光のまち」 ■「自然のまち」 ■その他

<年齢別>

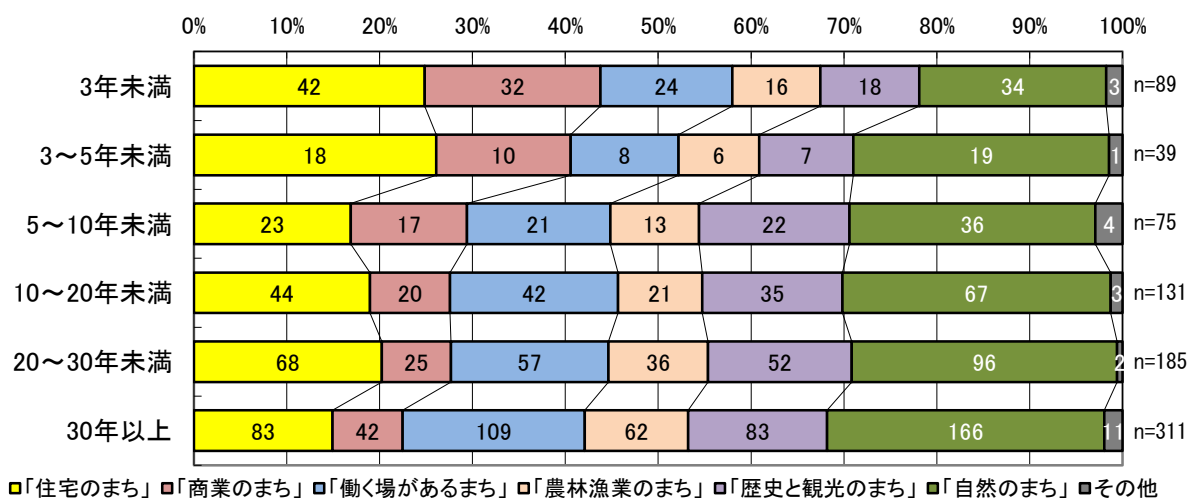
- 20～30代若い世代では、「住宅のまち」や「商業のまち」の割合が高い。



■「住宅のまち」 ■「商業のまち」 ■「働く場があるまち」 ■「農林漁業のまち」 ■「歴史と観光のまち」 ■「自然のまち」 ■その他

<居住年数別>

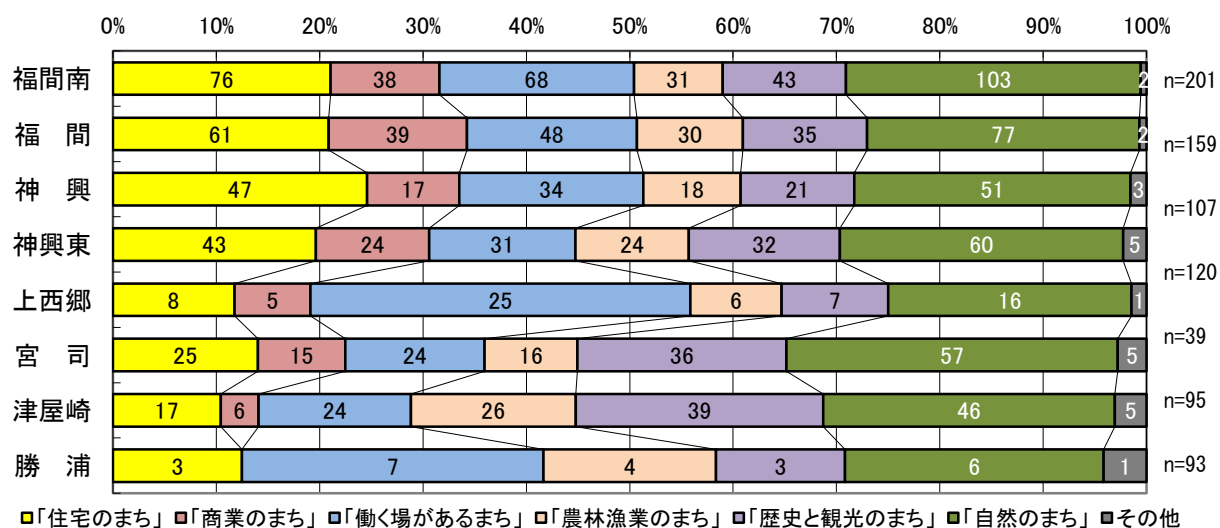
□年齢別と同様に居住年数が短い人は、「住宅のまち」や「商業のまち」の割合が高い。



<地域別>

□上西郷と勝浦では「働く場があるまち」の割合が最も多く、それ以外の地域で「自然のまち」の割合が最も多い。

□神興地域、福間南地域、福間地域、神興東地域などの住宅地で「住宅のまち」や「商業のまち」が多い。



(2) 快適で魅力あるまちにするために必要な施策

設問番号：問 7

目 的：まちの魅力を形成するために重要な具体施策を把握する

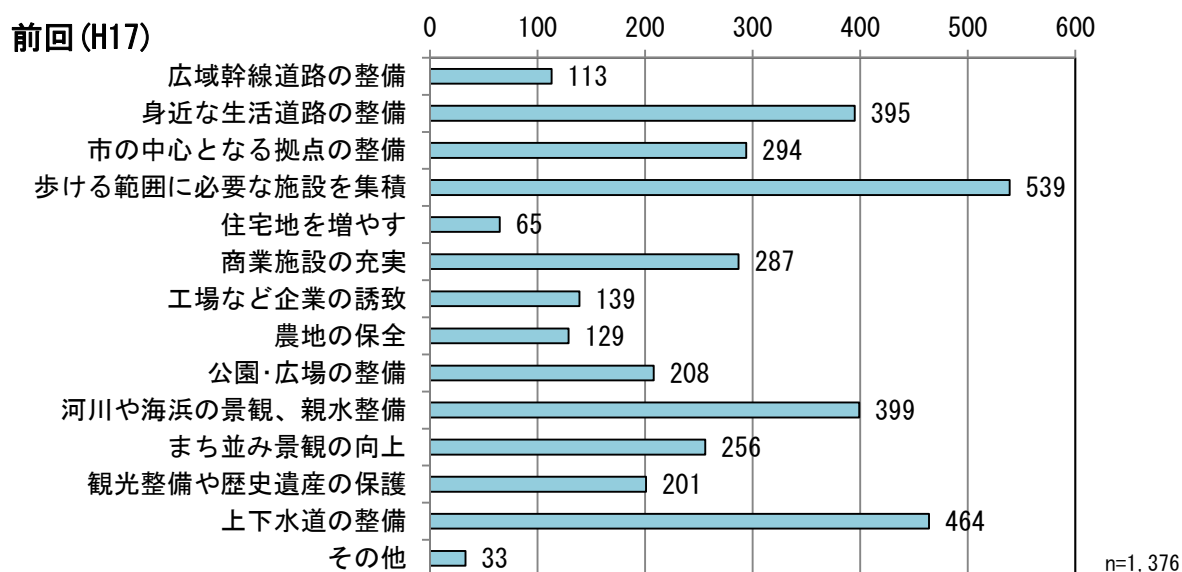
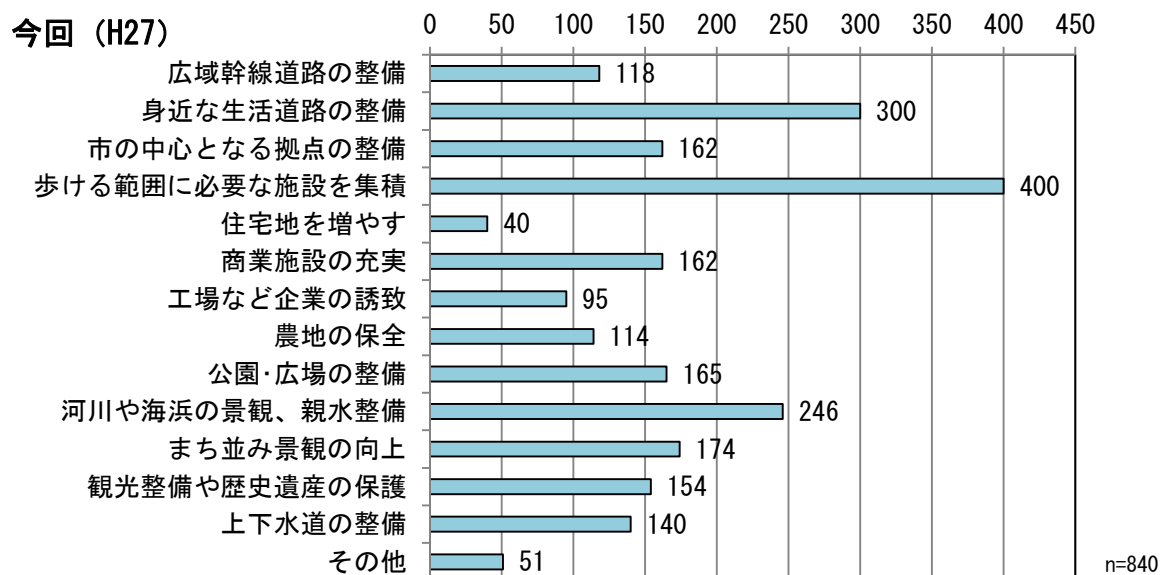
解答方法：施策を 13 項目示しそのうち 3 つまで選択する複数解答設問

<全市>

□重要だという意見が最も多かったのは「歩ける範囲に必要な施設を集積」することであり、身近な場所の生活利便性の向上を求めていることが伺える。

□その他、「身近な生活道路の整備」や「河川や海辺の景観、親水整備」の要望も高い。

□前回調査と比較して「上下水道の整備」が重要という意見が大きく減少している。問 5 の設問でも、上下水道についての市民の満足度は非常に高くなっていた。

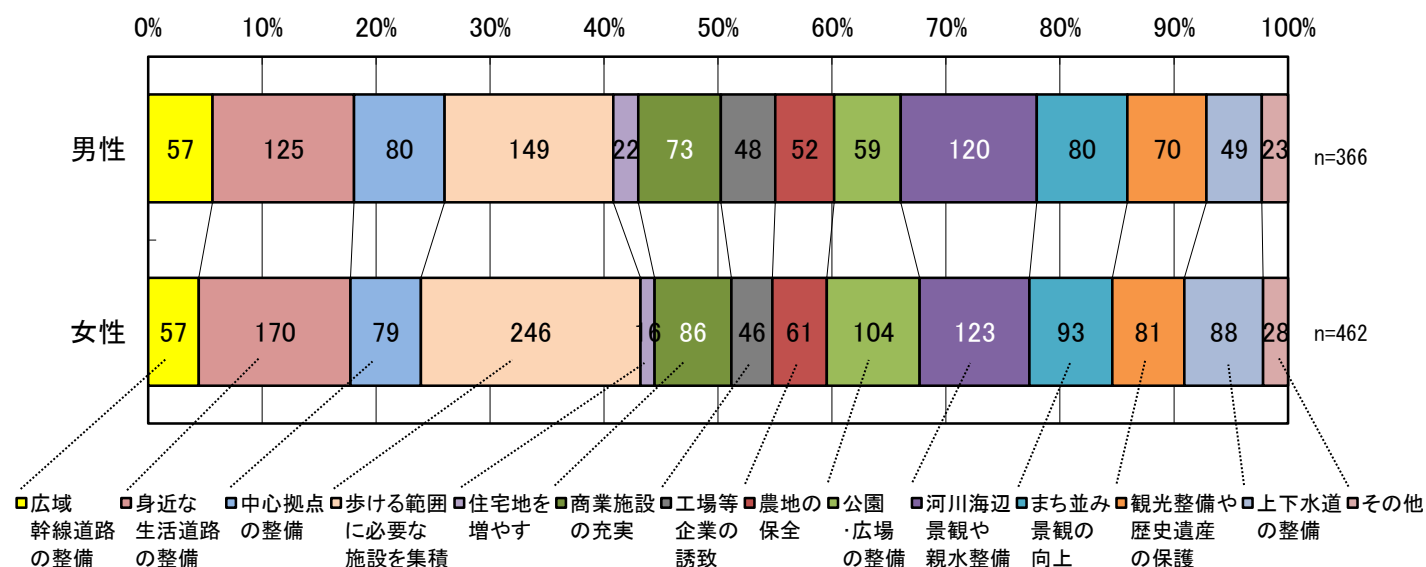


<性別>

□男女ともに、「歩ける範囲に必要な施設を集積」が最も多い。

□男性は「中心拠点の整備」「河川や海辺景観や親水整備」の割合が女性より高い。

□女性は「歩ける範囲に必要な施設を集積」「公園・広場の整備」「上下水道の整備」の割合が男性より高い。

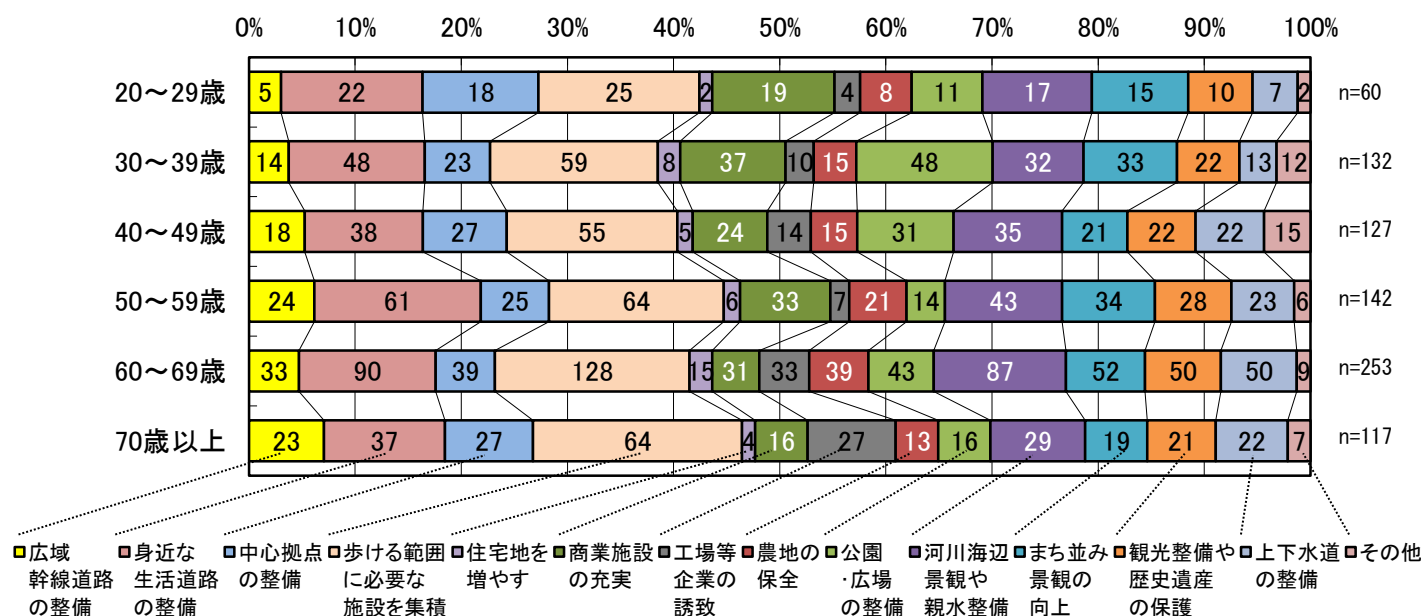


<年齢別>

□すべての年齢で「歩ける範囲に必要な施設を集積」が最も多い。

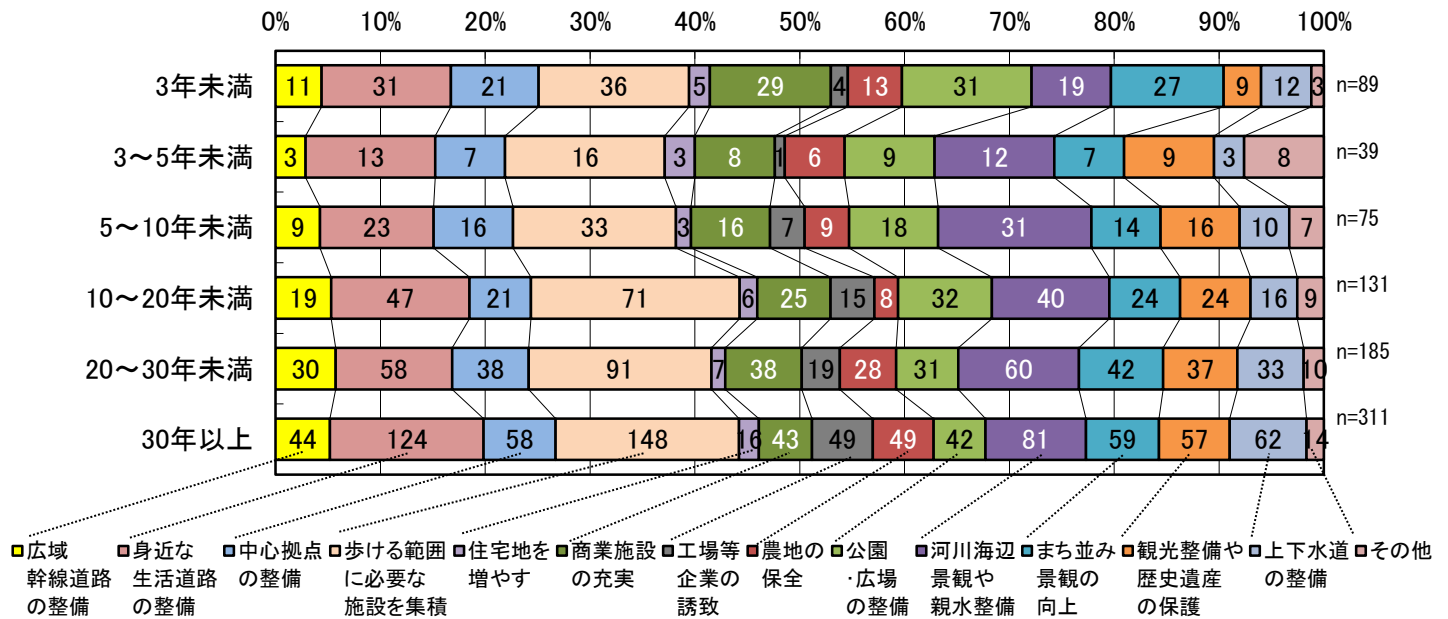
□「商業施設の充実」や「まち並み景観の向上」は若い世代に多い。

□「公園・広場の整備」は子育て世代の30代で多い。



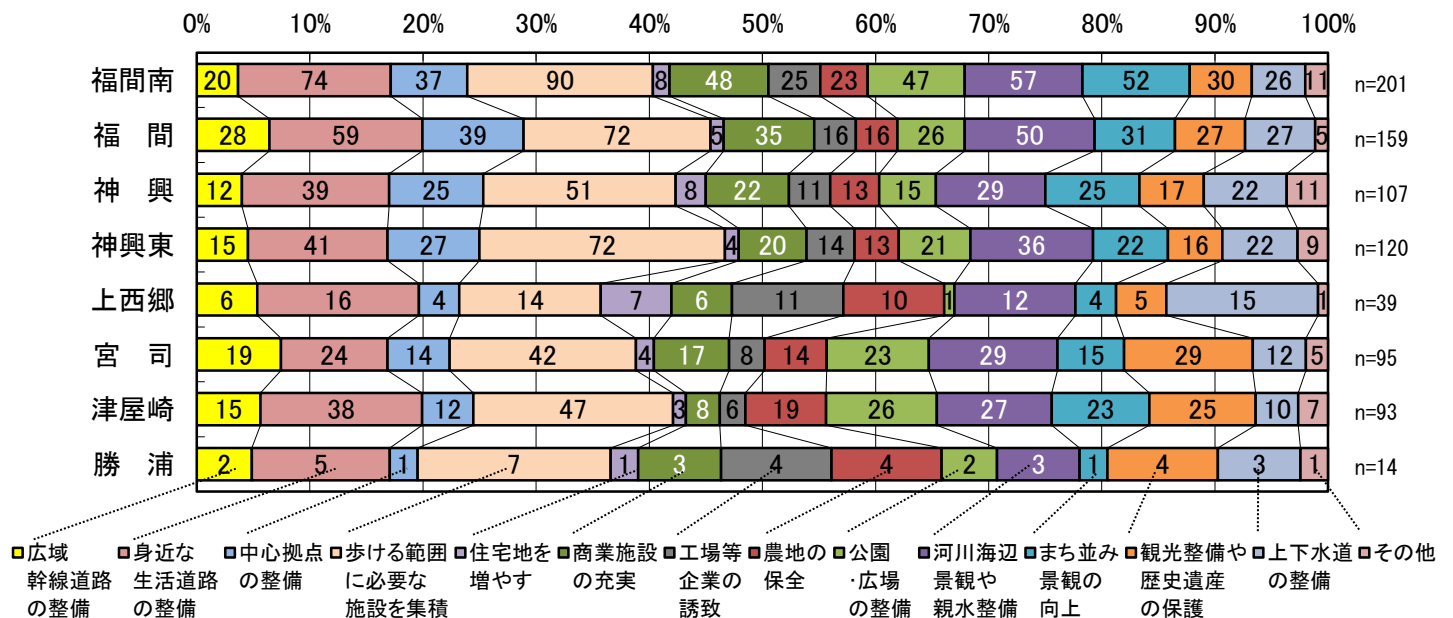
＜居住年数別＞

□居住年数にかかわらず「歩ける範囲に必要な施設を集積」が最も多い。



＜地域別＞

□上西郷では「生活道路の整備」「上下水道の整備」が多いが、他の地域では「歩ける範囲に必要な施設を集積」が最も多い。



(3) 生活環境向上のために市民主体で取り組むべきこと

設問番号：問 8

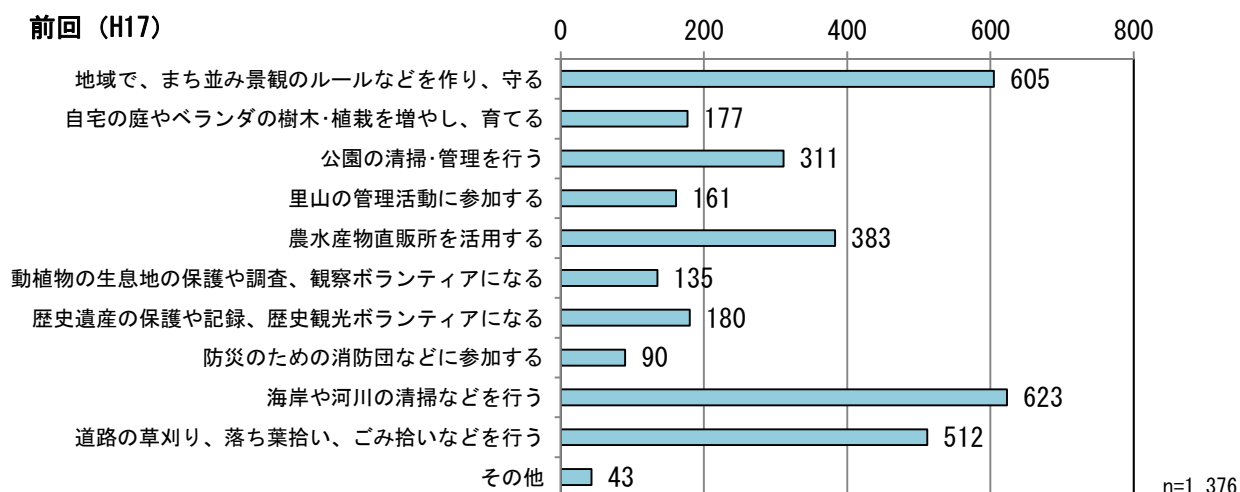
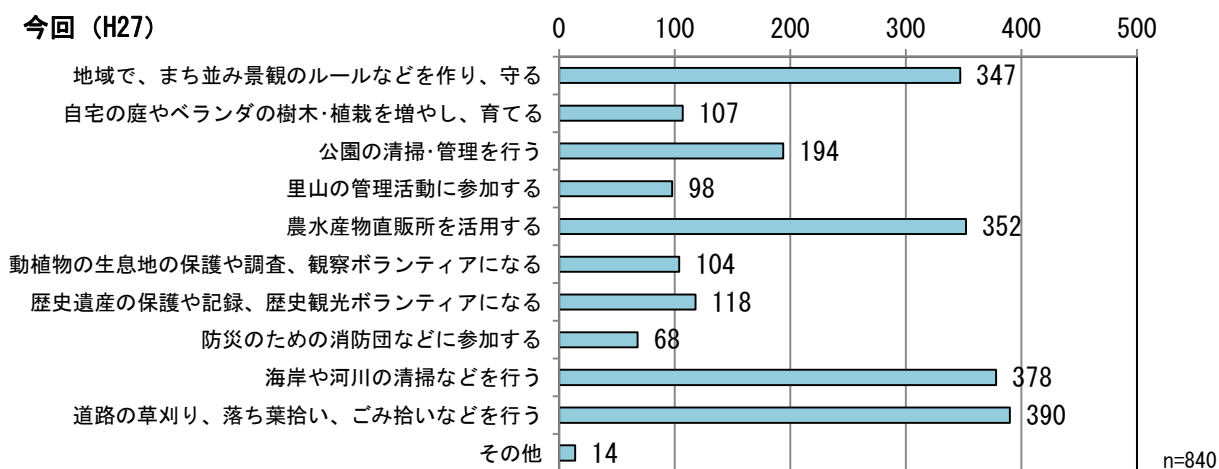
目 的：行政施策だけではなく、市民主体の身近な取り組みに対して、重要なものを把握する

解答方法：市民主体の取り組みを 10 項目示しそのうち 3 つまで選択する複数解答設問

<全市>

□「草刈り、ごみ拾い」「海岸・河川の清掃」など、既存の市民活動に関連した項目が票を集めた他、景観計画策定に伴い推進している「まち並み景観のルールを守る」や、「農水産物直販所を活用」なども多くあげられた。

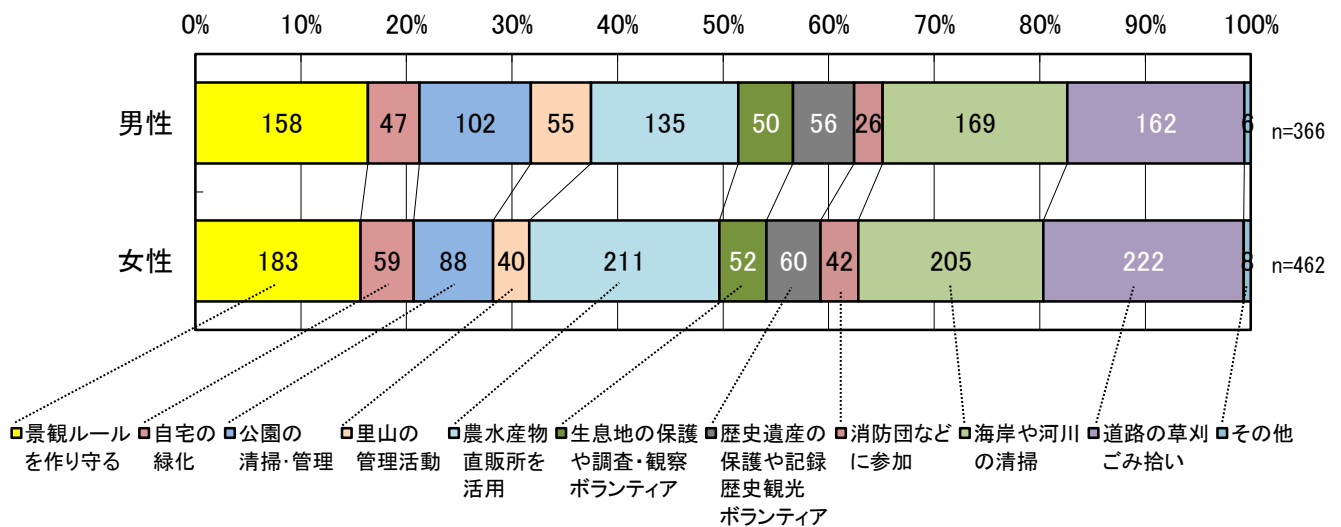
□前回調査と比較して「農水産物直販所を活用」をあげる人の割合が増えた。



<性別>

□男性は女性より「公園の清掃・管理」「里山の管理活動」をあげた人が多い。

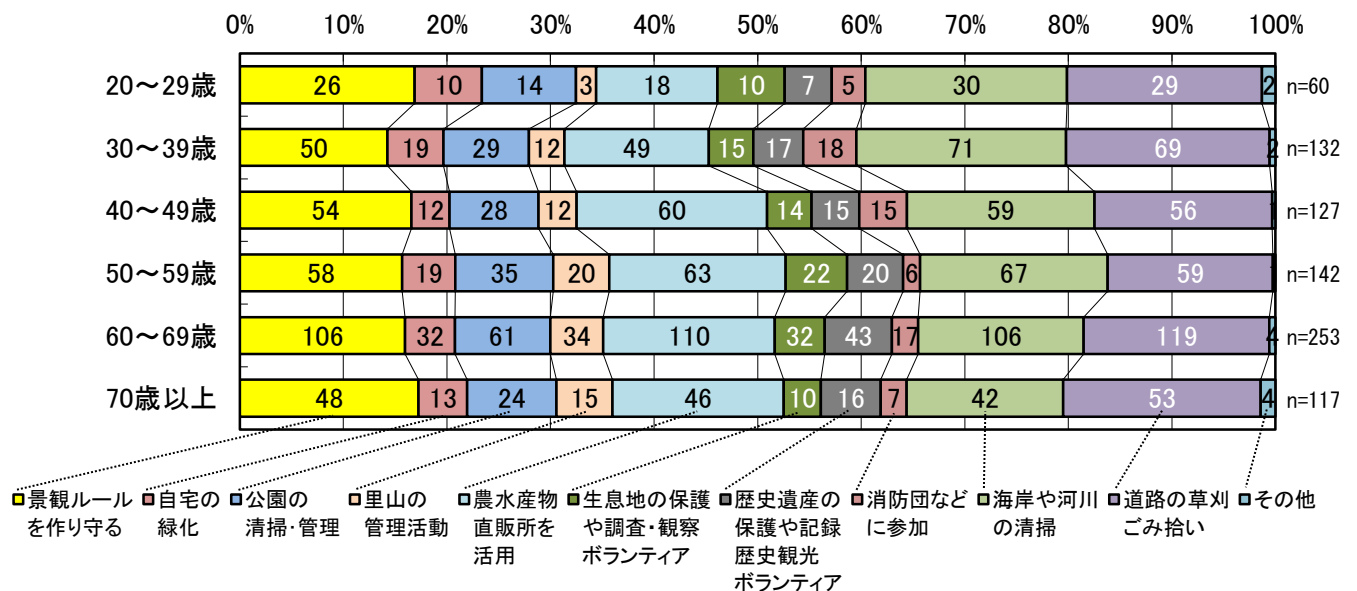
□女性は男性より「農水産物直販所を活用」をあげた人が多い。



<年齢別>

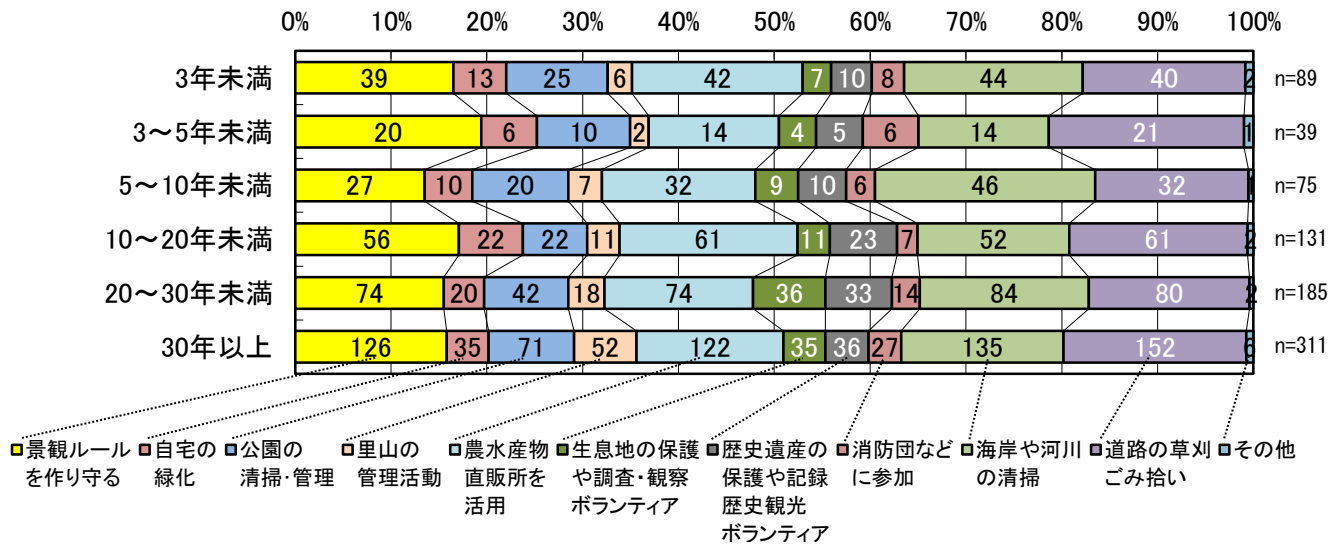
□「海岸や河川の清掃」は若い世代に多いが、「里山の管理」は年齢が高い世代に多い。

□20代～30代では「農水産物直販所を活用」が少ない。



<居住年数別>

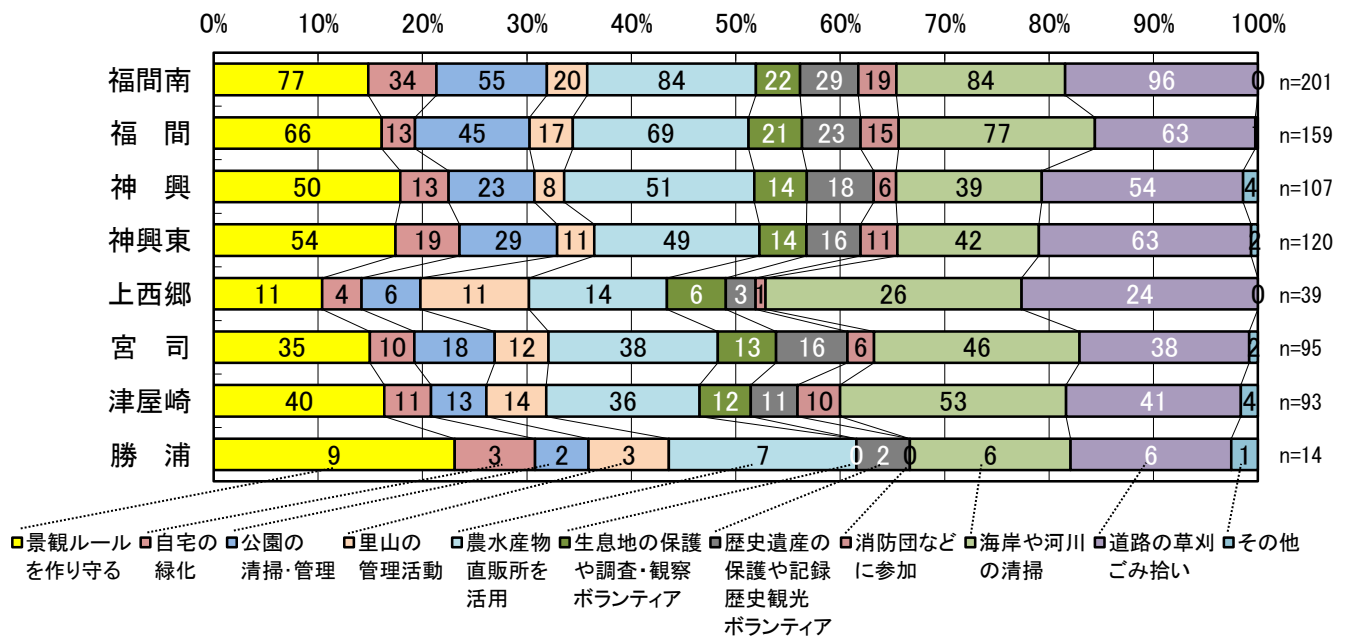
□居住年数からは大きな差は見られなかった。



<地域別>

□上西郷では「海岸や河川の清掃」、「道路の草刈、ごみ拾い」や「里山の管理活動」の割合が他の地域より高い。

□「公園の清掃・管理」の割合は福間南や福間、神興、神興東などの住宅地で高い。



(4) 高度地区の設定について

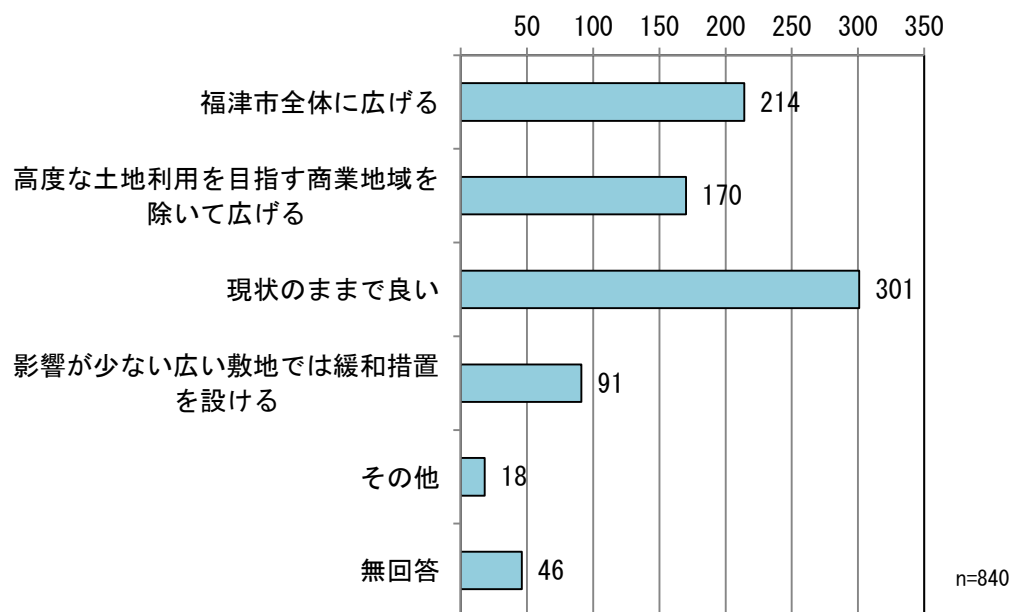
設問番号：問 9

目 的：高度地区（建築物の高さ制限）の今後の方針に対する意向を把握する

解答方法：方針を 4 項目示しそのうち 1 つだけ選択する単一解答設問

<全市>

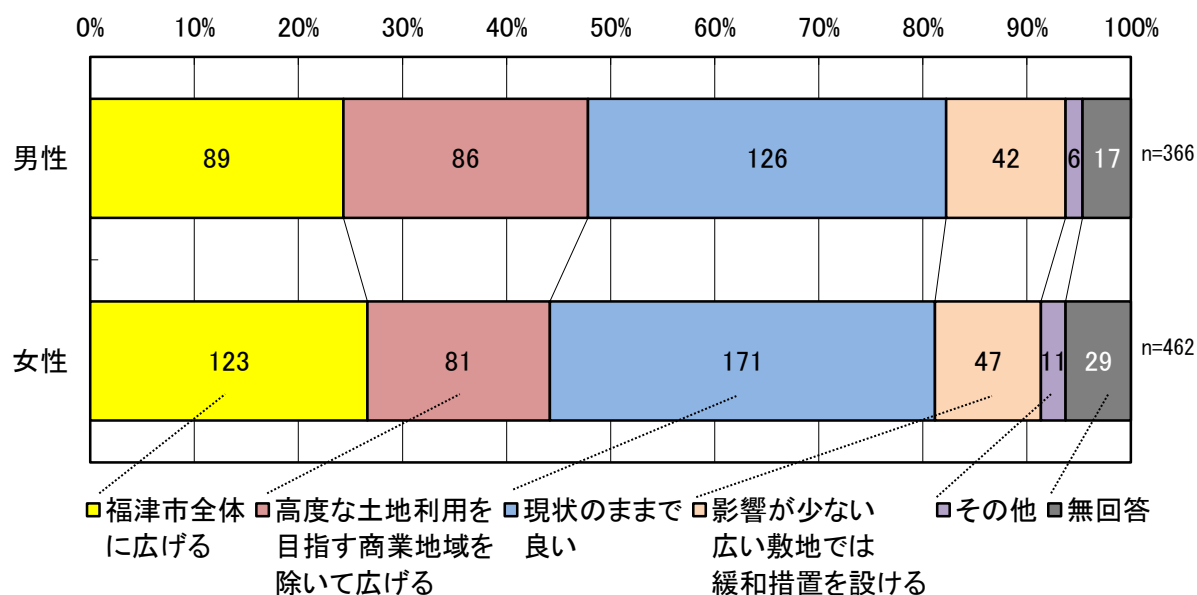
□「福津市全体に広げる」「商業地域を除いて広げる」という高度地区を広げるべきという人が 384 人で全体の 45%を占めており、「現状のままで良い」301 人（36%）を越えている。



<性別>

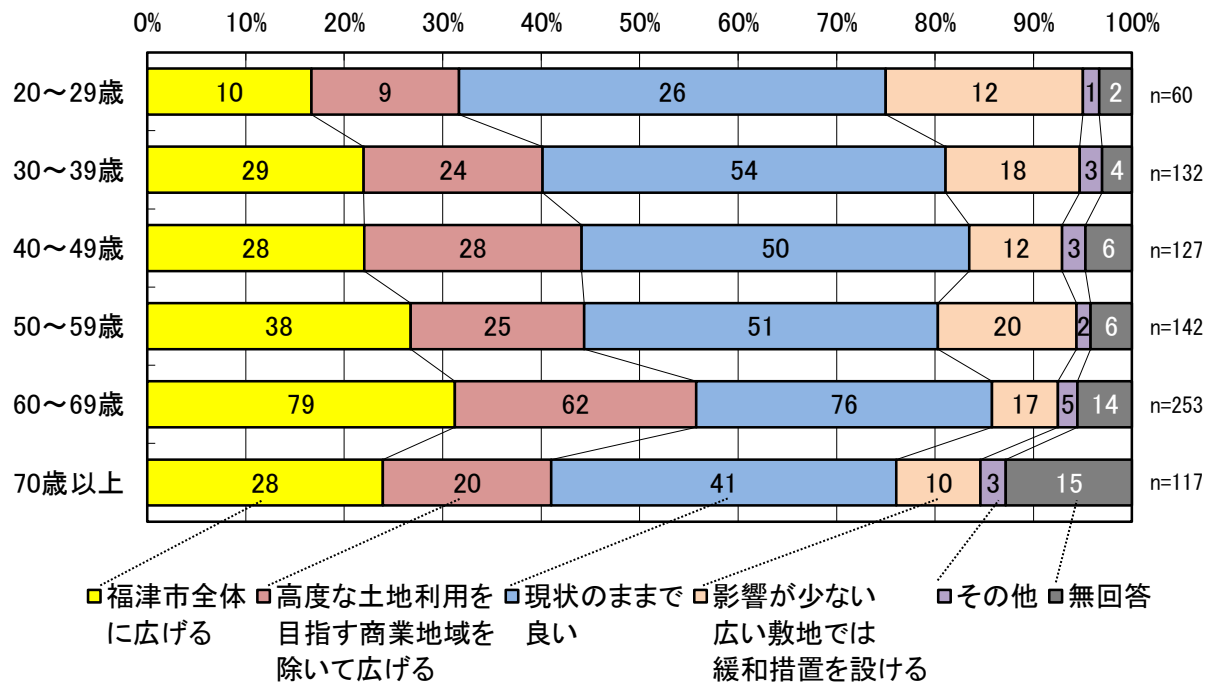
□男性は「商業地域を除いて広げる」という人の割合が女性より高い。

□女性は「現状のままで良い」「福津市全体に広げる」という人の割合が男性より高い。



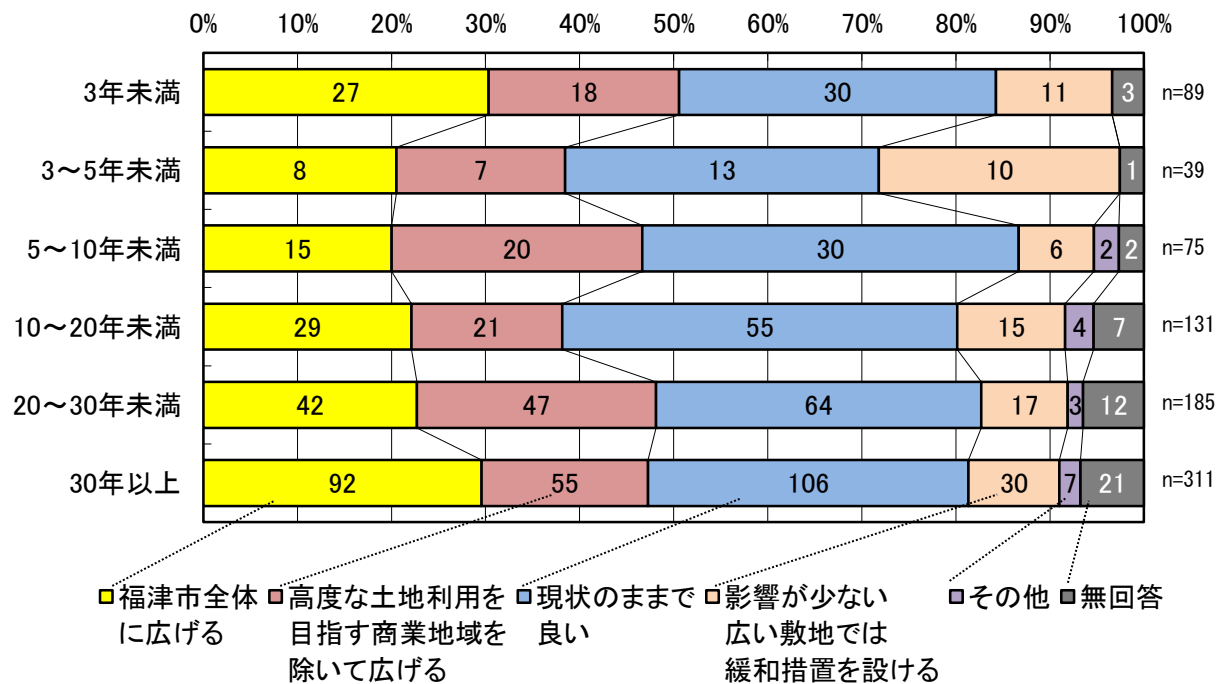
<年齢別>

□高度地域を広げるべきと言う意見は60代に最も多く、20代を中心とした若い世代は緩和措置を設けるべきなど、高度地区を推進しない意見が他の年代より多い。



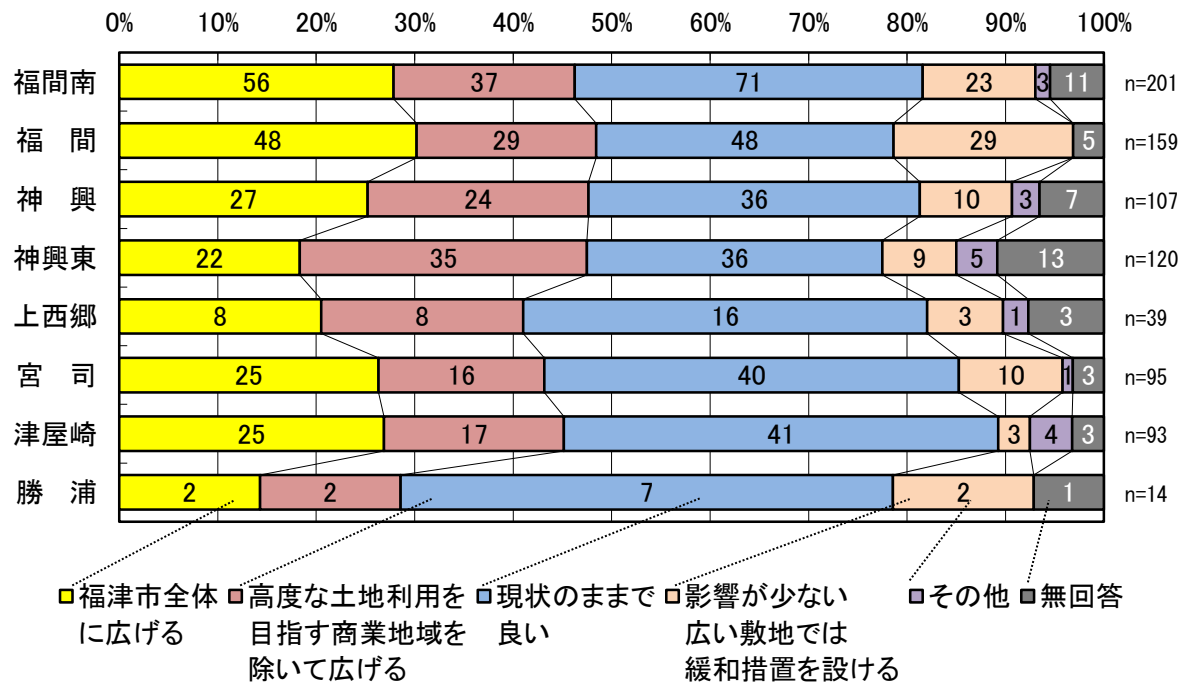
<居住年数別>

□居住年数3～5年未満の人は「影響が少ない広い敷地では緩和措置を設ける」の割合が、他の居住年数の人より高い。



<地域別>

□上西郷と勝浦では、「現状のままで良い」が、「市全体に広げる」や「商業地域を除いて広げる」という高度地区を広げるべきという意見よりも多いが、他の地域では高度地域を広げるべきという意見が多い。



(5) 買い物環境の充実度について

設問番号：問 10

目 的：現在どのような商業施設に買い物に行っているか、どのような商業施設が重要か、新たな立地を望まれているのはどのような商業施設かを把握する

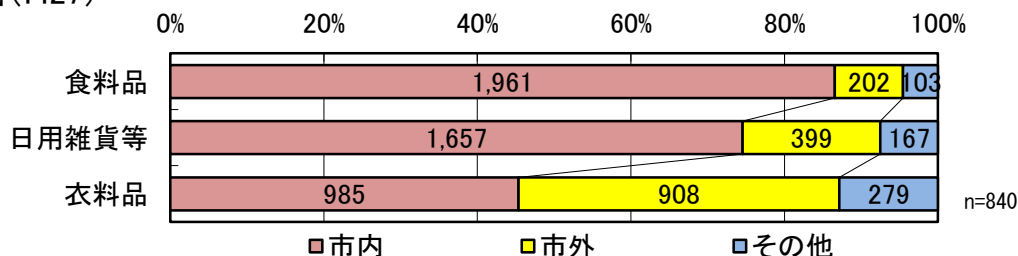
解答方法：市内外の商業施設を 9 項目示し、「食料品」「日用雑貨等」「衣料品」を購入する際に利用している商業施設、重要な商業施設、新たな立地を望む商業施設を 3 つまで選択し順位を付ける設問

【市内、市外別に見た利用頻度】

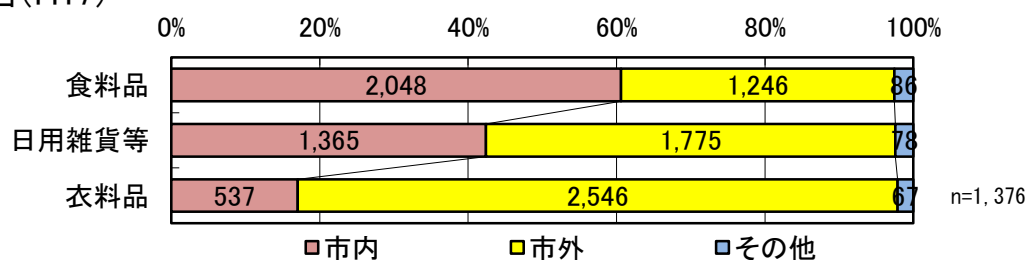
□3 種類の買い物目的ごとに、市内外の商業施設の利用頻度を見ると、食料品は 1,961 (86.5%)、日用雑貨等は 1,657 (74.5%) と市内が多い。衣料品も 985 (45.3%) と市内が多いが、市内外で大きな差はない。

□前回調査と比較して、市内での買い物が大きく増加している。

今回(H27)



前回(H17)

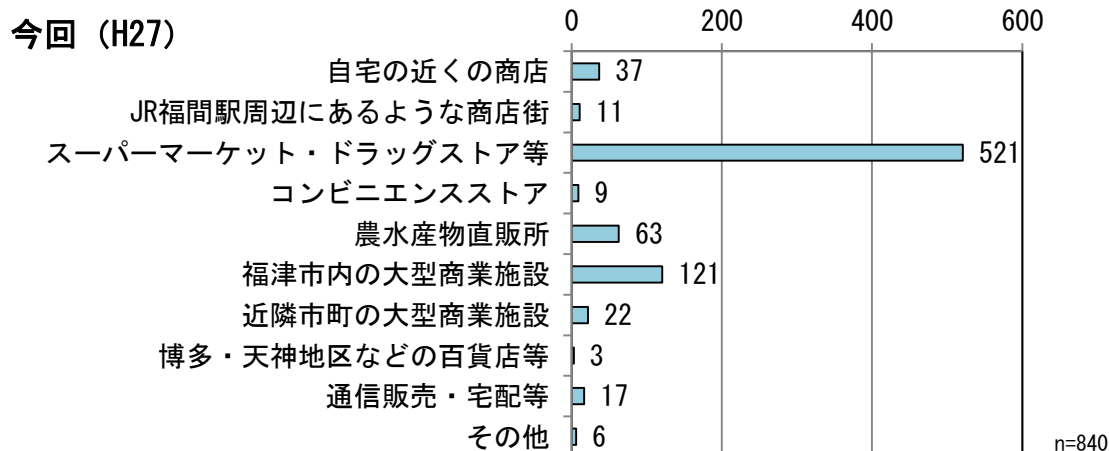


※それぞれ 1～3 番の合計値である

【最も利用する商業施設】

＜利用する商業施設（食料品）：1番目に選んだもの＞

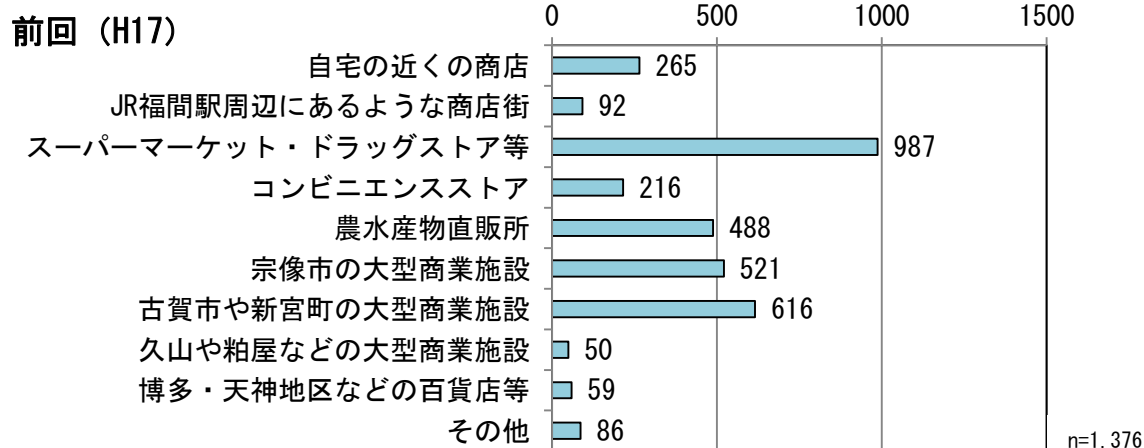
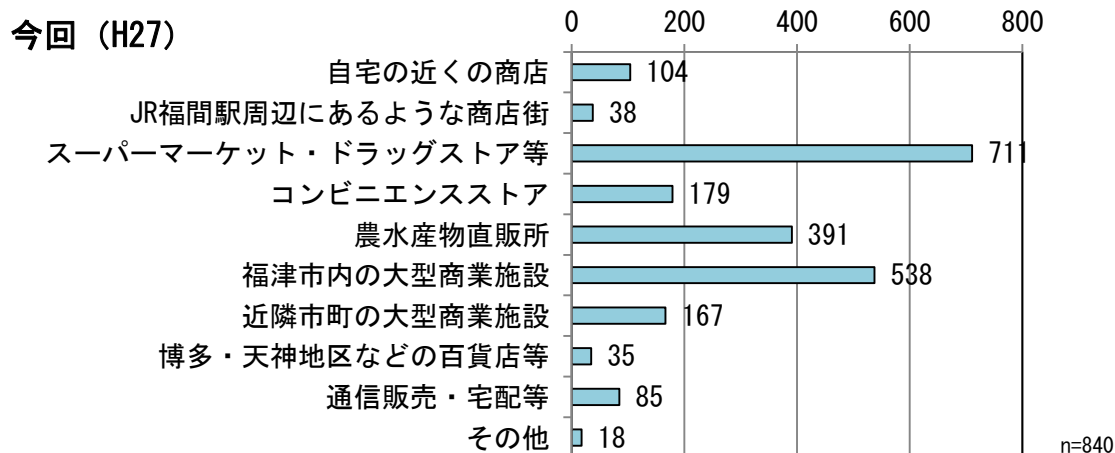
□「スーパーマーケット・ドラッグストア」が圧倒的に高い結果となった。



＜利用する商業施設（食料品）：1～3番の総合＞

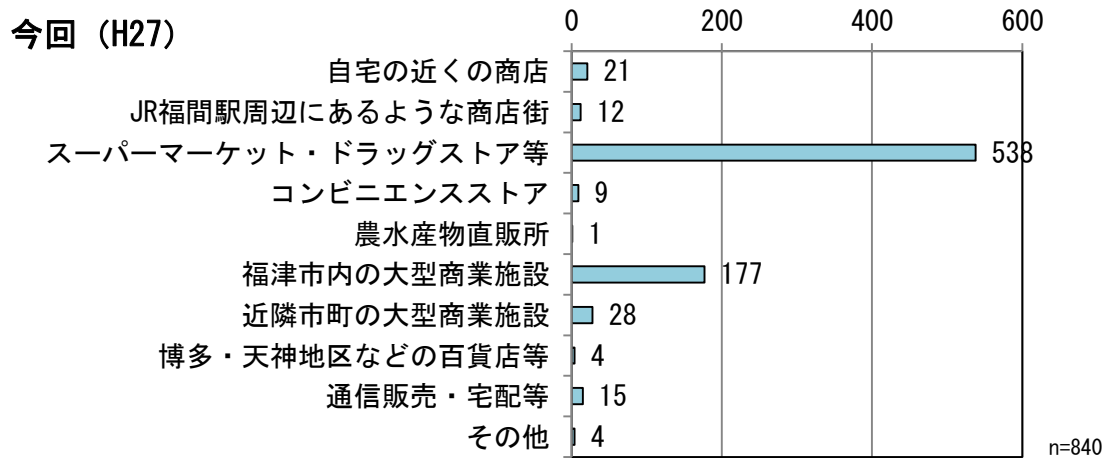
□上記のグラフに2～3位であげられたものを総合すると、「福津市内の大型商業施設」「農水産物直販所」などの割合が増加した。

□前回調査では、宗像市や古賀市、新宮町などの近隣市町の大型商業施設も多くあげられていたが、今回調査では大きく減少している。



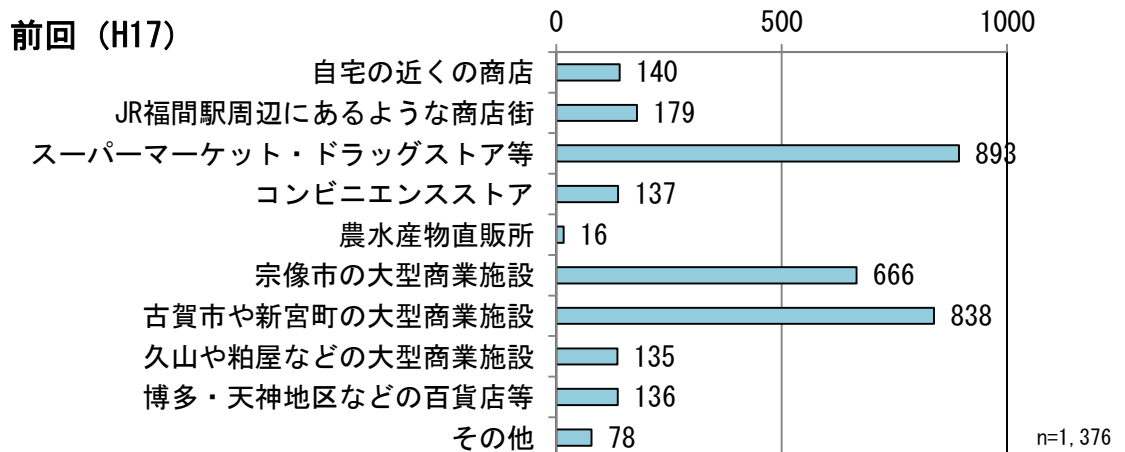
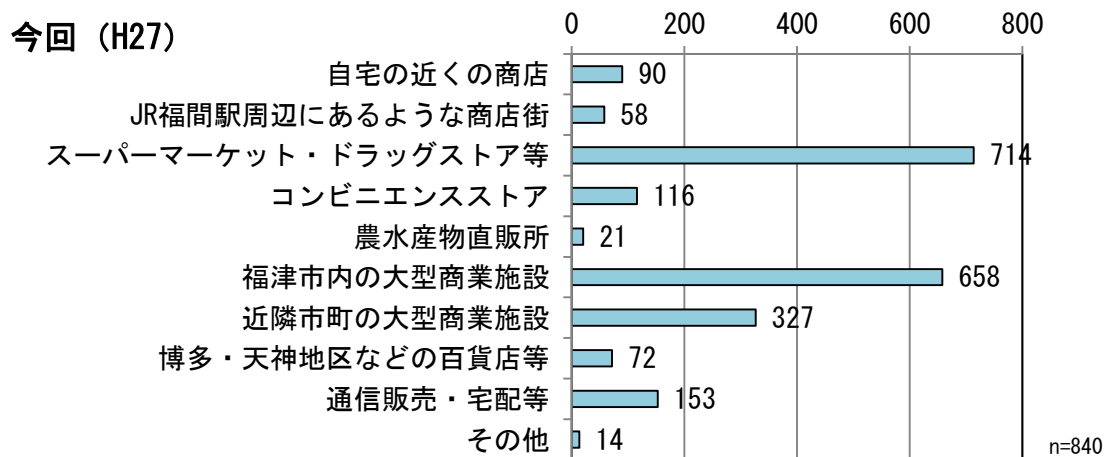
＜利用する商業施設（日用雑貨等）：1番目に選んだもの＞

- 食料品と同様、「スーパーマーケット・ドラッグストア」が圧倒的に高い結果となった。
次いで、「福津市内の大型商業施設」が多くあげられた。



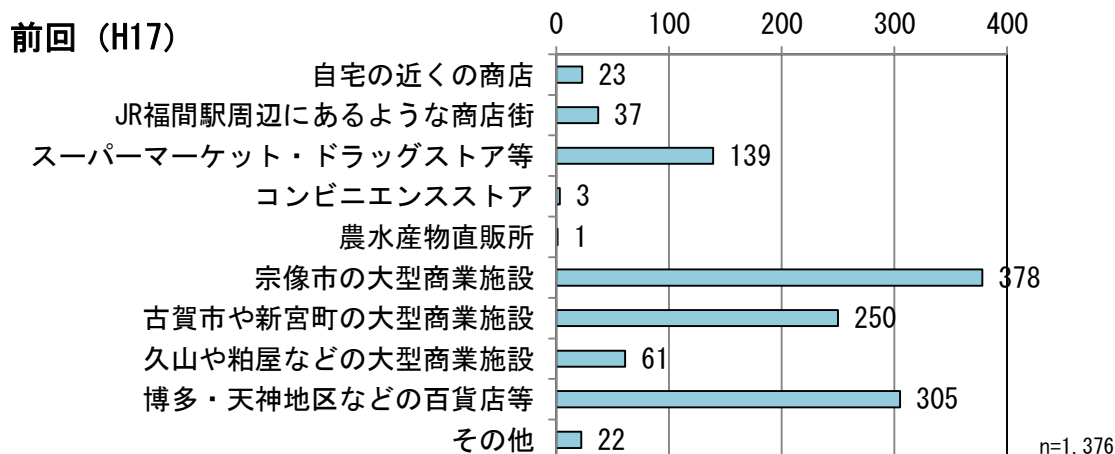
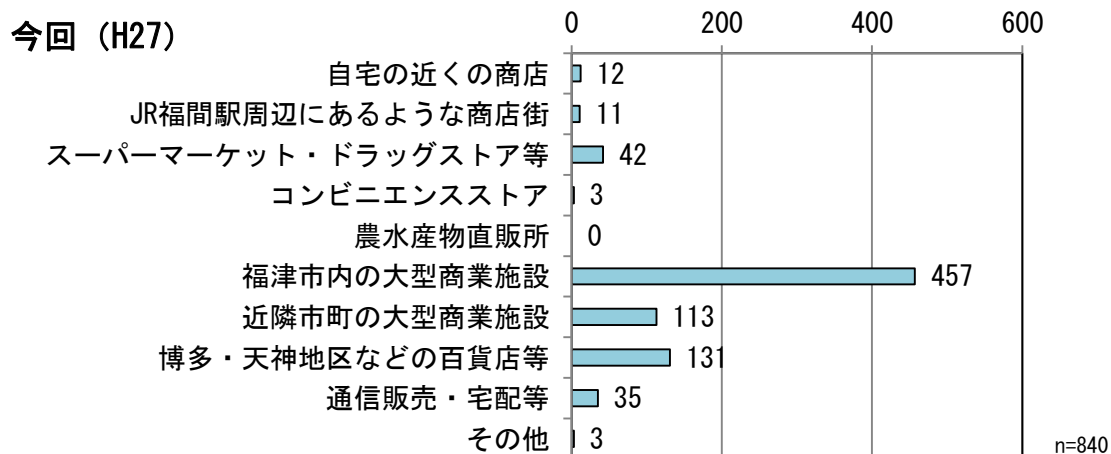
＜利用する商業施設（日用雑貨等）：1～3番の総合＞

- 上記のグラフに2～3位であげられたものを総合すると、「福津市内の大型商業施設」「近隣市町の大型商業施設」などの割合が増加した。
- 食料品と同様、前回調査では、古賀市や新宮町、宗像市などの近隣市町の大型商業施設も多くあげられていたが、今回調査では大きく減少している。



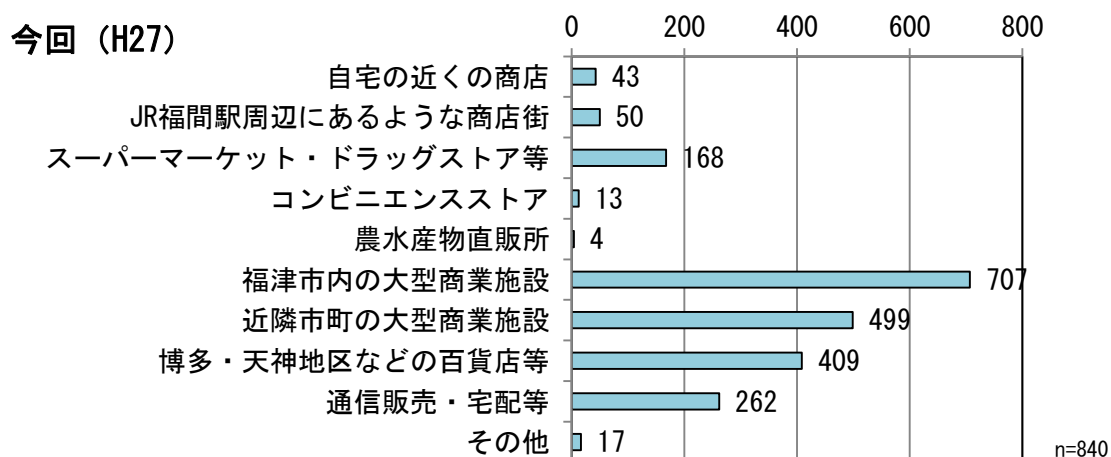
<利用する商業施設（衣料品）：1番目に選んだもの>

- 食料品、日用雑貨等とは違い、「福津市内の大型商業施設」が圧倒的に多い結果となった。
- 前回調査では「博多・天神地区などの百貨店」が2位に入っていたが、今回調査では大きく減少している。



<利用する商業施設（衣料品）：1～3番の総合>

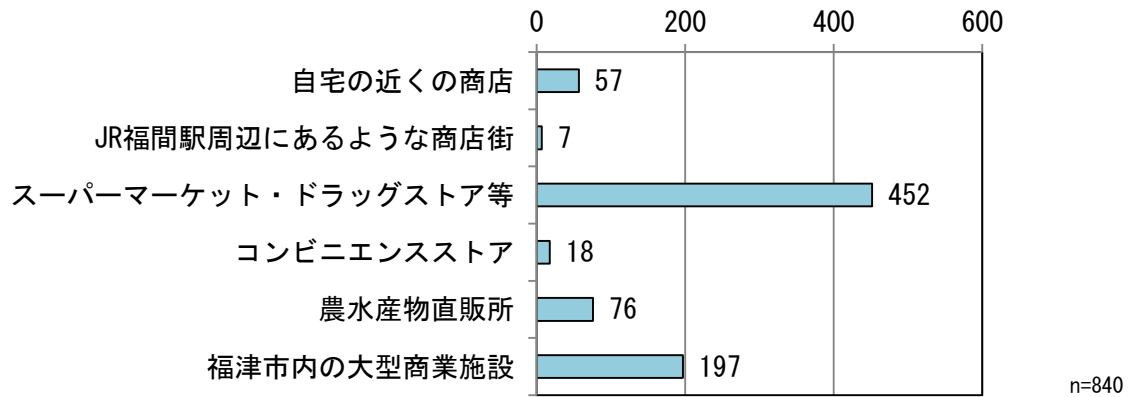
- 2～3位であげられたものを総合すると、「近隣市町の大型商業施設」「博多・天神地区などの百貨店」などの割合が増加した。



【重要な商業施設】

＜重要な商業施設：1番目に選んだもの＞

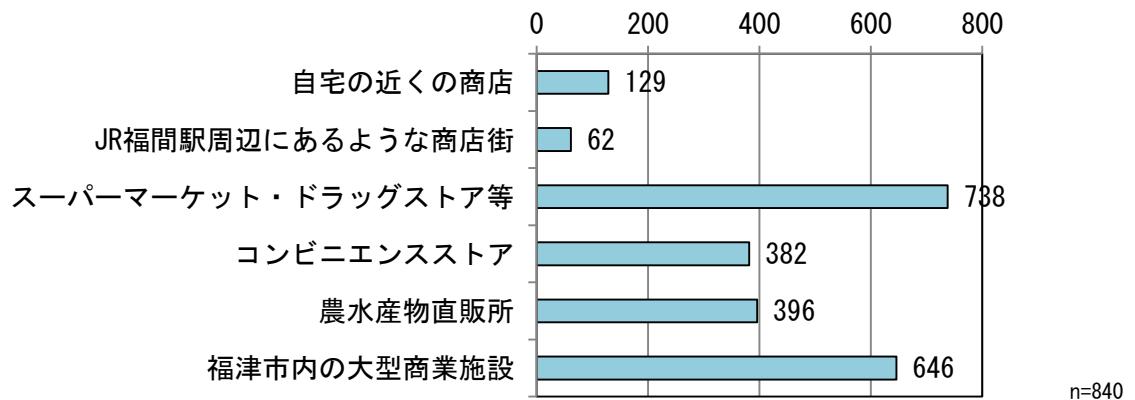
□重要な商業施設は「スーパーマーケット・ドラッグストア」が最も多く、次いで「福津市内の大型商業施設」であった。



＜重要な商業施設：1～3番の総合＞

□上記のグラフに2～3位であげられたものを総合すると、「コンビニエンスストア」「農水産物直販所」などの割合が増加した。

□「JR 福間駅周辺にあるような商店街」「自宅近くの商店街」が重要という意見が少ない。

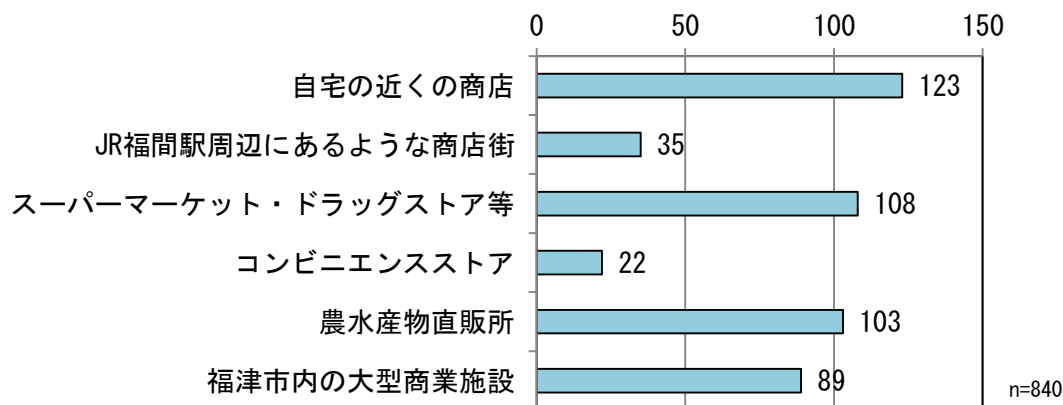


※前回調査では重要な商業施設についてたずねていないため、前回との比較はできない。

【新たな立地を望む商業施設】

<新たな立地を望む商業施設：1番目に選んだもの>

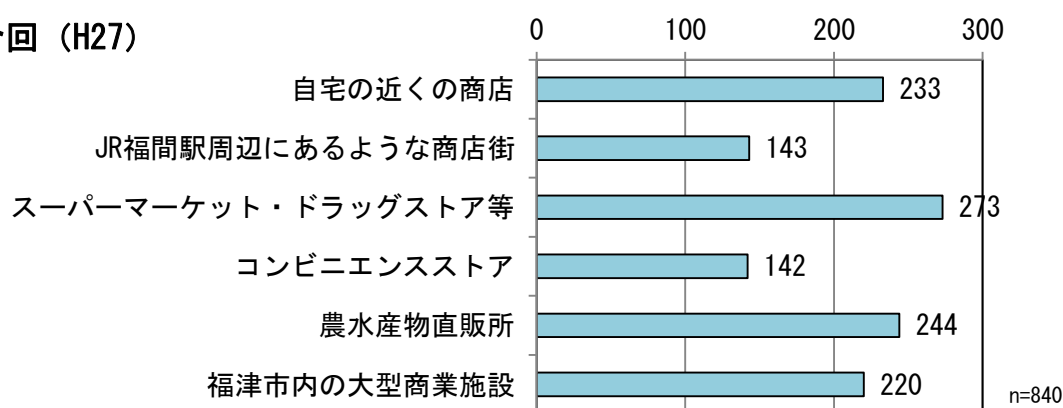
□新たな立地を望む商業施設は「自宅近くの商店」が最も多く、次いで「スーパーマーケット・ドラッグストア」「農水産物直販所」「福津市内の大型商業施設」であった。



<新たな立地を望む商業施設：1～3番の総合>

□「コンビニエンスストア」「JR 福間駅周辺にあるような商店街」の立地を望む意見は少ない。

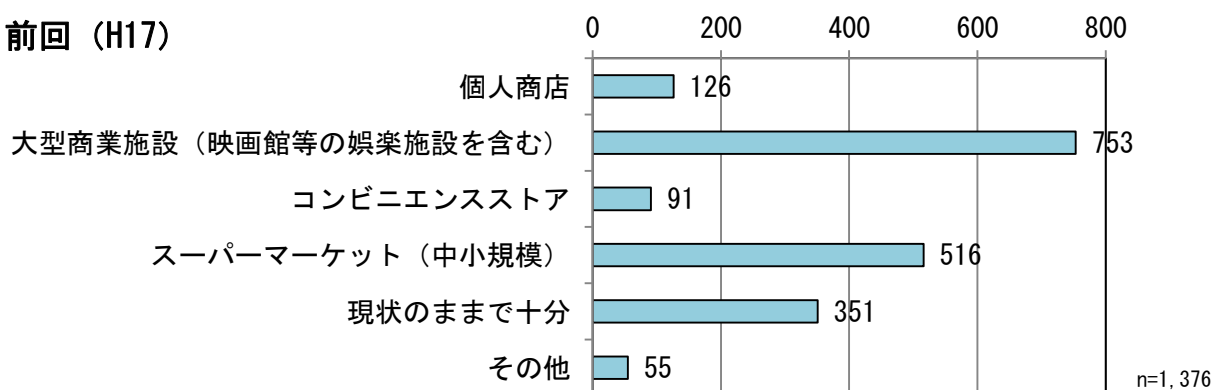
今回（H27）



<今後立地すべき商業施設：前回との比較>

□前回調査では以下の4つの項目から該当する意見を2つまで選択する複数回答設問であり、きき方が異なるので同様に比較できないが、前回調査と比較して、大型商業施設を立地すべきという意見が減少し、個人商店（自宅近くの商店）を立地すべきという意見が増えている。

前回（H17）



2-5.集約型都市構造（コンパクトシティ）

（1）集約的都市構造を推進すべきか

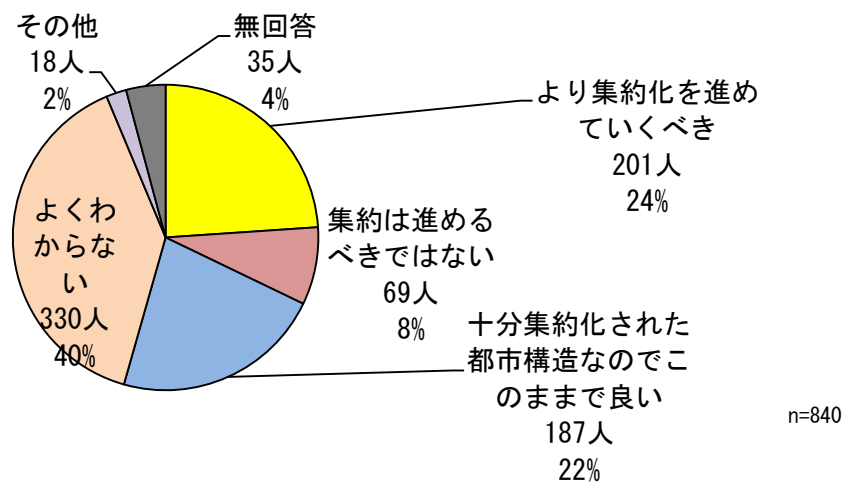
設問番号：問 11

目 的：人口減少社会に向け集約的都市構造を推進すべきか意向を把握する

解答方法：方向性を 4 項目示しそのうち 1 つだけ選択する単一解答設問

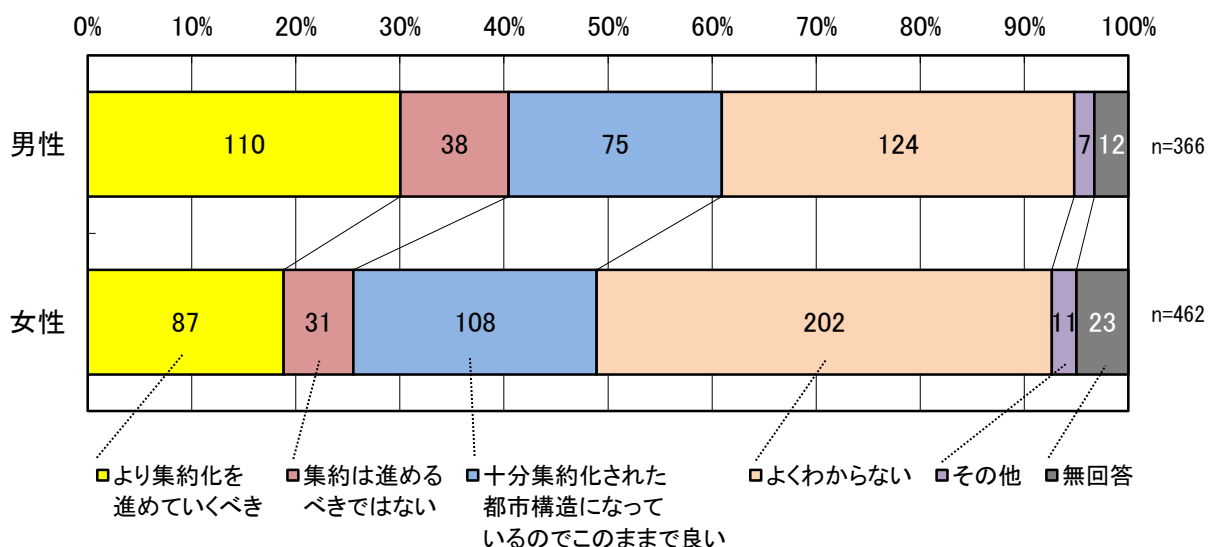
<全市>

- 「よくわからない」という意見が最も多く、40%を占める。
- 「より集約化を進めていくべき」が 24%と次いで多く、「十分集約化されているのでこのままで良い」は 22%である。「集約は進めるべきではない」は 8%と少ない。



<性別>

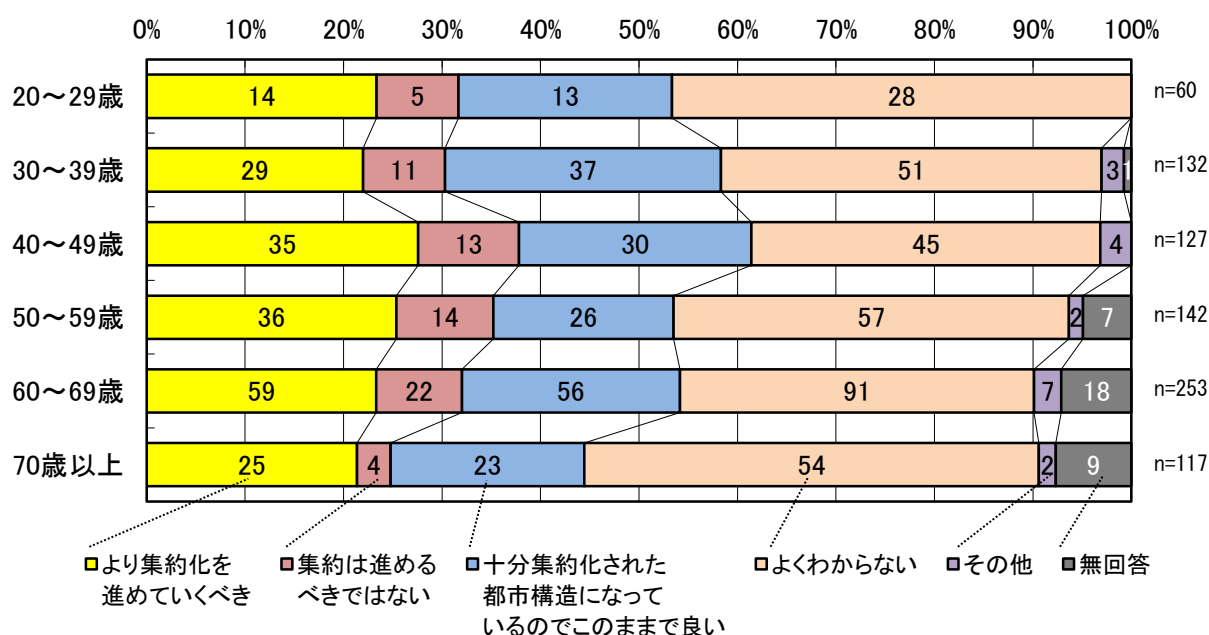
- 女性の方が「よくわからない」と答えた割合が高い。
- 男性は「より集約化を進めていくべき」と答えた割合が女性より高い。
- 女性は「十分集約化されているのでこのままで良い」と答えた割合が男性より高い。



<年齢別>

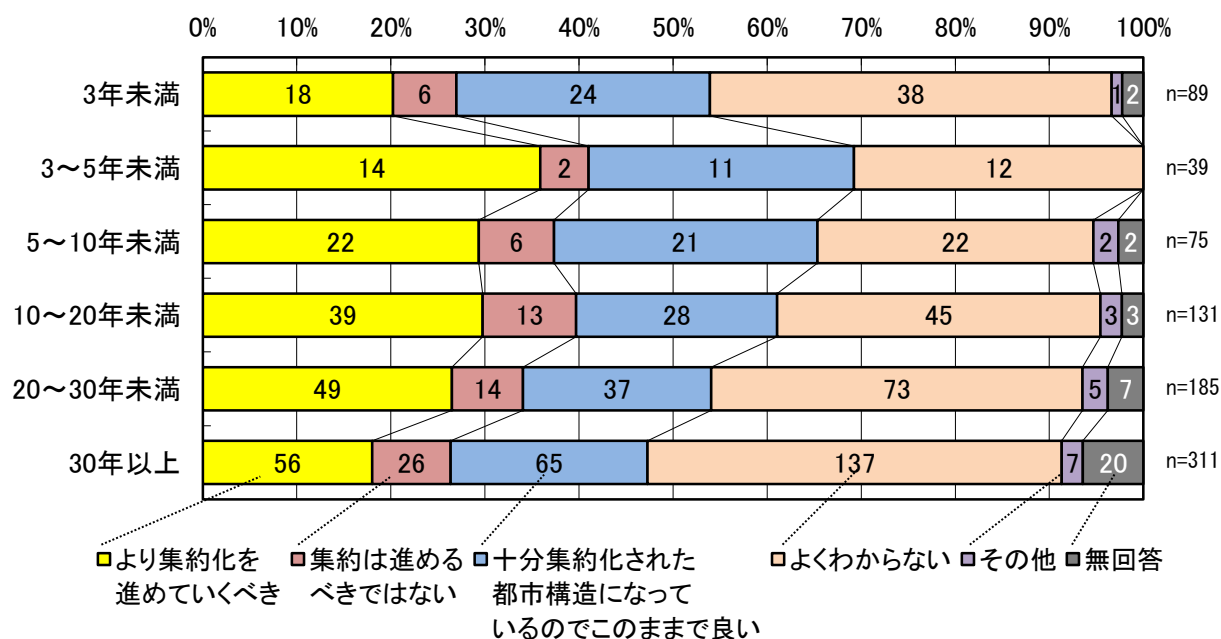
□すべての年代で「よくわからない」が最も多い。

□「よくわからない」以外で最も多いのは、30代は「十分集約化されているのでこのままで良い」であり、30代以外のすべての年代では「より集約化を進めていくべき」が多い。



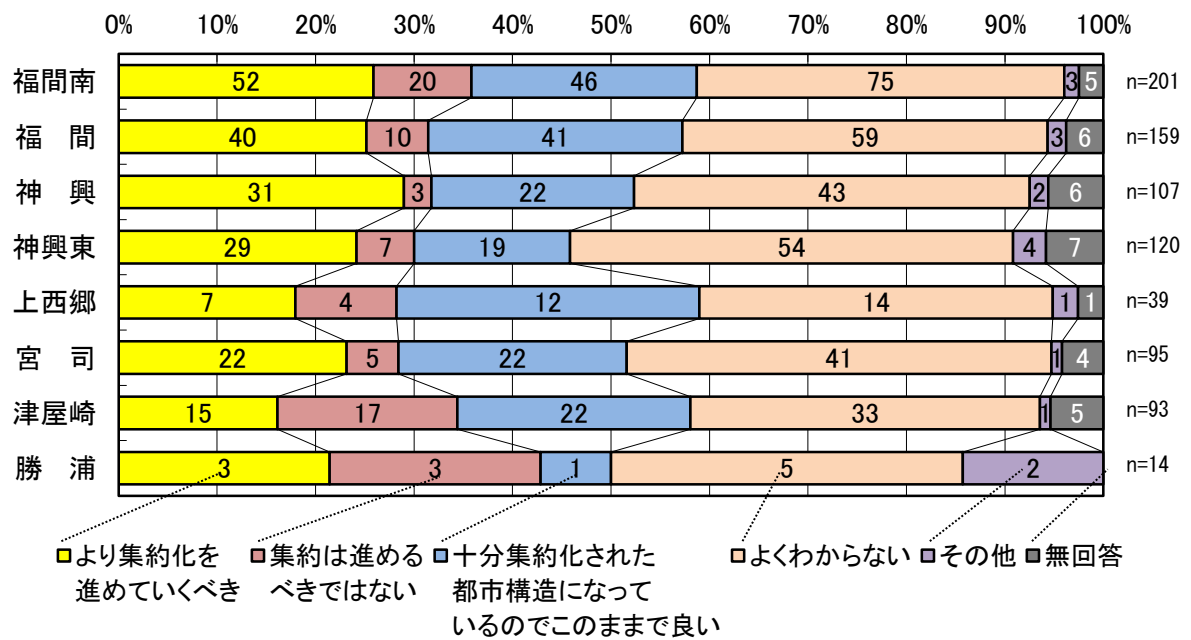
<居住年数別>

□「より集約化を進めるべき」の割合は、居住年数3年～5年の人が最も多く、居住年数が長くなるほど少なくなる。



<地域別>

□「集約は進めるべきでない」の割合が高い地域は勝浦と津屋崎である。



(2) 集約的都市構造に向け取り組むべきこと

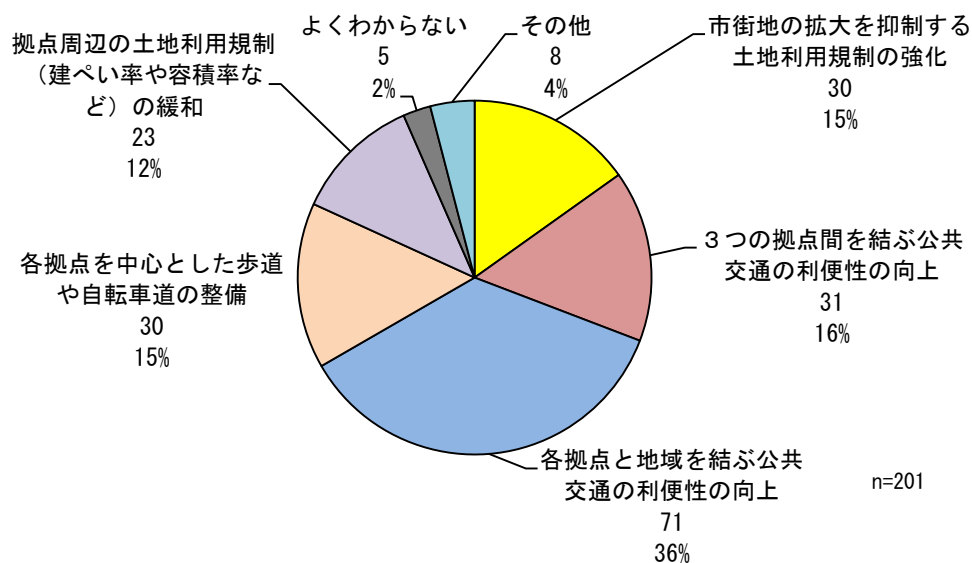
設問番号：問 12

目 的：集約的都市構造になるため取り組むべき重要な施策の把握

解答方法：問 11 で「より集約化を進めていくべき」と解答した 201 人を対象に、
取り組むべき施策等を 6 項目示しそのうち 1 つだけ選択する単一解答設問

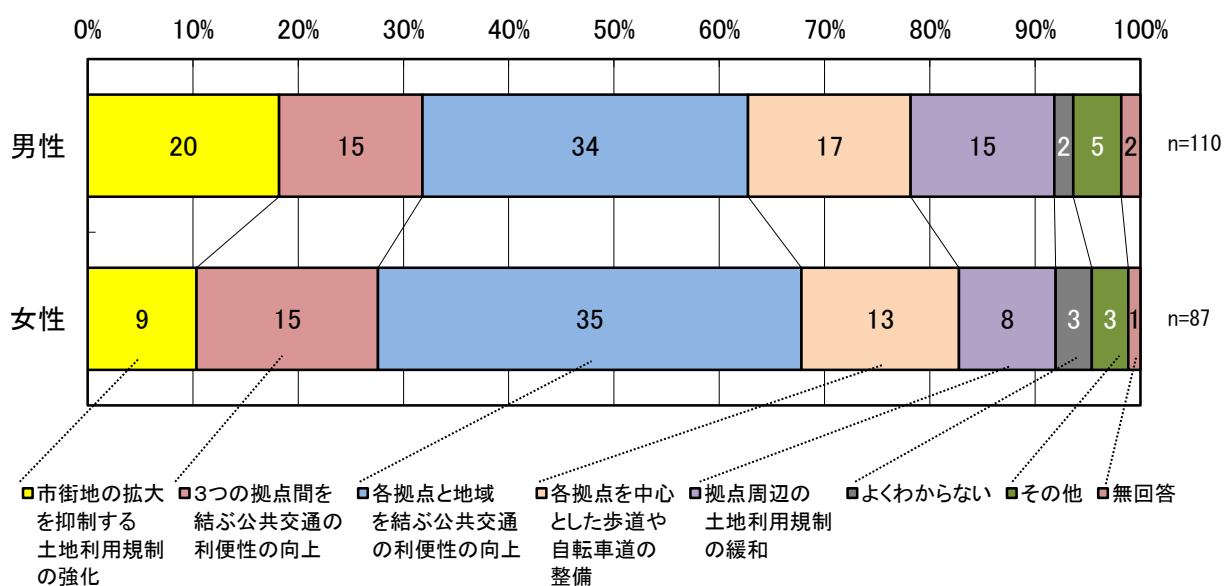
<全市>

□「各拠点と地域を結ぶ公共交通の利便性の向上」が最も多く、次いで「3つの拠点間を結ぶ公共交通の利便性の向上」が多かった。集約的等想像になるため、公共交通の利便性の向上が重要と言える。



<性別>

□女性の方が集約的都市構造になるため、公共交通の利便性を向上すべきという意見が多い。



※この設問は、問 11 で「集約化を進めていくべき」と解答した 201 人をのみを対象としており、回答者が少ないため年齢別や地域別などの解析は実施していない。

2-6.交通関連の充実度

(1) 交通の不便さを感じる場所と解消方法

設問番号：問 13

目 的：市内各地の交通の不便な場所と解消するため必要なことを把握する

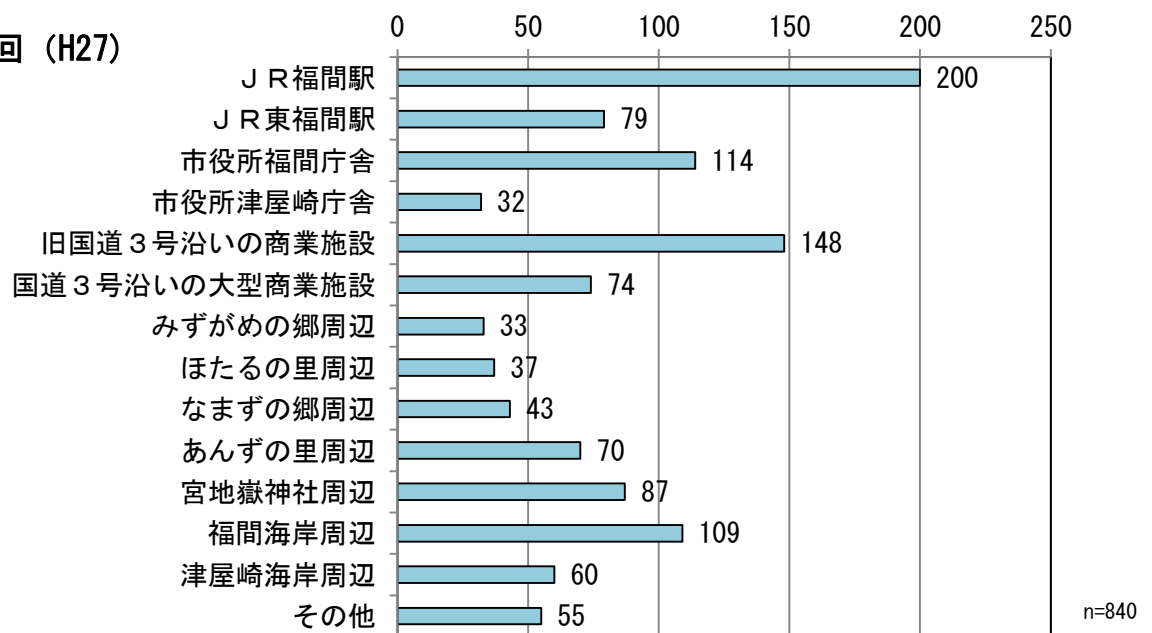
解答方法：主要な場所を 14 箇所と解消のため必要なことを 10 項目示し、交通の不便な場所を 2 つまで選択し、場所ごとに解消する為必要なことを 2 つまで選択する複数解答設問

【交通の不便さを感じる場所】

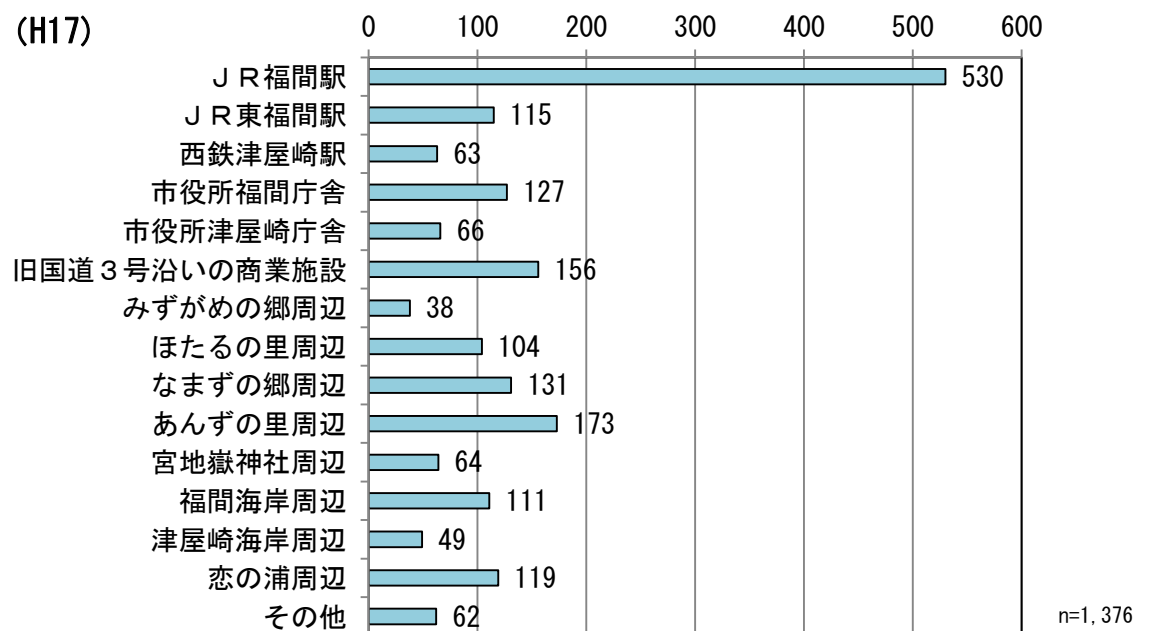
□「JR 福間駅」が最も多く、次いで「旧国道 3 号沿いの商業施設」、「市役所福間庁舎」、「福間海岸周辺」が多かった。

□前回調査と比べ「JR 福間駅」が少なくなっている。

今回 (H27)

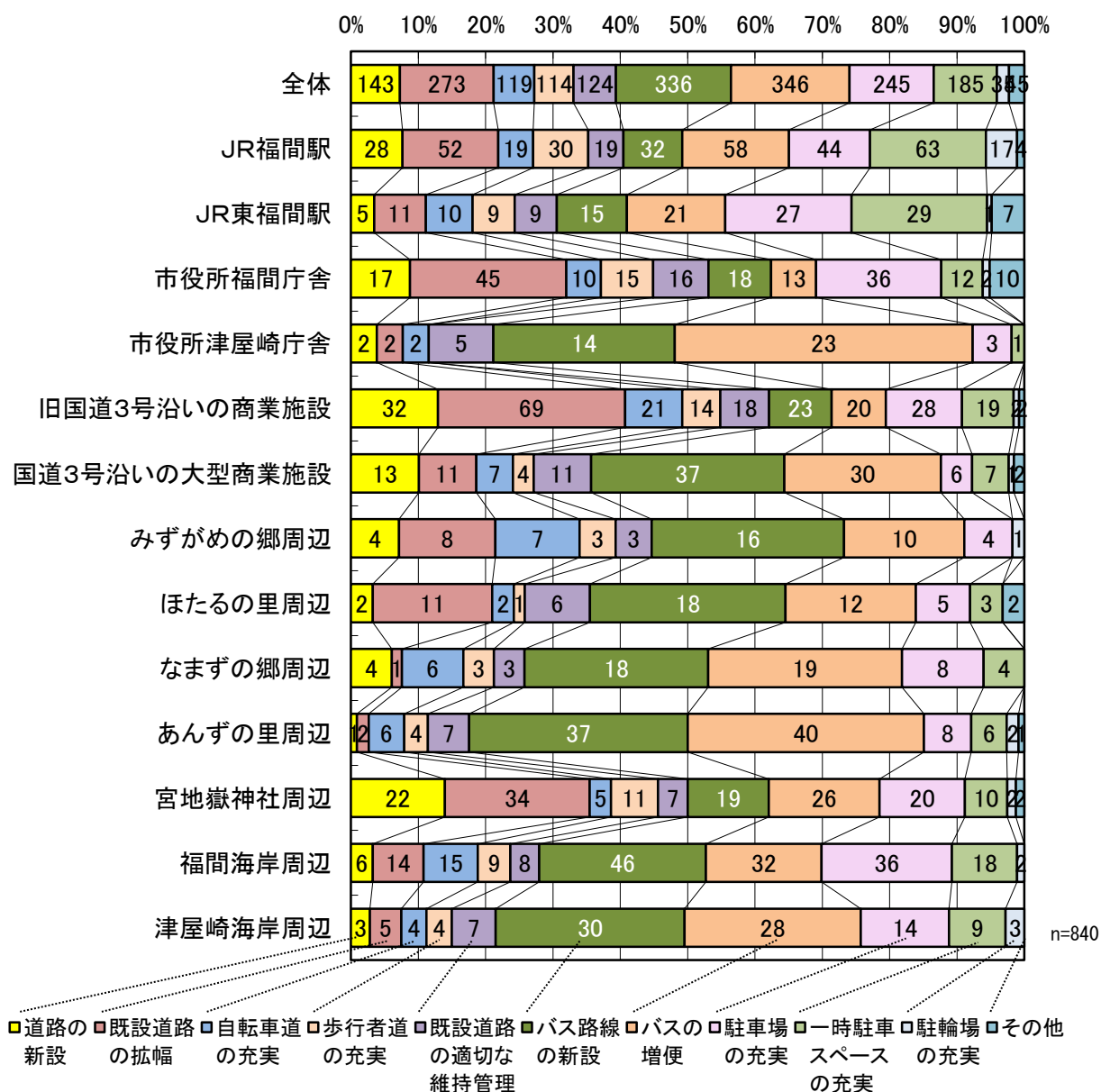


前回 (H17)



【不便さの解消に必要なこと】

- 最も不便という意見が多かった「JR 福間駅」では、解消に向け必要なこととして「一時駐車スペースの充実」「バスの増便」「既設道路の拡幅」などが多くあげられた。
- 次いで多かった「旧国道3号沿いの商業施設」では、「既設道路の拡幅」が多くあげられた。
- 次いで多かった「市役所福間庁舎」では「既設道路の拡幅」や「駐車場の充実」が多くあげられた。
- 次いで多かった「福間海岸周辺」では、「バス路線の新設」「駐車場の充実」、「バスの増便」が多くあげられた。



(2) バスの利用状況

設問番号：問 14-1

目 的：バスを利用する「頻度」「目的」「乗り換えの状況」を把握する。

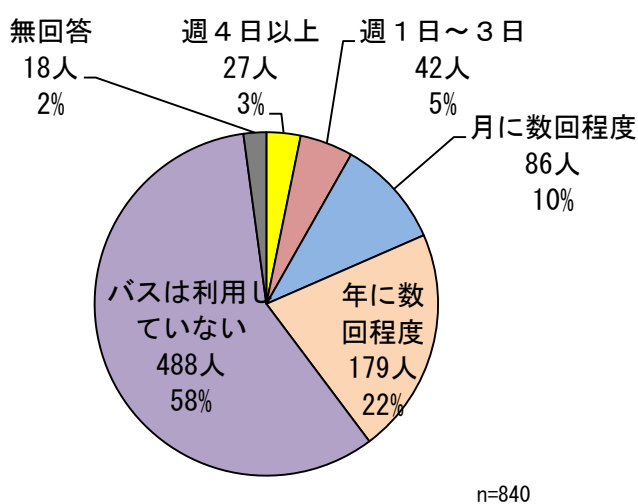
解答方法：「頻度」「目的」「乗り換えの状況」について該当する項目を 1 つだけ選択する単一解答設問

【バスの利用頻度】

<全市>

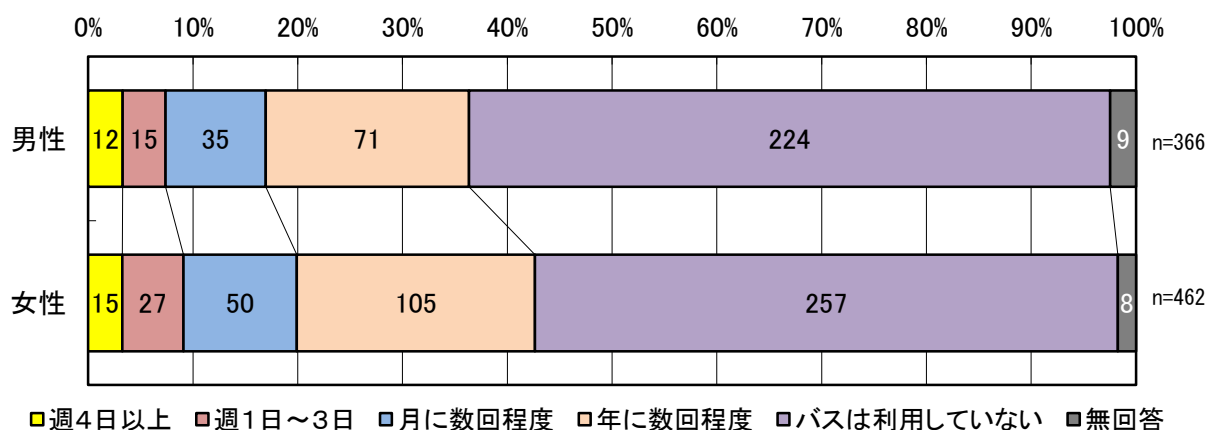
□「バスは利用していない」が 58%を占めた。

□バスを定期的にご利用している「週 4 日以上」「週 1～3 日」「月に数回程度」と答えた人は全体の 2 割に満たなかった。



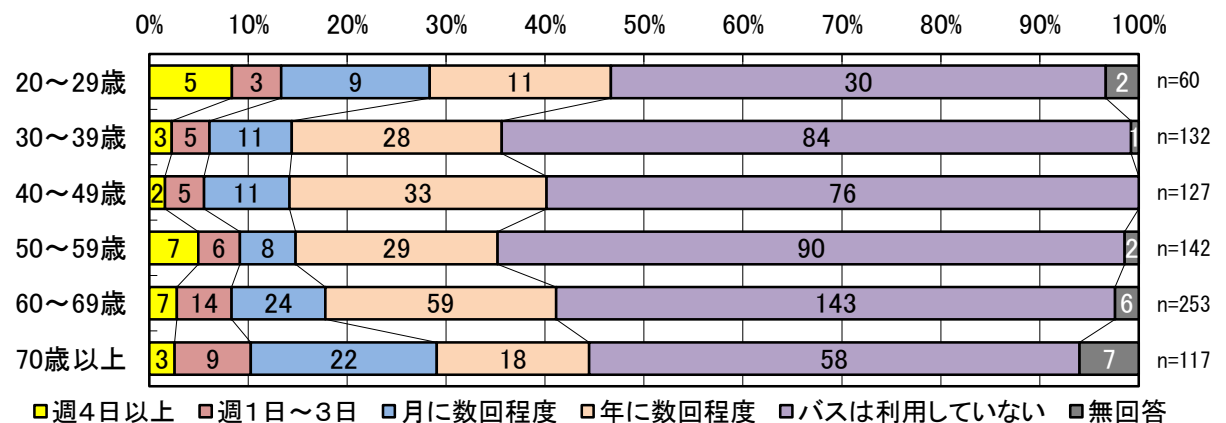
<性別>

□女性の方がバスを利用している。



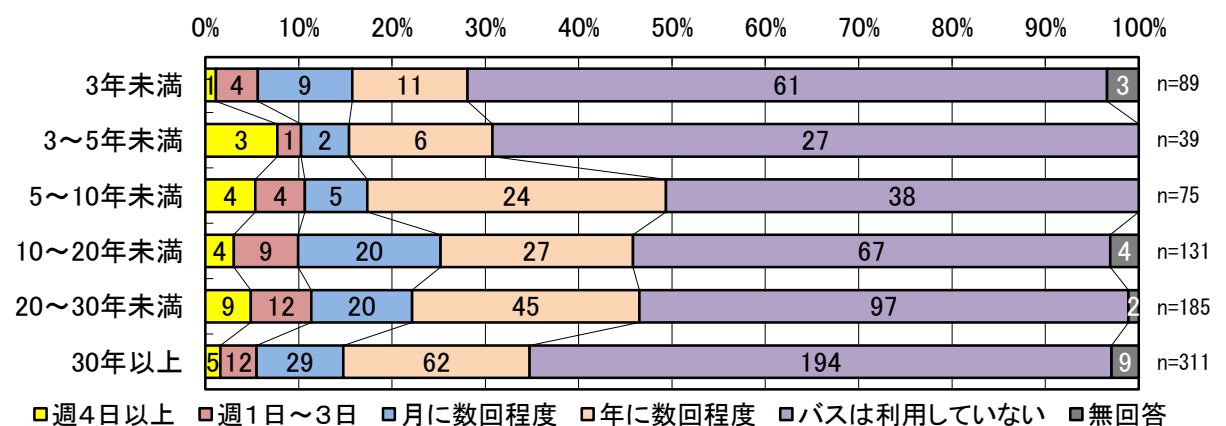
<年齢別>

□20代が最もバスを利用しているが、30代になると利用頻度が下がり、年齢が上がるとともに利用頻度が高くなる。



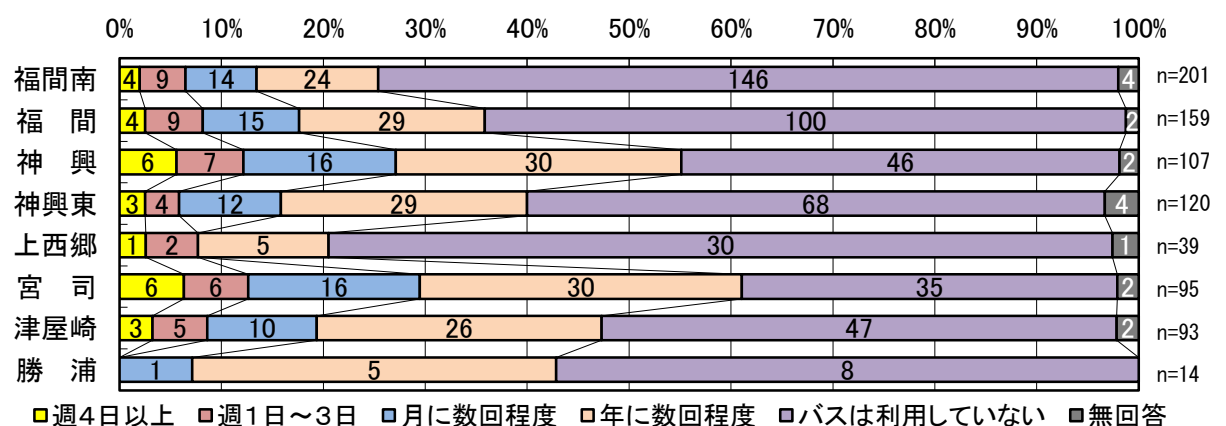
<居住年数別>

□居住年数5年未満と、居住年数30年以上の人のバスの利用頻度が低い。



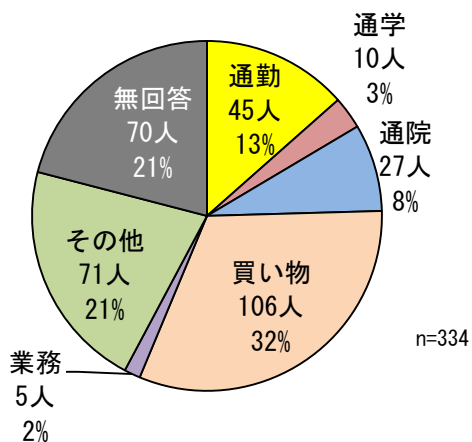
<地域別>

□神興地域と宮司地域でバスの利用頻度が高い。



【バスの利用目的】

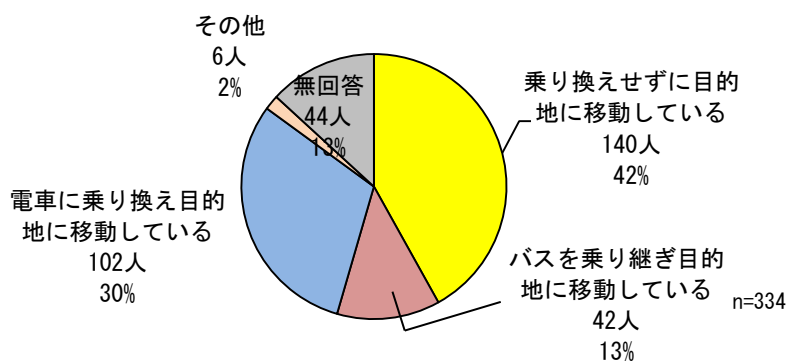
□バスの利用目的として「買い物」が最も多く、次いで「通勤」であった。



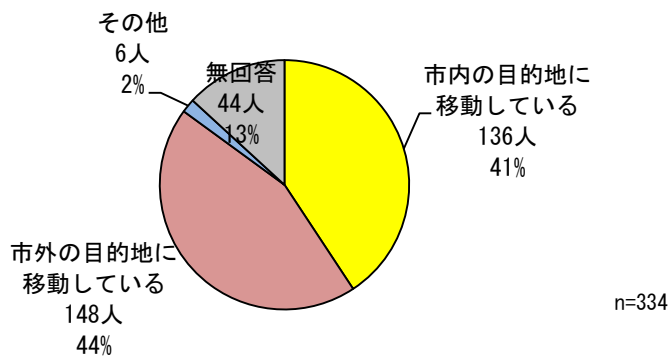
※この設問は、問 14-1<利用頻度>で「バスを利用している」と解答した 334 人のみを対象としており、回答者が少ないため年齢別や地域別などの解析は実施していない。

【バスの乗り継ぎの状況】

□「乗り換えをしない」が最も多く、次いで「バスから電車に乗り換えている」が多かった。



□目的地は「市内」41%と「市外」44%と、大きな差は見られなかった。



※この設問は、問 14-1<利用頻度>で「バスを利用している」と解答した 334 人のみを対象として

おり、回答者が少ないため年齢別や地域別などの解析は実施していない。

(3) バスの利用拡大に向けた改善策

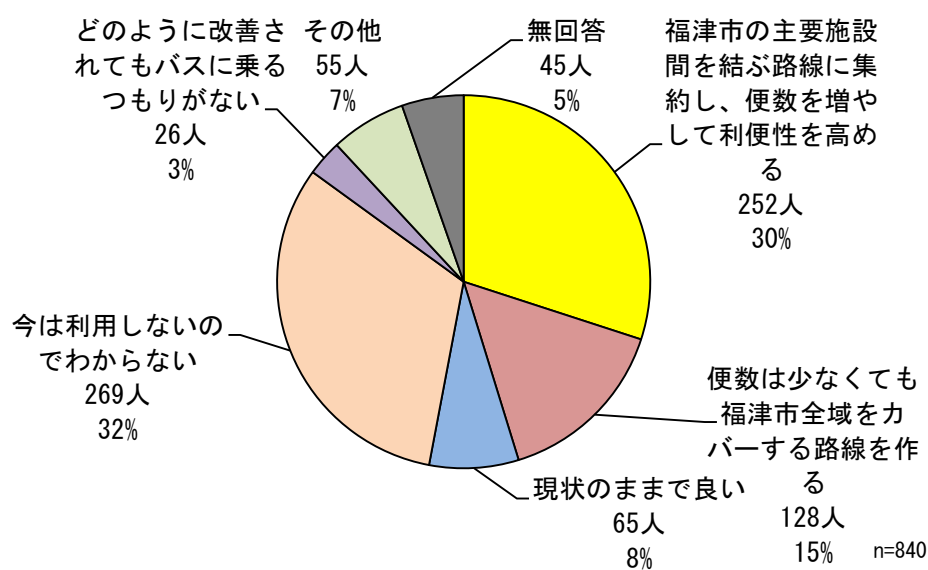
設問番号：問 14-2

目 的：バスの利用拡大に向けた改善策についての意向を把握する。

解答方法：改善策を 5 項目示しそのうち 1 つだけ選択する単一解答設問

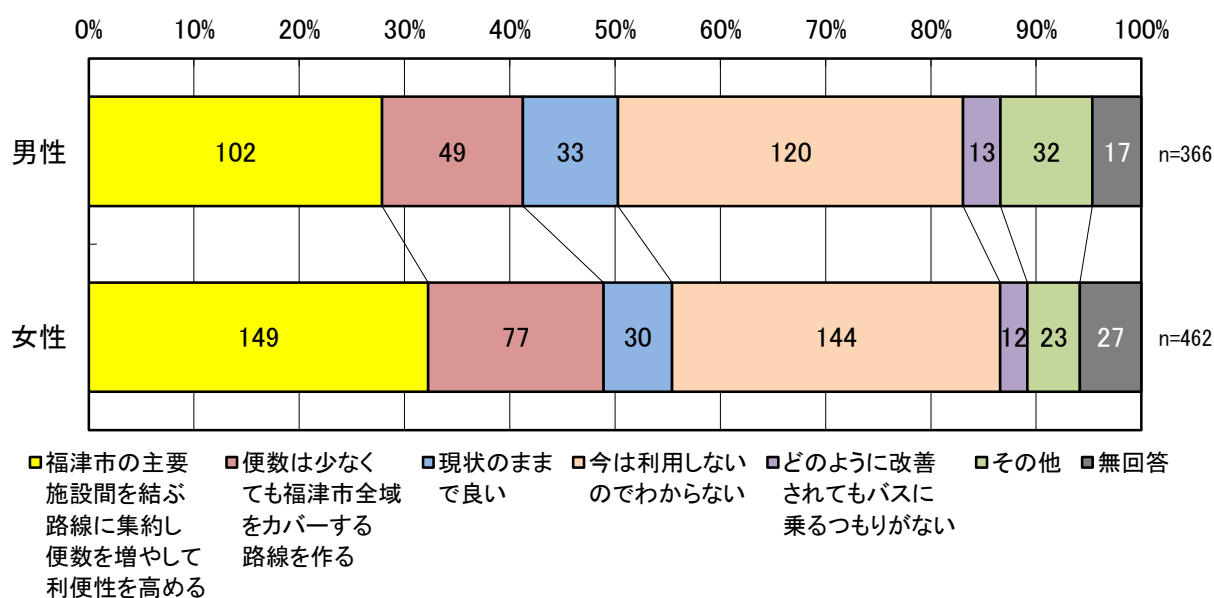
<全市>

□「利用しないのでわからない」以外では、「主要施設にバス路線と便数を集約する」が最も多かったが、正反対の方針である「便数は少なくとも福津市全域をカバーする路線を作る」が次いで多かった。



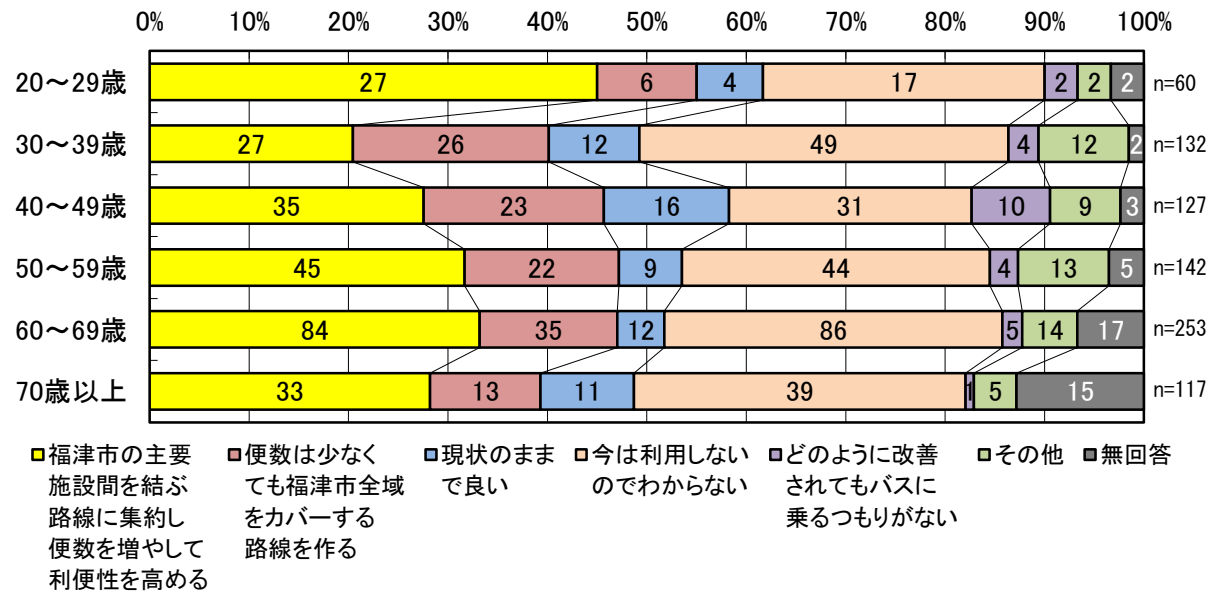
<性別>

□女性の方が「主要施設にバス路線と便数を集約する」や「便数は少なくとも福津市全域をカバーする路線を作る」の割合が高かった。



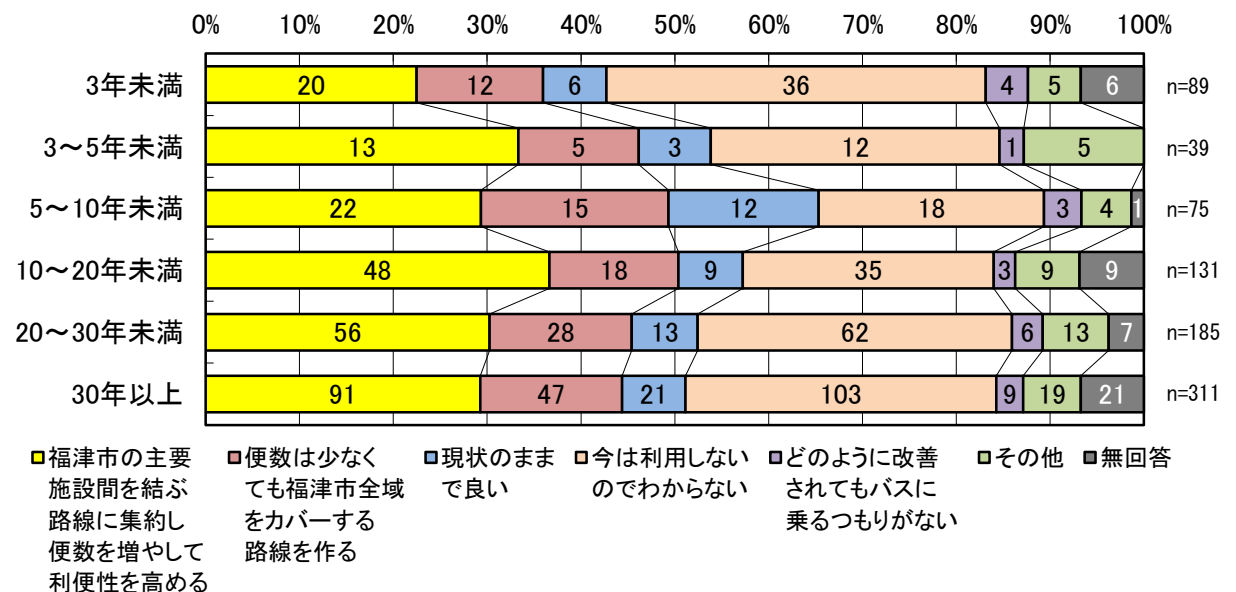
<年齢別>

□20代は「主要施設にバス路線と便数を集約する」の割合が多い。



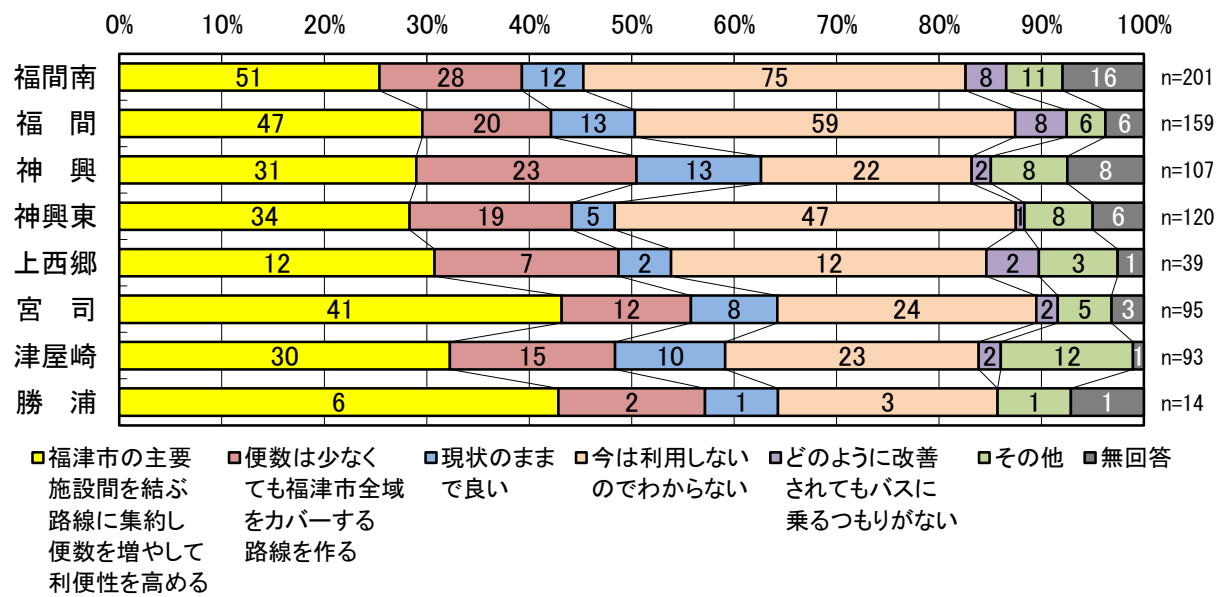
<居住年数別>

□居住年数が短い3年未満の人は「今は利用しないのでわからない」の割合が高かった。



<地域別>

□宮司地域と勝浦地域で「主要施設にバス路線と便数を集約する」が多い。



2-7.土地利用の規制

(1) 土地利用規制に対する印象

設問番号：問 15-1

目 的：現在の土地利用規制状況を説明し、それを踏まえ土地利用規制に対する印象を把握する

解答方法：6 項目を示しあてはまるものすべてを選択する複数解答設問

<全市>

- 「地域性の違いもあり、特に不公平感を感じられない」という意見が最も多いが、「一体化が促進されない」「不公平感が高まる」「住環境が悪化する」「自然環境が悪化する」など、現在の土地利用規制の状況を否定的に捉える意見を併せると、全体の 6 割を超える。
- 前回調査では「都市の一体性に欠け、市の一体化が促進されない」や「規制の緩い地域では、乱開発などにより自然環境が悪化する」という意見が多かったが、福津市が合併して約 10 年が経過したことにより、2 つのこととなる都市計画を持つことによる不安感は若干薄れてきている。

今回 (H27)

都市の一体性に欠け、市の一体化が促進されない

土地の活用にあたって不公平感が高まる

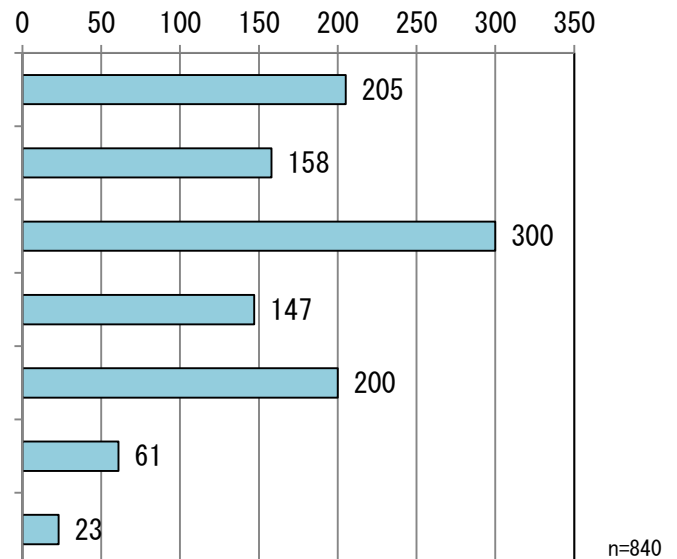
地域性の違いもあり、特に不公平感を感じられない

規制の緩い地域では、無秩序な建築などにより住環境が悪化する

規制の緩い地域では、乱開発などにより自然環境が悪化する

規制が緩い地域には建築物が建ち、地域の活性化につながる

その他



前回 (H17)

都市の一体性に欠け、市の一体化が促進されない

土地の活用にあたって不公平感が高まる

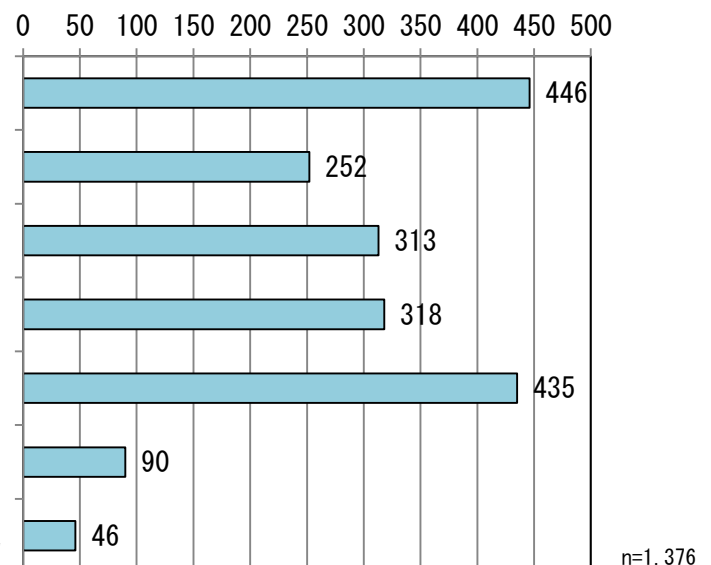
地域性の違いもあり、特に不公平感を感じられない

規制の緩い地域では、無秩序な建築などにより住環境が悪化する

規制の緩い地域では、乱開発などにより自然環境が悪化する

規制が緩い地域には建築物が建ち、地域の活性化につながる

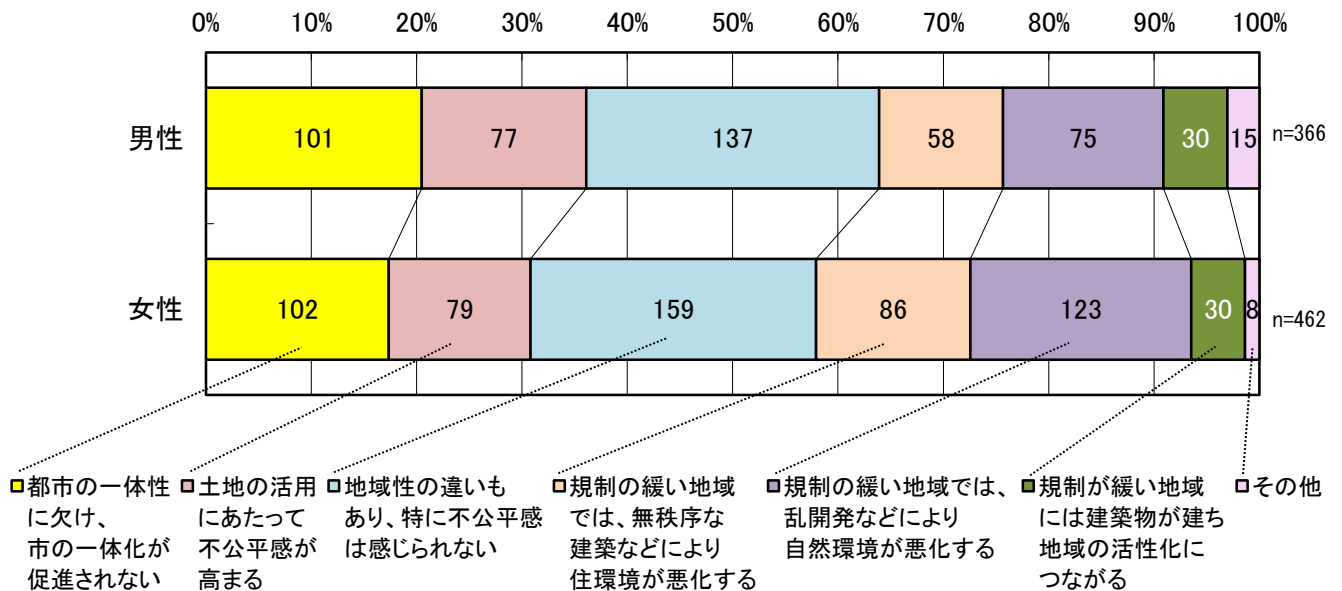
その他



<性別>

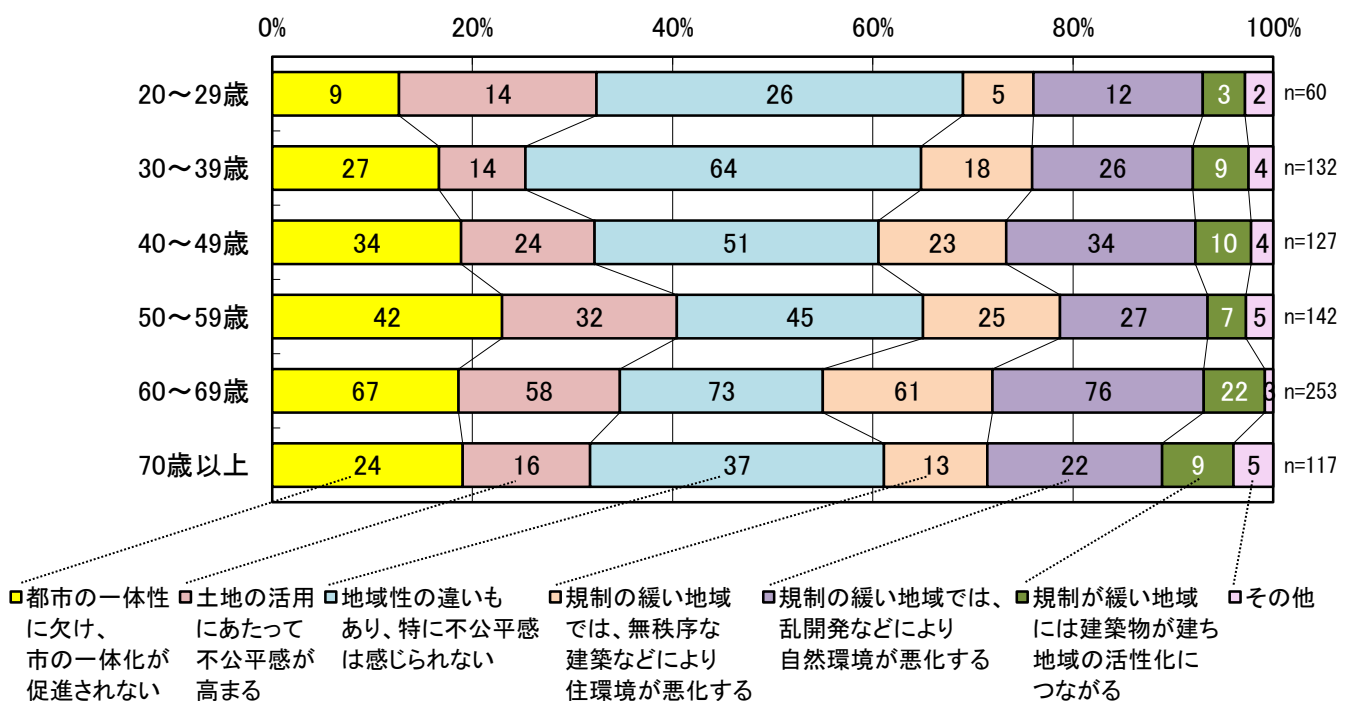
□男性の方が「都市の一体性に欠ける」「不公平感が高まる」の割合が高い。

□女性の方が「規制が緩い地域の自然環境が悪化する」の割合が高い。



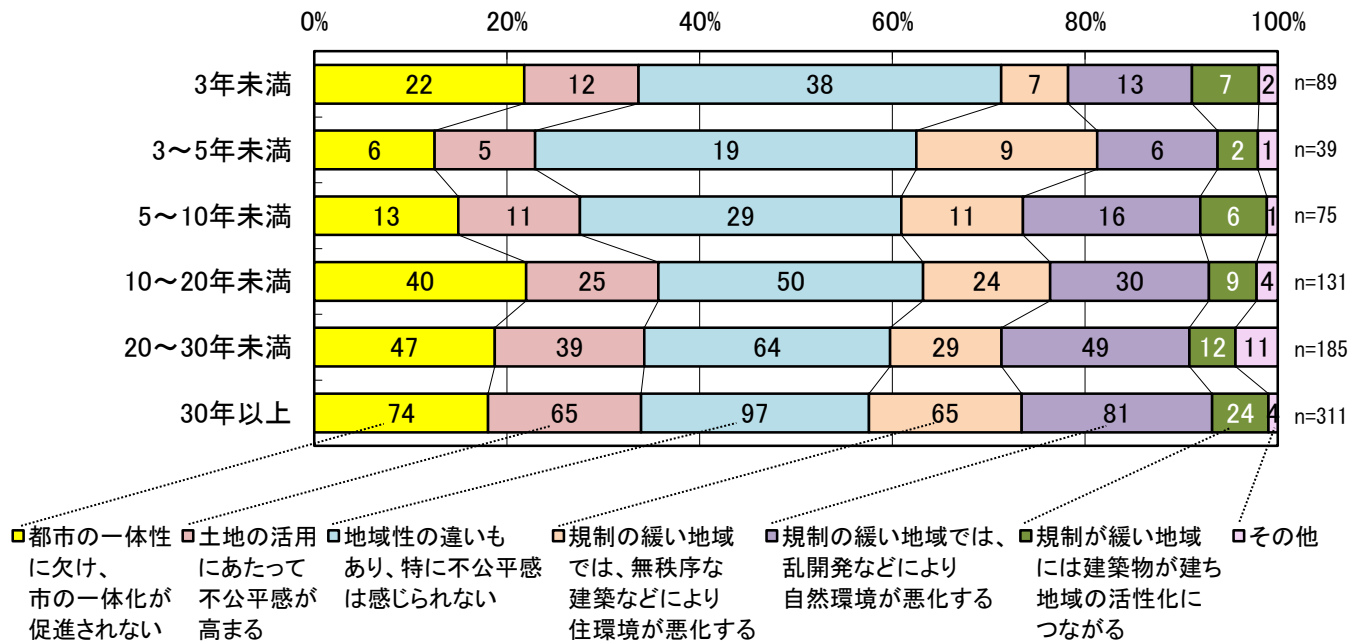
<年齢別>

□60代以外では「地域性の違いもあり、特に不公平感を感じられない」の割合が最も高いが、60代では「規制が緩い地域の自然環境が悪化する」の割合が最も高い。



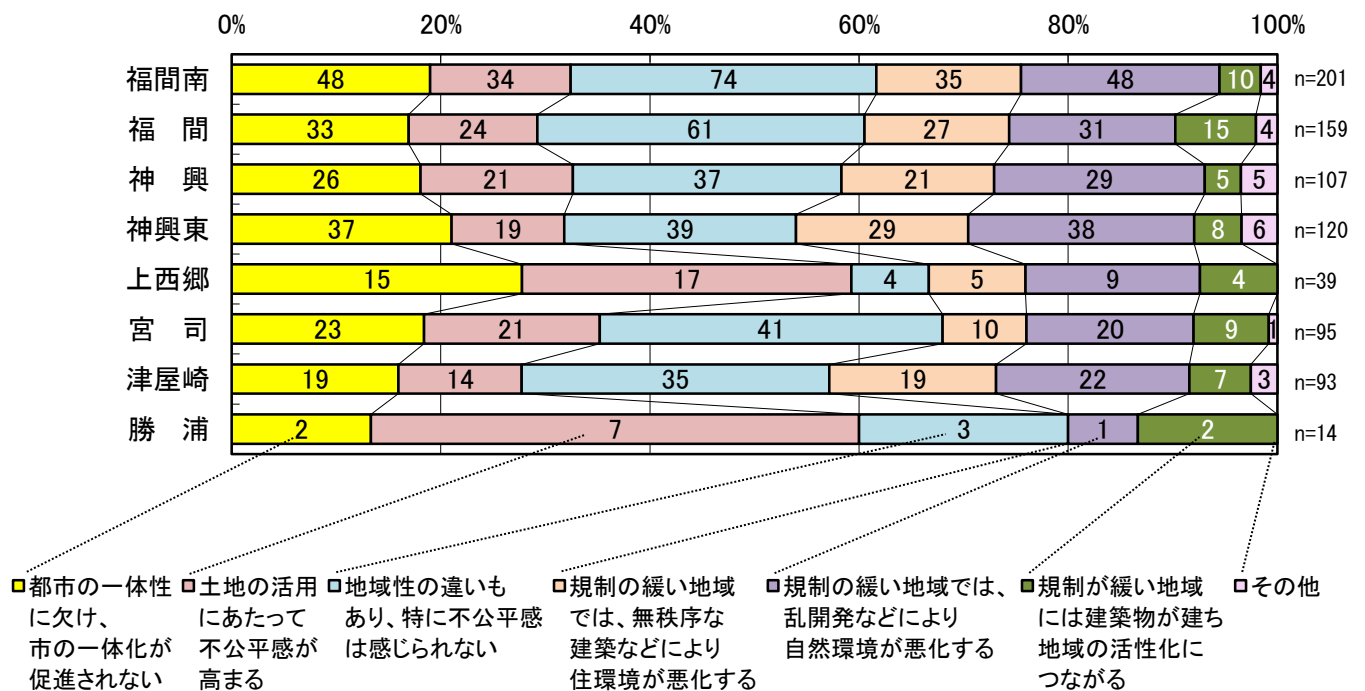
<居住年数別>

□居住年数が短い人ほど不公平感を感じていない。



<地域別>

□準都市計画区域を持つ上西郷地域と勝浦地域で「土地の活用の不公平感が高まる」の割合が高く、「地域の不公平感を感じられない」の割合が低い。



(2) 福岡都市計画・津屋崎都市計画をどうすべきか

設問番号：問 15-2

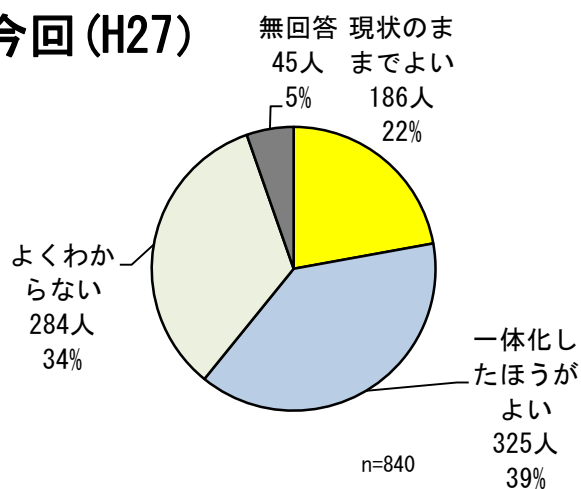
目 的：都市計画の枠組みをどうすべきかすべきか（一体化すべきか、現状維持か）意向を把握する

解答方法：1 項目のみ選択する単一解答設問

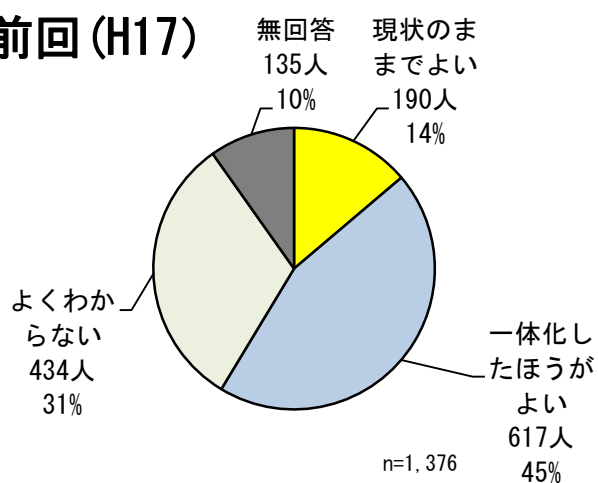
<全市>

- ☐ 「一体化した方がよい」という意見が最も多い。
- ☐ 前回調査より、「現状のままでよい」の割合が増えている。

今回 (H27)

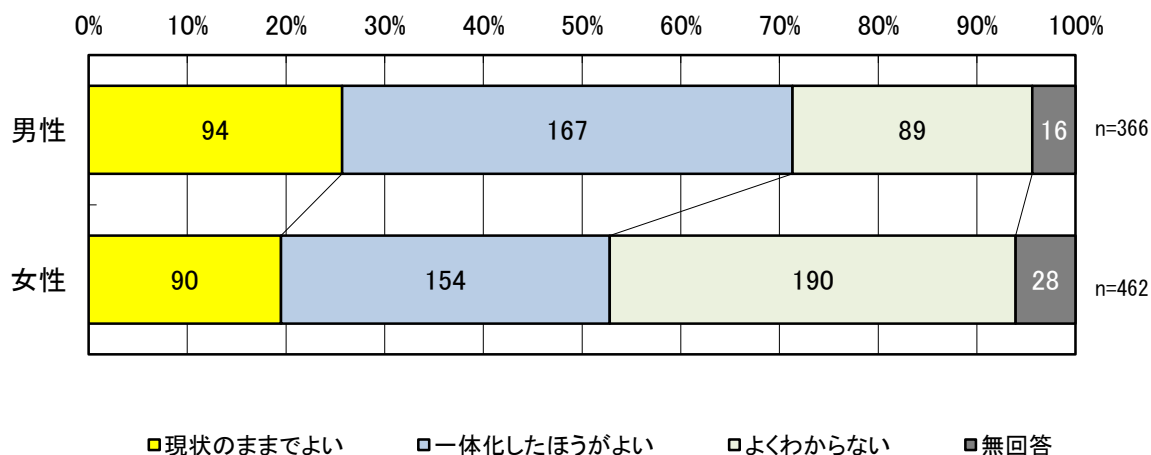


前回 (H17)



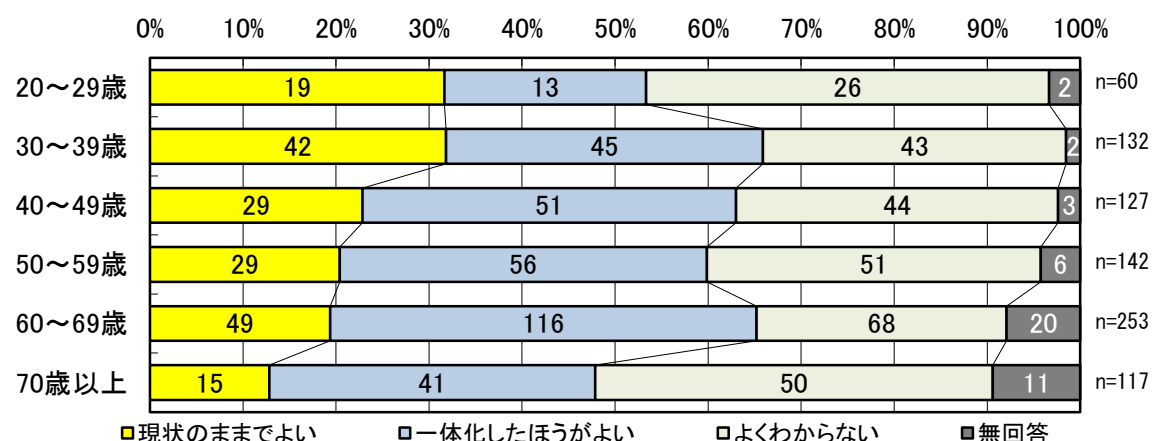
<性別>

- ☐ 男女ともに「現状のままでよい」よりも「一体化した方がよい」という意見が多い。
- ☐ 男性の方が「一体化した方がよい」の割合が高い。
- ☐ 女性の方が「よくわからない」の割合が高い。



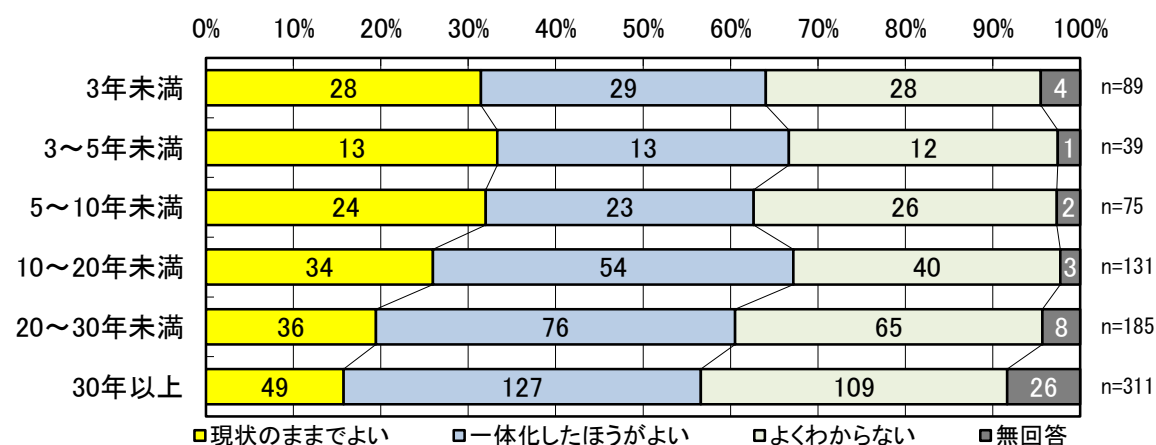
<年齢別>

□若い世代は「現状のままでよい」の割合が高い。



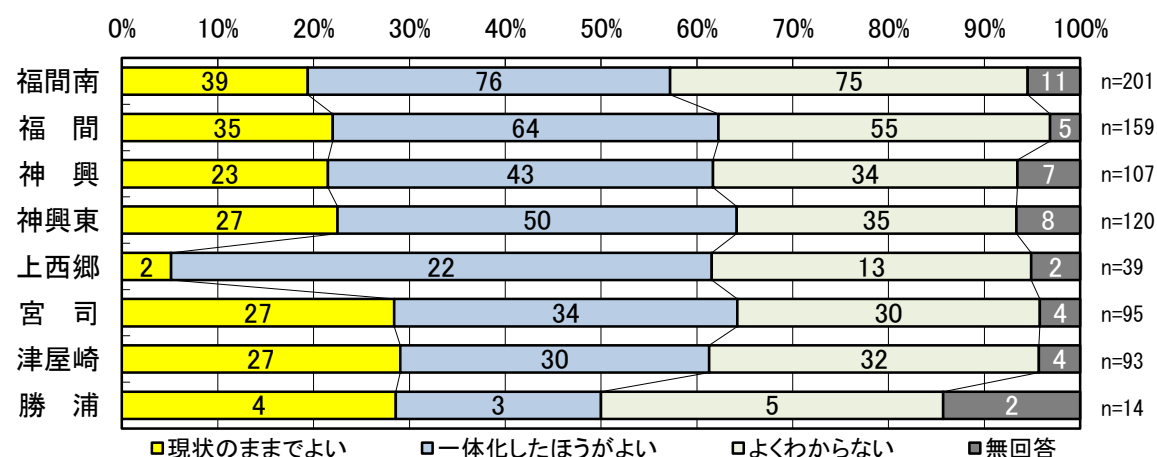
<居住年数別>

□居住年数が長い人は、「一体化したほうがよい」が多い。



<地域別>

□上西郷地域で「一体化したほうがよい」の割合が高い。



(3) 土地利用規制にどう取り組んでいくべきか

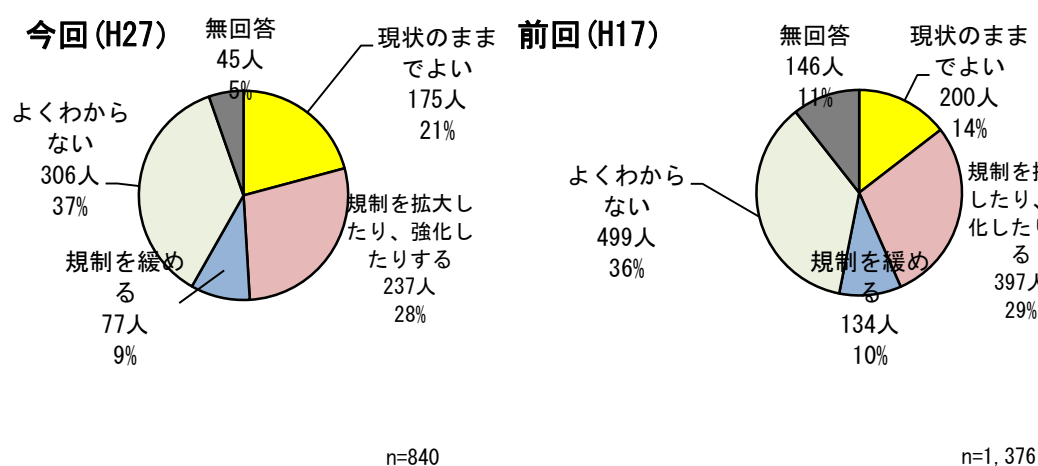
設問番号：問 15-3

目 的：土地利用規制にどう取り組んでいくべきか意向を把握する

解答方法：1 項目のみ選択する単一解答設問

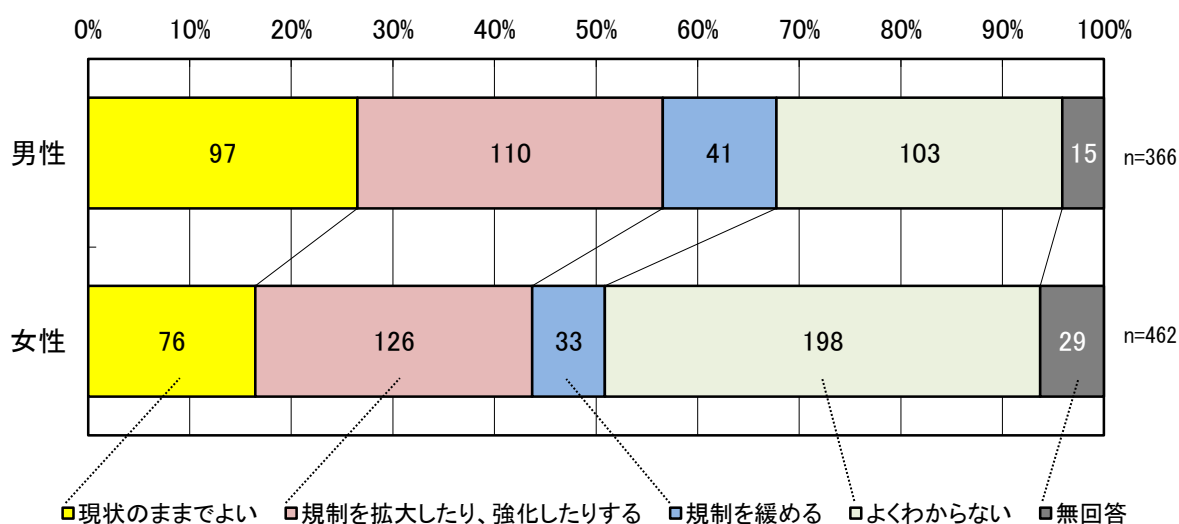
<全市>

- ☐ 「よくわからない」という意見が最も多い。
- ☐ 「よくわからない」を除くと「規制を強化する」意見が最も多く、次いで「現状のままでよい」という意見が多かった。
- ☐ 前回調査より、「現状のままでよい」の割合が増えている。



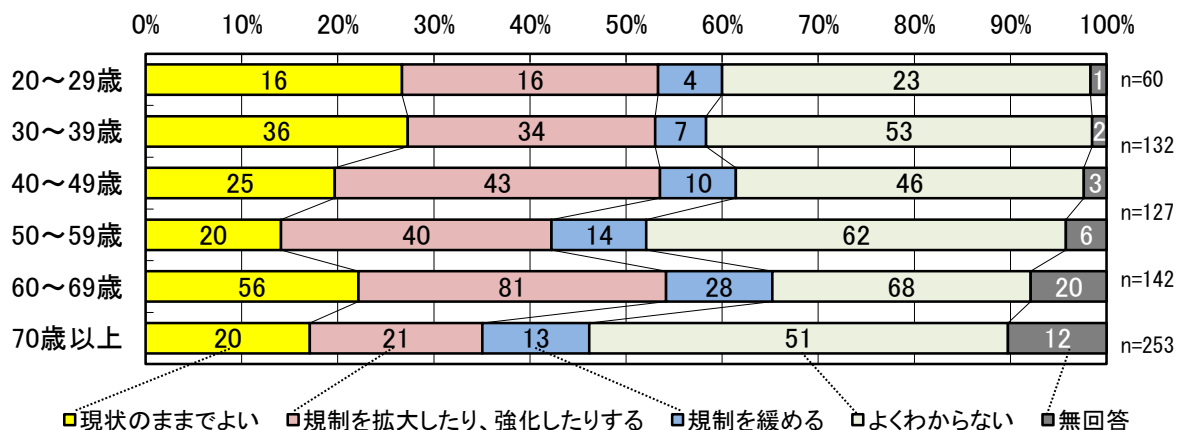
<性別>

- ☐ 女性の方が「よくわからない」の割合が高い。



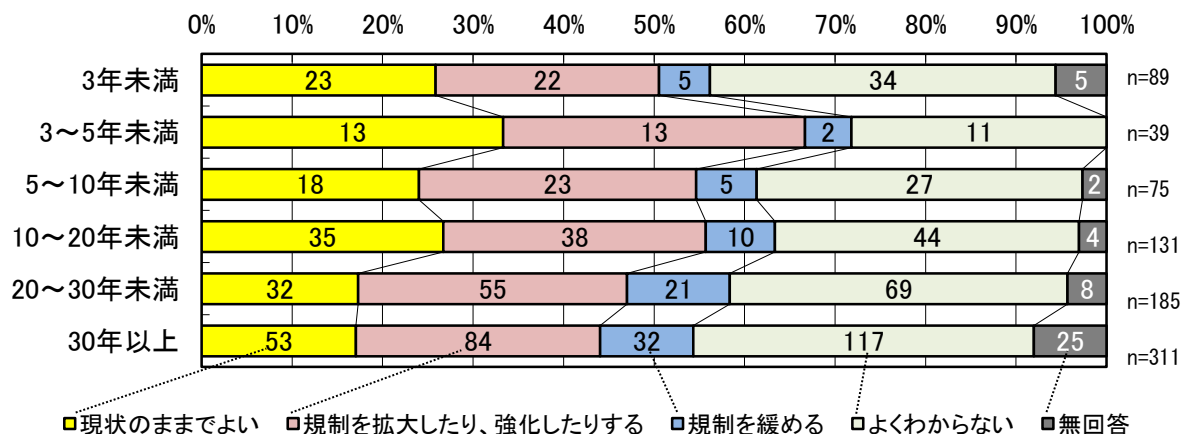
<年齢別>

□若い世代は「現状のままでよい」の割合が高い。



<居住年数別>

□「規制を拡大したり、強化する」の割合が最も高いのは居住年数3~5年未満で、「現状のままでよい」の割合が最も高いのも居住年数3~5年未満である。



<地域別>

□上西郷地域で「規制を緩める」の割合が高い。

